

四個星期中華國語

陸軍大學教授 宮島吉敏著

支那語四週間

東京大學書林刊行

緒 言

支那語とは支那民族の語であることは言ふ迄もないが、併し其民族中には漢人種、滿洲人種、蒙古人種、回教人種、西藏人種等各種族があり、各自特有の語を有するのであるから、一概に之を取扱ふことは出来ない。

今日の所謂支那語なるものは、漢人種の使用して來たものに、多少外來語を加味したものである。併し其漢人種の語とて、北京、山東、上海、南京、湖南、湖北、寧波、福建、廣東といふ如く、各地に各方言があり各々發音を異にしてをり、本國人ですら他郷の語は通曉し難いとさへ言はれた時代もあつたのである。

併し今日は交通の便があり、各地相互の往來は頻繁となつたため、茲に自然に共通語の必要が感ぜられ、國音統一とか或は語言一致とかが唱導される様になり、遂に國人何人にも通ずる國語として首都（當時北京）の音を標準とすることゝなつた。

我國に於ける支那語學習も、之が爲め多くは北京音を標準としてをるのであるから、本書も之に倣はうと思ふのである。世の中には往々支那は地方に依つて語言は一様ではなく、北京語を習得しても、南方では全く役に立たないと言ふ人があると聞いてゐる。是れ一知半解の言であつて、誠に世人を惑はすものである。南北語言を異にすと言つても、是れ單に氣候風土の関係によつて、其發音を異にするに過ぎないので、語の組織構造に於ては何處に行つても共通であり（蒙古西藏は例外）單語とて大差あるものではない。故に若し一地方の語を熟習したならば、他地方の語は日を

出でずして了解することが出来るのである。

外交に、經濟に、日支の關係益々緊密を加へ行く今日、國民相互の連鎖となる支那國語を習得するは吾人の義務である。諸君幸に倦まず飽かず努力研究し、他日の用に應ぜられんことを編者は衷心切望する次第である。

編 者 誌 す

目 次

第一週	1
第一日	3
發音	
二十四聲母(4) — 介母(6) — 韻母(7)	
第二日	9
發音	
四聲(9) — 四聲練習(10) — 重念(11) — 重念練習(12)	
— 練習問題(13)	
第三日	14
基本文章	
第一課(數詞)(14) — 第二課(助數詞)(14) — 第三課(指示形容詞)(15) — 第四課(人稱代名詞)(15) — 第五課(場所の副詞)(15) — 第六課(有沒の用法)(16) — 第七課(的の用法)(17) — 練習問題(18)	
第四日	20
基本文章	
第八課(時の副詞)(20) — 第九課(完了形と場所の前置詞)(21) — 第十課(形容詞)(22) — 第十一課(格と配語法)(23) — 練習問題(24)	
第五日	26
基本文章	
第十二課(完了形と進行形)(26) — 第十三課(自動詞)(27) — 第十四課(受動及び使役の助動詞)(28) — 第	

十五課(方法を意味する助詞の用法)(30)——練習問題(31)

第六日 33

基本文章

 第十六課(場所、位置、方向の前置詞)(33)——第十七課
 (動詞と補足語とを連絡する分詞)(35)

第七日 37

基本文章

 第十八課(否定詞不、沒、別の用法)(37)——練習問題
 (38)——第十九課(動詞と形容詞の連用法)(40)——第二
 十課(回数、九分量、時間を表はす語の位置)(41)——練
 習問題(41)

第二週 43

第八日 45

基本文章

 第二十一課(動詞の下添語)(45)

第九日 49

基本文章

 第二十二課(動詞の意義を確定する助動詞)(48)——練
 習問題(51)

第十日 53

基本文章

 第二十三課 動詞及び形容詞を名狀する副詞)(53)

第十一日 58

基本文章

 第二十四課(疑問句の構成)(58)——第二十五課(半疑
 問句の構成)(61)——練習問題(62)

第十二日 63

基本文章

 第二十六課(無條件副詞)(64)——練習問題(65)——
 第二十七課(接續詞)(66)

第十三日 68

基本文章

 第二十七課(接續詞續き)(68)

第十四日 72

基本文章

 第二十八課(語尾の助字)(72)——第二十九課(感嘆詞)
 (73)——練習問題(75)

第三週 77

第十五日 79

白話篇

 第一 讀書要緊(79)——第二 禽獸不如人(79)——第
 三 快起來看(80)——第四 柳樹和黃鶯(81)——第五
 蠶豆花(82)——第六 桃樹開花(82)——第七 枇杷
 (83)——第八 種桑樹(83)——練習(84)

第十六日 86

白話篇

 第九 爲什麼養蠶(86)——第十 衣服的材料(86)——
 第十一 布店招牌(87)——第十二 我家的人(83)——
 第十三 城外的風景(89)——練習(89)——第十四 我
 家的屋子(91)——第十五 鄰居和睦(92)

第十七日 93

白話篇

第十六 門窗朝東(93)——第十七 放羊歌(93)——第十八 家畜(94)——第十九 無愧於心(95)——第二十 農夫(96)——第二十一 應該勞動(97)——第二十二 我是牛(98)——練習(99)

第十八日 100

白話篇

第二十三 今日事今日畢(100)——第二十四 時辰鐘(101)——第二十五 陶侃故事(102)——第二十六 青年不再來(103)——第二十七 春景(105)——第二十八 菊花(106)——第二十九 桂樹(106)——練習(107)

第十九日 108

白話篇

第三十 歲寒三友(108)——第三十一 字(109)——第三十二 筆(110)——第三十三 紙(111)——第三十四 兵器(111)——第三十五 萬里長城(112)——第三十六 沙漠(113)——第三十七 發明造船(114)——練習(115)

第二十日 116

白話篇

第三十八 衣服(116)——練習(117)——第三十九 人的住處(119)——練習(120)——第四十 生食熟食(121)——練習(122)——第四十一 國土寶貴(123)——練習(124)

第二十一日 124

白話篇

第四十二 中國地形(124)——第四十三 長江(125)——練習(126)——第四十四 黃河(127)——練習(128)——第四十五 上海漢口(128)——第四十六 火輪車(129)

第四週 133

第二十二日 135

白話篇

第四十七 福特車廠(135)——練習(136)——第四十八 煤和鐵(136)——第四十九 銅和鐵(137)——第五十 銅的自述(138)——第五十一 大冶鐵礦(140)——練習(142)

第二十三日 143

白話篇

第五十二 景德鎮(143)——練習(145)——第五十三 羊毛(145)——第五十四 棉花(147)——練習(150)

第二十四日 151

白話篇

第五十五 提倡國貨(151)——第五十六 商戰(153)——第五十七 徐伯林(156)——練習(158)

第二十五日 159

白話篇

第五十八 旅行的樂處(159)——第五十九 西湖白話詩(161)——第六十 蘇羅門王(163)——第六十一 共同生活(165)

第二十六日 167

白話篇

第六十二 我沒吃燒餅(167)——第六十三 人的解釋(169)——第六十四 語言(170)——第六十五 陶侃故事(173)——練習(173)

第二十七日	175
白話篇	
第六十六 時間(175)——第六十七 須有毅力(177)——	
第六十八 錢的自述(180)——練習(183)	
第二十八日	184
白話篇	
第六十九 奇異的銅便士(184)	
附 錄	191
會話篇	193
時文解釋	209
尺牘(書簡文)	231
北京音全表(折込)	

第 一 週

第 一 日

發 音

支那語の發音は大別して音と韻とに分れる。音とは音を發せんとする時の口の動作であつて、即ち口を開いて第一に出る音をいひ、他の語學に於ける子音に相當するものである。韻とは音に續いて出て來る聲であつて、即ち普通にいふ母音である。又母音には更に其聲を上げたり、下げたり、太く引いたりすることがあるが、之を四聲又は五聲といひ、これは支那語の獨特なる音で、他の外國語には無いものである。故に漢字の一字は音韻聲に依つて成立してゐるのである。

從來支那にては日本の如き假名は無く、反切といつて、他の字を合せて其字の音を示したのがある。例へば玉といふ音は魚欲の切と示してゐる。誠に不便少なからざるものである。歐米人は各自羅馬字等を以て之を表はしてゐるのであるが、これも初學の際は中々覚え悪いものである。支那に於ても一般の智識を向上するためには簡易なる音標文字を作り、我國の假名の如き働を爲さしめんと企て、幾多討論の結果漸く注音字母といふものを決定し、之を一般に普及する趣旨を以て、各教科書の漢字の傍に振假名式に之を書き込むこととなつた。勿論科學上より見れば、まだ研究の餘地が無いでもないが、單に一つの便法と見れば之れだけでも充分に事は足りるのである。本書も其注音字母を借り、之に對する假名遣を約束し、發音練習の用に供すると共に、本文に入り

ては讀法の便にしたいと思ふのである。

注音字母 注音字母は二十四聲母、十二韻母、三介母に分れてゐる。聲母は所謂子音であつて、最初に出る音、韻母は即ち母音で、聲音の次に續いて出る聲である。介母は聲母と韻母の間に介在して兩母を繼ぐ音をいふ。但し介母は時に依つては聲母の働きを爲し、又時には韻母の用を爲すことがある。

二十四聲母

雙唇音(或重唇音)

ㄅ・ポー(無氣音) バビブベボの音を有する。無氣音とは口の動作を緩やかにし、發する際音に抵抗を與へないやうにする音をいふ。故に**ポー**は多少**ポ**に近く聽える。——p

ㄆ・ポ(有氣音) は口の動作を強くし音を噴き出す如く發する音である。——p'

ㄇ・モー マミムメモの音を表はす。——m

雙唇音は上下唇を閉ぢたる後、其間より迸出する音をいふ。
ㄇ音は鼻音を帯びる。

唇齒音

ㄈ・フー 本字母はフア・フオ・フエイ等の音を表はす。——f

ㄨ・ウー 本字母はウエイ等の音に使用するものであるけれども、多くは介母のㄨ母を用ふることが多い。——w

唇齒音は又輕唇音ともいふ。ㄈ母(フー)は下唇と上齒とを軽く摩擦して發し、ㄨ母(ウー)は下唇を稍々外方へ押し出すやうにして發する。

ㄒ・ト(無氣音) タテ、ト、テトの音を表示し、無氣音であ

るが故に口を緩やかに動かし、濁音に聽ゆるやうに發音する。——t

舌尖音

ㄊ・ドー(有氣音) タテ、ト、テトの音を表はし、口を強く動作し、息を噴き出すやうに發音する。——t'

ㄋ・ナー ナニヌネノに屬する音で、稍々鼻音を帯びる。——n

ㄌ・ロー ラリルレロに屬する音で、舌を上顎に捲込んだ後に、之を伸ばして發音する。——l

舌根音

ㄍ・コー(無氣音) 息を噴き出さない音であるから、ガギグゲゴに近き音を發する字母である。——k

ㄎ・ゴ(有氣音) カキクケコに屬し、尙一層息を強く吐き出す。——k'

ㄍ・ゴ(北京には此音が無い。——g)

ㄏ・ホー ハホ、ヘホに屬す。——h

ㄍは舌根と軟口蓋と相壓迫して發し、ㄎは鼻音を帯ぶ。

ㄏは喉頭と軟口蓋とを相摩擦して發音する。

舌尖音

ㄑ・チー(無氣音) 無氣音であるからチのやうに濁音に近く發音する。——tç

ㄑ・ヂー(有氣音) 五十音中のチに屬し、更に息を強く發音する。——tç'

ㄒ・ニー ㄋの部類に入れても差支へないものがあるけれども、分類上單に一字母となる。——n

ㄒ・シー シに相當する字母である。——ç

ㄑは舌面と硬口蓋と相摩擦として發音し、ㄒは鼻音を帯び、ㄒは氣息を摩擦して發音する。

なる。——ai

ㄨ・エイと發音す。ペイ、メイ、フエイ、レイ、ケイの音尾に屬する。——ei

ㄨ・アオと發音す。バオ、アオ、タオ、ラオ、ナオ、カオに屬する。
——ao

又・オウに發す。ポウ、モウ、フウ、トウ、チウ、シウの音尾である。——ou

ㄨ・アン_ナ窄音であり、鼻音の_ンを強く鼻より出さず、恰もア_ナに近く發音する。口を廣く開かないから故に、窄音といふ。——an

ㄨ・エン_ナ(窄音)ンを發する要領は前者と同様である。——en

ㄨ・ア_ナ廣音)鼻音の_ンを充分鼻より出し、ングと響かすものにて、口を廣く動作するに因り寬音といふ。——ang

ㄨ・ㄨ_ナ(寬音)半開口音を發すると同時に_ンを強く響かす音である。——ang

ㄨ・ㄨ_ナ北方に於て多く使用する音にして、半開口音のㄨを發すると同時に舌を上顎に捲き上げる音である。但しㄨㄨㄨㄨレ_ハの如く舌の先を上顎に於て撥てはならない。單に捲上げるに過ぎないのであつて、中々困難なる音である。——er

以上を複韻母と稱する。

上述の音を種々結合して一語を形成するのである。但し以上の各音は現在の日常語に使用する爲めの音標文字に過ぎないものであることを注意して置く。茲に更に面倒なることは、韻母には北方語では四種類の聲の上げ下げがあり、之を四聲と稱する。

北京音全表

名稱(母音)				單母音						複母音				附聲母音				變化母音	
國際音標文字	威爾斯文字	中國音標文字	威爾斯文字	i	u	y	a	o	ə	ai	ei	au	ou	an	ən	aŋ	əŋ	er	
名稱(子音)	國際音標文字	威爾斯文字	中國音標文字	一	烏	韻母 yu	啊		訛	愛		模	歐	安	恩	昂	呼	二	
雙唇音	p	ㄅ	p	比	布		八	波		百	北	保	不	半	本	邦	崩		
.. (送)	p'	ㄅ'	p'	皮	餅		怕	破		派	佩	砲	倍	盼	盆	胖	朋		
.. (鼻)	m	ㄇ	m	米	木		馬	墨		買	美	毛	某	滿	門	忙	夢		
唇齒音	f	ㄈ	f		府		發	佛			費		否	飯	分	方	風		
	v	ㄨ																	
舌尖音	t	ㄊ	t	地	杜		大	多	德	帶	得	道	豆	丹		當	等		
.. (送)	t'	ㄊ'	t'	提	土		他	妥	特	太		討	頭	談		堂	疼		
.. (鼻)	n	ㄋ	n	你	奴	女	拿	挪		奈	內	腦	糯	男	嫩	囊	能		
..	l	ㄌ	l	力	鹿	呂	拉	羅	勒	來	累	老	落	藍		郎	冷		
舌根音	k	ㄎ	k		固		嘎		個	該	給	告	狗	敢	根	剛	更		
.. (送)	k'	ㄎ'	k'		苦		哈		可	開		考	口	看	肯	康	坑		
.. (鼻)	ŋ	ㄥ	ng																
..	h	ㄏ	h		戶		哈		和	海	黑	好	後	漢	很	枕	橫		
舌前音	tʃ	ㄑ	ch	雞		局													
.. (送)	tʃ'	ㄑ'	ch'	七		政													
..	ɲ	ㄑ																	
..	ʃ	ㄑ	hs	西		許													
舌葉音	tʃ	ㄑ	ch	知 chih	住		詐	桌	道	簾	道	招	周	棧	真	張	鄭		
.. (送)	tʃ'	ㄑ'	ch'	吃 ch'ih	出		茶	發	車	柴		炒	袖	產	陳	常	成		
..	ʃ	ㄑ	sh	十 shih	書		抄		舌	諱		少	手	山	身	商	生		
..	ʃ	ㄑ	j	日 jih	入			弱	熱			擾	肉	然	人	讓	仍		
舌齒音	ts	ㄑ	ts	子 tzi	租		雜	作	則	在	賊	早	走	贊	怎	葬	增		
..	t's	ㄑ'	ts'	此 tzi'	租		擦	錯	冊	菜		草	湊	慘	岑	蒼	層		
..	s	ㄑ	's	四 esü	俗		撒	所	番	賽		掃	搜	三	森	森	僧		
計	24	24	22	7	11	10	6	18	14	14	17	11	18	19	10	16	19	19	1

結合母音 (其一)										結合母音 (其二)						結合母音 (其三)				計		
ia	io	ie	iaɿ	iau	iu	ien	in	iap	ip	ua	uo	uai	ui	uan	un	uag	ug	ye	yen	yn	iug	37
iy	iz	ie	iaɿ	iau	iu	ien	in	iap	ip	XY	XZ	Xɿ	Xɿ	Xɿ	Xɿ	Xɿ	Xɿ	ue	ue	ue	ue	”
ia	io	ieh	iai	iao	iu	ien	in	iang	ing	ua	uo	uai	ui	uan	un	uang	ung	üeh	üan	ün	iung	”
蔣 ya	崇 yo	也 yeh	涯 yai	要 yao	有 yu	煙 yen	殷 yin	樣 yang	英 ying	瓦 wa	我 wo	外 wai	危 wei	萬 wan	問 wen	王 wang	翁 weng	華 yüeh	袁 yüan	雲 yün	甲 yung	35
		別		表		邊	濱		兵												17	
		微		票		偏	貧		平												17	
		滅		穆	穆	面	聞		名												18	
																					9	
																					0	
		爹		棹	蚤	點			定			對	短	噴			東				21	
		鐵		條		天			聽			退	圓	吞			通				10	
	處	短		鳥	牛	念	您	娘	率				暖				農	處			24	
備	略	列		料	六	連	林	兩	零				亂	論			龍	略	戀	淋	28	
										掛	國	怪	貴	官	棍	光	工				19	
										誇	擴	快	虧	欸	困	沈	恐				18	
																					0	
										話	貨	壞	回	歡	學	荒	紅				19	
家	角	借		叫	九	見	金	江	京									決	眷	軍	窟	15
恰	却	且	措	巧	秋	千	欽	槍	諳									確	勸	群	窮	16
																						0
下		寫		小	修	現	信	想	姓									學	宜	訓	兄	14
										爪		棹	追	專	淮	裝	中					20
										欸		揣	吹	船	春	窓	虫					19
										刷	說	帥	水	松	順	双						18
												銳	軟	潤			容					14
												最	纂	羣			羣					17
												催	寢	存			從					16
												豉	算	損			送					16
5	5	11	2	11	8	11	9	6	11	7	5	7	13	15	14	7	14	6	5	5	4	400

發音表說明

- 1, 本表中縱列は子音、横段は母音。
- 2, 縱列第一行は發音名稱、送とあるは有氣音、鼻とあるは鼻孔より抜ける音。
- 3, 第二行は萬國音標文字。
- 4, 第三行は支那の假名字。
- 5, 第四行はウエード氏の發音綴字。
- 6, 横段第一段は發音名稱。
- 7, 第二段 萬國音標文字。
- 8, 第三段 支那の假名字。
- 9, 第四段 ウエード氏發音綴字。
- 10, 縱列と横段と合すれば其交叉點にある漢字の音となる。即ち支那音標文字のㄨと一とを綴れば此の音となるの類である。

第 二 日

四 聲 及 重 念 (調)

四聲 は分類して平聲、上聲、去聲、入聲とするのが普通であるけれども、北京語では入聲無く、平聲を上平、下平に分けて、これを四聲といひ、聲が高く揚がる、低く下がる等を意味する。併し各自勝手に高低することは出来ず、一字毎に必ず一定せる聲があるので、其聲を誤まれば他の意味となるのである。

漢字には同音の文字が多い爲め、この聲の區別に依つて各意味の相違を表示するものである。書物の記する所に據ると、古昔即ち夏商以前の時代には文字が少數であつたから、四聲なるものは無く、毛詩三百篇中には平、上、入の三聲あつて去聲無く、漢代に至つて或字は去聲に讀むべしとある。後益々變遷し其字の如きも漢魏の後に至りて去聲に變じ、蕭梁に至つて四聲は初めて完備したといふ。北宋時代には又平聲が上平、下平に分れたるため五聲となつた。其後浙江、福建、廣東では四聲を更に高下二様に分ち八聲となつたといふ。

北京に於ける四聲とは

上平 下平 上聲 去聲

をいふのである。今其聲の區別を説明しよう。

上平は聲を高下せず、平に發するもので「アンナニ遠イ」(東京語を標準とす)のアンの聲に相應する。

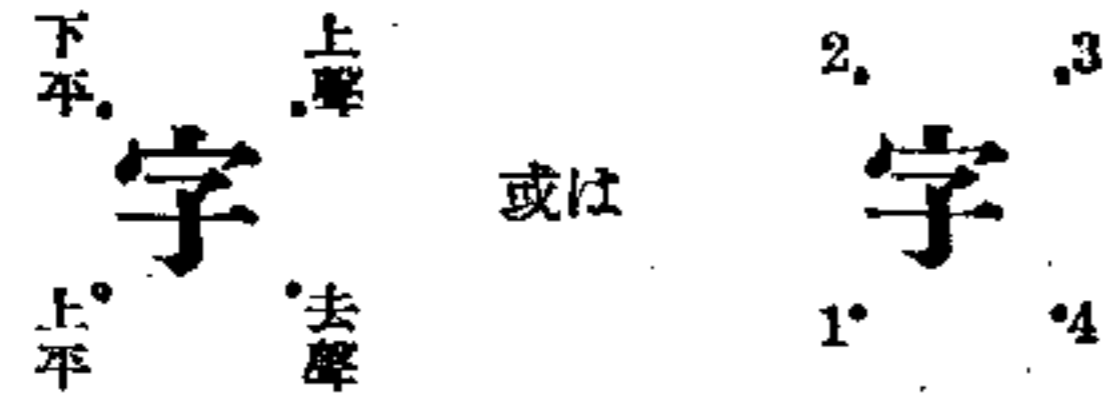
下平は聲を高く揚げるものをいひ、エ何?に於けるエの聲が稍々

近いやうである。

上聲は喉の奥から太き聲を發する時の音で、ウーンと云つて氣絶云々のウンに稍、似た音である。

去聲は下へ下げる聲で、餡子の^{あんこ}アンに相當する。

民國の人は生れながらにして知らず識らず會得して居るため別に四聲の符號等の必要は無いが、外國人にあつては一々記號を附けなければ容易に記憶し難い。その記號は字の角に圈點を附けることとしてある。即ち



の如くである、歐米人は聲の名稱を記憶することが困難であるため、一方に示せる如く 1 2 3 4 の數字を以て表示することにしてある。今日我國人も之に倣つて數字を用ふることが多くなつた。尙研究者の了解を容易くするため次に四聲を圖示することにする。



四聲練習

	上平(1)	下平(2)	上聲	去聲
ア	啊	啊	啊	啊
ラ	拉	刺	喇	蠟

ハシ	酣	寒	罕	漢
マオ	猫	毛	卯	帽
シイエシ	先	閒	險	現
チ、イ	摘	宅	窄	債

尙漢字には一字で二種以上の異なる意味を有するものがある。これ等は二個以上の聲によつて區別せられる。例へば

好 同しくハオの音にして上聲去聲の二種の聲がある。上聲好はヨシとの意味であり、去聲好はコノム意味である。

爲 一つのウェイの音であつて下平、去聲の二聲がある。下平爲は「爲ス」の意味、去聲爲は「爲メ」の意味である。

將 上平將は「率ユル」又は「マサニ」の意、去聲將は「大將」の意。

中 上平は上中下の「中」の意味となり、去聲は彈丸が「あたる」等の意味となる。

強 下平は強い意味、上聲は強ゆる意味である。

黒圈點は有氣音の記號とする。以上は同音異聲の一端に過ぎないけれども、之に依つて見ても、亦四聲が如何なる效用を持つものであるか明らかであらう。

チオングニエンヌ
重 念

重念とは二字以上の語に於て、何れかを強く發音することをいふ。凡そ一語或は一句中には必らず主要なる意味を有する個所があり、その個所は自然強調せらるゝは何れの國の語に於ても同様である。一句にあつては其場合に依つて重念を異にするけれども、名詞や單語に於ては何れを強く發音するかは一定してゐるので、若し強弱を誤れば甚だ聽き苦しく、甚だしきは意味を誤ることがある。誠に重念は輕視すべからざるものである。

重念の記號 實地に於ては調子の強弱は自然に會得せられるが、机上にあつては記號を以て表示しなければ了解し難い。話句中の重念は字の下位に一線を附して其記號とする。線(一)を附された字は他の字より明瞭に發音し、且つ多少聲を長くすれば宜しい。例へば

- (1) 我^{ウオ}給^{ケイ}你^ニ一^イ本^ベ書^{シウ} 私は君に本を一冊上げませう。(書物を主とせるもの)
- (2) 我^{ウオ}給^{ケイ}你^ニ一^イ本^ベ書^{シウ} 私は君に一冊本を上げませう。(一冊だけ與へること)
- (3) 我^{ウオ}給^{ケイ}你^ニ一^イ本^ベ書^{シウ} (私は君に上げるので他の人に與へるのでないことを示す。)
- (4) 我^{ウオ}給^{ケイ}你^ニ一^イ本^ベ書^{シウ} (與へるを主とする。即ち君に貸すのではない、上げるのである意。)
- (5) 我^{ウオ}給^{ケイ}你^ニ一^イ本^ベ書^{シウ} (私を主とせるもので、他の人が與へるのではない、私が與へるのであるといふ意味を示す。)

重念練習

- | | | | |
|-----|--|--|--|
| (イ) | ^{シエウ} 學 ^{クワン} 問 ^{モン} がくもん | ^{テウ} 能 ^{ノウ} 耐 ^{タイ} 手腕 | ^{チー} 知 ^{チウ} 道 ^{ダウ} 知る |
| | ^{ミン} 明 ^{メイ} 白 ^{バイ} 明瞭 | ^{カン} 乾 ^{チン} 淨 ^{チン} 清潔 | ^{ワウ} 聰 ^{ミン} 明 ^{チン} 伶俐 |
| (ロ) | ^{ジュ} 學 ^{エシ} 校 ^{アウ} がつこう | ^{コウ} 公 ^{スー} 司 ^{スー} 會社 | ^{シウ} 樹 ^{リン} 林 ^{ツツ} 森林 |
| | ^{ダイ} 電 ^{エン} 報 ^{バウ} でんぽう | ^ヒ 麪 ^ス 包 ^{バウ} ばん | ^チ 雞 ^{タン} 蛋 ^ス たまご |
| (ハ) | ^{シン} 新 ^{クワン} 聞 ^{モン} 紙 ^チ しんぶん | ^{ダイ} 電 ^{エン} 報 ^{バウ} 局 ^ク 電信局 | |
| | ^{ビン} 兵 ^{コウ} 工 ^{アウ} 廠 ^{アウ} 造兵廠 | ^チ 機 ^{コウ} 關 ^{アウ} 槍 ^{アウ} 機關銃 | |
| | ^ジ 石 ^{トウ} 頭 ^ツ 子 ^ル 兒 小砂利 | ^コ 關 ^{アウ} 東 ^ス 菸 ^イ 滿洲葉烟草 | |

以上を以て大體の準備を終了したから、愈々本文に入る事にする。

練習問題

以下各字の四聲名稱を問ふ。

^{トウ}東^{ナン}南^ベ北^チ春^シ夏^ヂ秋^{トウ}冬^グ人^マ馬^イ魚

下平は何處に符號を附するや。

上聲の符號は何れなるや。

上平は何れに符號を附するや。

去聲の記號を示すべし。

解 答

上平、下平、上聲、上平、去聲、上平、上平、下平、上聲、下平。

下平は字の左上。

上聲は右上。

上平は左下。

去聲は夏の如し。

練習問題

下記の日本語を支那譯せよ。

1. 君の本は何處にあるか。
2. 此處に私の本があるか。
3. 彼處に人がゐない。
4. 彼處にどんな物があるか。
5. 私はこれを所有するが、あれは所有せぬ。
6. これは誰の本であるか。
7. あれは私の物ではない。
8. これは私ので、あれは彼ののである。
9. 彼の兄は私の友人である。
10. 彼は誰の友人であるか。
11. これは如何なる本であるか。
12. この書物は私の兄のではない。

下記の支那語を和譯せよ。

13. 那。裏。°那裏。
14. 他們的東西。
15. °那裏有你的。
16. 你的。家在°那裏。
17. 有我、我有。
18. 他是我哥哥的朋友。
19. 這個不是你的東西。
20. 那是中國的風俗。

解答

漢譯

1. 你的書在那裏。
2. 這裏有我的書。
3. 那裏沒有人。
4. 那裏有甚麼東西。
5. 我有這個、沒有那個。
6. 這是誰的書。
7. 那不是我的東西。
8. 這個是我的。那個是他的。
9. 他的哥哥是我的朋友。
10. 他是誰的朋友。
11. 這是甚麼書。
12. 這本書不是我的哥哥的。

和譯

13. 彼處、何處。
14. 彼等の物。
15. 何處に君のがあるか。
16. 私が居る、私は所有す。
17. 彼は私の兄の友人である。
18. これは君の物ではない。
19. あれは支那の風俗である。

第 四 日

第 八 課

チイエンヌチイニス ミング フォー チイグ イニス シイ レイ パフ イツ
天 今 明 昨 晴 陰 雨 下 怕 要

今天 今日 明天 明日 昨天 昨日
天晴 天氣が晴れる 天陰 天氣が曇る 下雨 雨が降る
昨天天晴 昨日は晴天 今天天陰 今日曇天
明天 怕 要下雨 明日は恐らく雨が降るだらう。

【説 明】

時に關する副詞は日本語のやうに主格の前又は主格の次に置くものとする。即ち

他今天來 彼は今日來る 今天他來 今日彼は來るの如し。此二語は場合は同一ではないが、意味は同じである。「下雨」は雨が降ること、下は天より降るものに使用する。下雪、下霜、下霧、下雹子 といふが如きである。降るは日本語では自動詞である。支那語では、降らすといふ他動詞用法、即ち天下雨「天が雨を降らす」といふ形を使用する。

「怕」は恐るといふ意味より轉じて恐らくといふ副詞となつたもので、説明語の前位に置くものである。又惡結果を推定するときと言ふ所の思ふの意味にも解釋せられる。即ち「明日は雨が降るであらうと思ふ」の如きである。

他怕沒有 彼は恐らくもつてゐまい。
他怕不在那裏 彼は恐らく彼處に居まい。

我怕他不是好人 私は彼は善い人間でないと思ふ。
「要」は動詞の意義を確定する助字であつて、「……せんとす……せんと欲す」といふ意義を有し、動詞の前位に置かれる。

天要晴 天氣が晴れさうだ。 天要陰 天氣が曇りさうだ。

第 九 課

ライ ヌイ フォウ 了 到 從 上 海 幾 時 後
來 去 走 了 到 從 上 海 幾 時 後
ミング ライエンヌライ 明日來る チイニスチイニス ヌイ
明 天 來 明日來る 今 天 去 今日行く
フォー チイニスフオウラ 昨日出掛けた。ニイチイニシライ
昨 天 走 了 昨日出掛けた。你幾時來 君はいつ來ますか。
ウォー 後 天 來 私は明後日來ます。
你 到 那裏去 君は何處へ行きますか。
我 到 上 海 去 私は上海へ行きます。
你 從 那裏來 君は何處から來ましたか。
我 從 上 海 來 私は上海から來ました。

【説 明】

走は「家から出て行く」意味だから、「出發する、歸つて行く」等の意味にも使用せられる。又「歩く」意味に用ひらるゝが走る意味は無い。了は過去詞であつて動作の完了を表はし、動詞の直下、又は一句の終りに置かれる。

天晴了 空が晴れた 天陰了 空が曇つた 有了 有つた
到は到着の意味であるが、又場所の前にあつて前置詞となることがある。凡そ動詞と場所を結合するときは必らず前置詞を媒介するのが通例である。到は又上を使用することがある。何れも行先を

示す場合に用ひられるのである。

前置詞—場所—動詞

到(上)這裏來	此處へ來る。
到那裏去	彼處へ行く。
到東京來	東京へ來る。
到美國去	米國へ行く。

從は打、由、解などをも使用し、起點を示す前置詞である。

從這裏去	此處から行く。
從那裏來	彼處から來る。
從中國來	支那から來る。
從法國來	フランスから來る。

第十課

好 ^{ハオ} 事 ^シ 情 ^{チン} 氣 ^キ 遊 ^ユ 玩 ^{ワン} 罷 ^バ	
好 ^{ハオ} 良 ^リ 不 ^フ 好 ^{ハオ} 惡 ^エ 好 ^{ハオ} 不 ^フ 好 ^{ハオ} 良 ^リ か惡 ^エ るいか。	
好 ^{ハオ} 事 ^シ 情 ^{チン} 良 ^リ 事 ^シ 不 ^フ 好 ^{ハオ} 東 ^{トウ} 西 ^{シー} 惡 ^エ るい品物	
這 ^ゼ 個 ^ゲ 好 ^{ハオ} 這 ^ゼ 個 ^ゲ 好 ^{ハオ} これは宜 ^イ しい那 ^ナ 個 ^ゲ 不 ^フ 好 ^{ハオ} あれは惡 ^エ い	
今 ^{キン} 天 ^{テン} 天 ^{テン} 氣 ^キ 好 ^{ハオ} 我 ^ワ 們 ^{メン} 遊 ^ユ 玩 ^{ワン} 去 ^ク 罷 ^バ	

今日は天氣が好いから、私共は遊びに行きませう。

【説明】

形容詞は日本語と同じく、名詞の前位に置く場合と、説明語となつて語句の末尾に置かれる場合とがある。例へば

好天氣(好い天氣) 天氣好(天氣が好い)の如し。

罷は要求、勸誘、命令、推定を表示する語尾助字である。

你明天去罷	君明日お出でなさい。
你到中國去罷	君支那へお出でなさい。
明天天氣好罷	明日は天氣がよいであらう。
他是你的朋友罷	彼は君の友達でせう。

第十一課

吃 ^チ 喝 ^ホ 寫 ^シ 念 ^ニ 飯 ^{ファン} 字 ^ズ 頓 ^{トン} 碗 ^{ワン} 本 ^{ベン} 茶 ^{チャ} 完 ^{ワン} 出 ^チ 門 ^{メン}	
吃 ^チ 飯 ^{ファン} 御飯を喰べる 喝 ^ホ 茶 ^{チャ} 茶を飲む 寫 ^シ 字 ^ズ 字を書く	
念 ^ニ 書 ^{シュ} 本 ^{ベン} を讀む	
吃 ^チ 一 ^{イチ} 頓 ^{トン} 飯 ^{ファン} 一度食事をする 喝 ^ホ 一 ^{イチ} 碗 ^{ワン} 茶 ^{チャ} 茶を一杯飲む	
寫 ^シ 幾 ^キ 個 ^ゲ 字 ^ズ 五 ^ウ 六 ^{ロク} 字 ^ズ 書 ^ク 念 ^ニ 一 ^{イチ} 本 ^{ベン} 書 ^{シュ} 本を一冊讀む	
念 ^ニ 完 ^{ワン} 了 ^{リョウ} 書 ^{シュ} 我 ^ワ 出 ^チ 門 ^{メン} 去 ^ク	

本を讀み終つたら、私は外出する。

【説明】

目的格は動詞の下位に置くを普通とする。日本語ではテ=ヲハによつて其格を區別するけれども、支那語に於ては排列によつて用法を異にするのである。吃飯は飯を食ふことであるが、若し飯吃といへば飯が食ふこととなり、意味は通じないだらう。本文の飯、茶、字、書は何れも目的物であるから、動詞の次位に置かれてある。即ち

主格—動詞—目的格

の如く排列する。

一頓は食事の回数に用ふる語で、一食の意味である。頓は助數詞であつて俗に陪伴字とも謂はれ、各名詞に依つて各々異つてゐる。

一朵花 一陣風 一匹馬 一劑藥 一張紙 一把刀 一條街
 一管筆 一張桌子 一件衣裳 一隻船 一棵樹 一根木頭
 の類である。

名詞を制限する數詞は名詞の前位に置くのが通例である。故に一冊の書物でも、書物一冊でも、皆一本書といふ。

完は終る意味で動詞と結合する時は吃完了（食ひ終つた）喝完了（飲み終つた）寫完了字（字を書き終つた）等の如く動詞に後續するのである。完了念書等と誤つてはならない。

出門去 去は主要動詞、出門は補足言である。補足言は動詞の前位に置くを普通とする。

主格—補足言—主動詞

我吃飯去 他喝茶來 我念書去 他到學校去 他從北京來

練習問題

下記各字の發音を問ふ。

人、這、地、時、沒、方、書、候、朋、哥、昨、明、去、從、晴、雨、上、下、事、海、情、好、不、怕、吃、喝、寫、字、出、玩、

以下の支那語を和譯せよ。

1. 這個東西怕不是他的。
2. 從上海來了一個人了。
3. 他到朋友家去了。
4. 這裏好，那裏不好。
5. 上海是好地方。
6. 這個書好不好。
7. 喝一碗茶出門去罷。

下記の邦語を支那譯せよ。

8. 今日は好い天氣である。
9. 支那から一人の友人が來た。
10. 私共は食事に行きませう。
11. 本を一冊讀み終つた。
12. 支那から米國へ行く。
13. 明日は恐らく曇りでせう。
14. 日本人は三回食事をする。

解 答

和 譯

1. この品物は恐らく彼れのではない。
2. 上海から人が一人來た。
3. 彼は友人の宅へ行つた。
4. 此處は良く、彼處は悪い。
5. 上海は好い處である。
6. この本は良いか悪いが。
7. 茶を一杯飲んで外出しよう。

華 譯

8. 今天是好天氣。
9. 從中國來了一個朋友了。
10. 我們吃飯去罷。
11. 念完了一本書了。
12. 從中國到美國去。
13. 明天怕天陰罷。
14. 日本人吃三頓飯。

第五日

第十二課

過。着。哪。看。做。現。中。國。話。報。剛。纔
 念。了。讀。了。念。過。讀。了。事。有。の。あ。る
 念。着。讀。ん。で。ゐ。る 念。來。着。讀。ん。で。ゐ。た
 我。念。了。一。本。書。了 私。は。一。冊。の。本。を。讀。ん。だ。
 我。學。過。中。國。話 私。は。支。那。語。を。學。ん。だ。こ。と。が。あ。る。
 他。現。在。看。着。報。哪 彼。は。今。新。聞。を。見。て。ゐ。る。
 你。剛。纔。做。甚。麼。來。着 君。は。先。程。何。を。し。て。ゐ。た。か。

【說 明】

了は過去を表はす助動詞であつて、念了書了の如く動詞の次位と句尾に置かれることがあるが、前者は完全に完了せるを示し、後者は一句の終了を表はすものである。故に念書了は未だ完全なる過去とは言ひ難いのである。

過は俗に經驗過去などゝ稱せられ、以前曾てしたことがあるとか無いとかの意味を有するもので、是も動詞の次位に置くべきものである。

着は現在詞とも未完了詞ともいひ得る助動詞であつて、何々してをる、何々しつゝの意味を有し、是も動詞の直後に置かれるものである。而して現在句の句尾は哪を以て結ぶのが通例である。站

着(立つてゐる)、坐着(座つてゐる)、躺着(寝ころんでゐる)、走着

(歩いてゐる)、吃着烟說話(烟草を喫みながら話をする)、靠着桌子寫字(机によりかゝつて字を書く)、仗着賣力氣過活(勞働に依つて生活する)、領着道兒走(道案内をしつゝ行く)等何れも未完了を表はす。

來着は過去の状態を示す助動詞で、「何々してをつた」の意に當るものである。而して此助字は前述のものと異なり、もし目的格を有する場合は句尾に置かれる。寫字來着(字を書いてゐた)、念一本書來着(一冊の本を讀んで居つた)、學中國話來着(支那語を學んで居つた) 做買賣來着(商賣をしてをつた)等の如し。

句例

到日本來過 日本へ來たことがある。
 花了不少的錢了 金をだいぶ使つた。
 大聲嚷着說 大聲に叫んで言ふ。

我去的時候、他還睡來着

私が行つた時、彼はまだ寝て居つた。

背着筐子拾柴火 籠を背負つて薪を拾ふ。

我們兩人沒見過面 私共二人は會つたことがない。

來了就走了 來ると直ぐ歸つて行つた。

角落兒裏藏着 隅に隠れてゐる。

他們打架來着 彼等は喧嘩をして居つた。

第十三課

坐。騎。穿。車。船。馬。駱。駝
 坐。車 車に乗る 坐。船 船に乗る 騎馬 馬に乗る

坐^{ツク}。車^{クルマ}去^ク。 車に乗つて行く 坐^{ツク}船^{フネ}走^マ。 船に乗つて行く。
 騎^チ着^チ馬^{ウマ}。出^デ去^ク。 馬に乗つて出て行く。
 騎^チ着^チ一^{ヒト}頭^{カウ}駱^{ラク}駝^ダ。穿^ス過^{カス}。沙^サ漠^{ハク}去^ク。
 一匹の駱駝に乗つて沙漠を横断する。

【説 明】

坐、騎は自動詞であるから、車、馬は目的格に非ずして動作の位置と見るを可とす。語形から見れば寫字、念書等と同一だけれども、實質は異つてゐる。外國人より見て甚だ奇妙な感を生ぜしむるのである。

句例

我坐^{ツク}火^カ車^{クルマ}去^ク 私^{ワタシ}は汽^キ車^{クルマ}に乗^{ノリ}つて行^イく。
 他坐^{ツク}電^{デン}車^{クルマ}來^キ 彼^{カレ}は電^{デン}車^{クルマ}に乗^{ノリ}つて來^キる。
 坐^{ツク}一^{ヒト}架^カ飛^{トビ}機^キ行^イ 一^{ヒト}臺^{ダイ}の飛^{トビ}機^キに乗^{ノリ}つて日^{ニッ}本^{ポン}へ來^キる。
 每^{メイ}天^{テン}坐^{ツク}汽^キ車^{クルマ}到^{トウ}公^{コウ}司^シ去^ク 毎^{メイ}日^{ニチ}自^ジ動^{ドウ}車^{クルマ}に乗^{ノリ}つて會^{カイ}社^{シャ}へ行^イく。
 他坐^{ツク}輪^{リン}船^{セン}從^{ソウ}上^{シヤウ}海^{カイ}回^{クワイ}來^{ライ} 彼^{カレ}は汽^キ船^{セン}に乗^{ノリ}つて上^{シヤウ}海^{カイ}から歸^{クワイ}つて來^キる。

第 十 四 課

叫^{チヤウ}。破^パ。踢^チ小^{シヤウ}孩^{カイ}子^シ汽^キ車^{クルマ}軋^{ケン}死^シ送^{ソウ}費^{ハイ}。心^{シン}底^{テイ}。
 街^{ケイ}買^{マイ}。
 叫^{チヤウ}。人^{ジン}破^パ。了^{リヤウ} 人^{ジン}に壊^{クワイ}され^レた 叫^{チヤウ}。馬^マ。踢^チ。了^{リヤウ} 馬^マに蹴^クられ^レた
 有^{ユウ}。一^{イツ}個^{コウ}。小^{シヤウ}。孩^{カイ}。子^シ。叫^{チヤウ}。汽^キ。車^{クルマ}軋^{ケン}死^シ。了^{リヤウ}
 一^{イツ}人^{ジン}の^ノ子^シ供^{コウ}が自^ジ動^{ドウ}車^{クルマ}に轢^キき殺^シされ^レた。

叫^{チヤウ}。人^{ジン}送^{ソウ}。去^ク。 人^{ジン}に届^キけさ^セせる 叫^{チヤウ}。你^ニ費^{ハイ}。心^{シン} 君^{キミ}に御^ゴ心^{シン}配^{ハイ}を掛^ケけた、 叫^{チヤウ}。底^{テイ}。下^カ。人^{ジン}到^{トウ}。街^{ケイ}上^{シヤウ}。買^{マイ}。東^{トウ}。西^シ去^ク。 下^カ男^{ナン}を町^{チヤウ}へ買^{マイ}物^{モノ}に行^イか^セせる。

【説 明】

叫の用法は動詞の場合を除き、二種ある。一は受動、一は使役であつて、用法は全然同一である。前者は叫の外に被を使用して被人破了、被馬踢了の如くいふことがあり、後者は使役を使用し、使人送去、使底下人云々といふこともある。而して其用法は受動の場合は受動主格は句頭に置き、次に叫を排列し、其次に主動主格を配し、最後に動作を配置す。即ち

受動主格—叫—主動主格—動作

使役態は主格の次に叫を置き、次に被使役格を配し、最後に動作となる語を排列するのである。

主格—叫—被使役格—動作

の如き順序となる。

句例

(1) 叫^{チヤウ}。賊^{タク}。偷^{トウ}了^{リヤウ}東^{トウ}西^シ 賊^{タク}に物^{モノ}を盗^{トウ}まれ^レた。
 我^ワ被^{ヘイ}。先^{シヤン}。生^{シヤウ}。說^{ソウ}了^{リヤウ} 私^{ワタシ}は先^{シヤン}生^{シヤウ}に叱^チられ^レた。
 叫^{チヤウ}人^{ジン}聽^{テイ}見^{ケン}了^{リヤウ} 人^{ジン}に聞^{ケン}かれ^レた。
 被^{ヘイ}。敵^{テイ}人^{ジン}。殺^{シヤク}了^{リヤウ} 敵^{テイ}に殺^{シヤク}され^レた。
 (2) 叫^{チヤウ}人^{ジン}佩^{ハイ}。服^{フク} 人^{ジン}を感^{カン}服^{フク}せしめ^ルる。
 叫^{チヤウ}人^{ジン}有^{ユウ}氣^キ 人^{ジン}を立^{リツ}腹^{フク}せしめ^ルる。
 叫^{チヤウ}我^ワ心^{シン}裏^リ不^フ安^{アン} 私^{ワタシ}をして心^{シン}中^{チュウ}安^{アン}からざらしむ(心^{シン}に濟^キまぬ)。
 叫^{チヤウ}奶^{ナイ}。媽^マ。看^{カン}小^{シヤウ}孩^{カイ}兒^エ 乳^ニ母^モに子^シ供^{コウ}の守^シをさ^セせる。

第十五課

飛 高 貴 跑 快 開 賽 慢 拿 做 容 易 難
 舒 服 太 重

飛 的 高 飛 び か た が 高 い 跑 的 快 走 り か た が 速 い

開 的 好 看 咲 き か た が 奇 麗 (奇 麗 に 咲 く)

我 們 賽 跑 看 誰 跑 的 快 誰 跑 的 慢

私達は誰が速いか遅いか競走してみませう。

吃 着 好 喰 べ て み て う ま い 坐 着 舒 服 座 っ て

みて心地好い。 拿 着 太 重 持 っ て み て 餘 り 重 い。

穿 着 很 合 式 着 て み て 甚 だ 工 合 が 良 い。

說 着 容 易 做 着 難 言 っ て み て は 容 易 い が 行 っ て み て は 難 か し い。

【說 明】

飛 的 は 飛 び か た の 意 味 で あ つ て 動 作 の 結 果 を 形 容 す る 語 法 で 常 習 的 に 高 く 飛 ぶ 場 合 に も 使 用 せ ら る 。 現 在 完 了 或 は 條 件 法 即 ち 高 く 飛 ん で し ま っ た と か 高 く 飛 ん だ な ら の 如 き 場 合 は 飛 高 了 と い ひ 單 に 高 く 飛 ぶ と い ふ と き は 高 飛 と い ふ 。

快 は 「 速 か 」 好 看 は 美 し い 賽 は 「 競 争 す る こ と 」 賽 船 (競 漕) 賽 馬 (競 馬) 比 賽 (競 技) の 如 し 看 は 「 試 み る 」 意 味 で あ る 。

吃 着 は 「 喰 べ て み て 」 云 々 と い ふ こ と で あ つ て 動 作 中 に 起 っ た 感 想 を 表 示 す る 語 法 で あ る 。

拿 は 「 手 に 持 つ こ と 」 穿 は 「 衣 物 を 着 る 」 「 靴 を 穿 く 」 等 の 意 味 太

は「餘り過ぎる」意、很は「甚だ」の意味、合式は或は合適とも書き、「適合すること」をいふ。

句例

風 颯 的 利 害 風 の 吹 き か た が 烈 し い 。

雨 下 的 大 雨 の 降 り か た が 強 い 。

進 的 少 出 的 多 入 り が 少 な く 出 る の が 多 い 。

這 個 表 走 的 慢 この 時 計 は 動 き か た が 遅 い 。

他 的 字 寫 的 很 自 然 彼 れ の 字 は 癖 の 無 い 書 き 方 だ 。

那 個 舖 子 賣 的 太 貴 あ の 店 は 賣 り 方 が 高 過 ぎ る 。

學 着 容 易 學 ん で み て 易 い 。

辦 着 順 手 行 っ て み て 順 調 で あ る 。

使 着 方 便 使 っ て み て 便 利 だ 。

這 個 菜 吃 着 很 鹹 この 料 理 は 喰 べ て み て 甚 だ 鹽 か ら い 。

看 着 很 有 趣 兒 見 て み て 甚 だ 面 白 い 。

這 個 路 走 着 很 遠 この 道 は 歩 い て み て 甚 だ 遠 い 。

練 習 問 題

下 句 を 解 釋 す べ し 。

1. 我的傘叫誰拿了走了。
2. 叫着烟捲兒說話。(叫ハ脚ヘル 烟捲兒ハ卷烟草)
3. 我的帽子叫風颯了去了。
4. 他剛纔在那裏看報來着。
5. 我到過上海。
6. 叫他坐汽車送人去。

- 7. 吃了飯拜客去。
- 8. 這本書我看看着很有益。
- 9. 這個東西做的很精巧。
- 10. 有寫着字的、有看着書的。

下記各字の發音を問ふ。

踢 軋 纜 做 飛 現 剛 容 重 貴 穿 車 船 着
破 叫 着 話 中 話

解 答

- 1. 私の傘は誰れかに持つて行かれた。
- 2. 烟草を啣へながら話をする。
- 3. 私は帽子を風に吹き飛ばされた。
- 4. 彼は先程彼處で新聞を見てゐた。
- 5. 私は上海に行つたことがある。
- 6. 彼を自動車に乗せて人を送りに行かせる。
- 7. 食事をしたら訪問に行く。
- 8. この本は見たところ甚だ有益である。
- 9. この品物は甚だ精巧に作つてある。
- 10. 字を書いてをるものもあり、本を見てゐるものもある。

第 六 日

第 十 六 課

他 們 到。中 國 視 察 商 務 去 了

彼等は支那へ商業視察に行つた。

他 在 外 交 部 當 差

彼は外交部(支那の外務省)に勤務してゐる。

打 開 箱 子 往 裏 瞧

箱を開けて中を見る。

打 河 裏 撈 上 來 河から掬ひ上げる。

【說 明】

一線を附したるは場所、位置、方向を示す語と動詞とを結合する場合に使用せられる介詞であつて、所謂前置詞に屬するものである。而して是等介詞を帯びたる語は動詞に對する補足言と稱する。補足言は日本語と同じく動詞の前位に置かれ、歐米の語形とは異なるのである。

到は又上ともいひ、行先を示す時に使用することは第九課に於て述べた通りである。

我到北平去	私は北平へ行く。
你上這裏來	お前此處へ來なさい。
我到學校去	私は學校へ行く。
到街上買東西去	町へ買物に行く。
我們上上野看櫻花去	私共は上野へ櫻を見に行きます。

在は停止せる場所、方向、位置に附せらるゝ介詞であつて、「何處に、何處で」の意味を有する。

府 ^{フー} -上 ^{チュー} 在那裏住。	御宅は何處にお住ひですか。
在 ^{シアン} 。山 ^{シヤン} 上 ^{タウ} 有 ^ユ 一 ^{イツ} 。棵 ^{カク} 大 ^{ダイ} 。樹 ^{ジュ} 。	山に一株の大きな木がある。
在 ^{チー} 。桌 ^{ツァク} -子 ^{ツォ} 上 ^{シヤウ} 有 ^ユ 一 ^{イツ} 。盆 ^{ペン} 。花 ^{ホア} 兒 ^エ 。	机の上に一鉢の花がある。
他 ^タ 現 ^{ヒェン} -在 ^{ザイ} 漢 ^{ハン} 。口 ^{コウ} 。做 ^{ヂョウ} 。生 ^{シヤウ} 。意 ^イ 。	彼は今漢口で商賣をしてをる。
我 ^ワ 在 ^{ザイ} 家 ^カ 裏 ^リ 等 ^{トウ} 着 ^{ヂョウ}	私は宅で待つてゐます。

往は方向を示す時に、方向となる語の前に置く語で、「何處に向つて」の意味に使用せられる。前述の到と混同せぬやう注意を要する。

往 ^{ワイ} 前 ^{チヤウ} 走 ^{ツォ}	前へ進む。
往 ^{ワイ} 後 ^{ホウ} 。退 ^{トイ} 。	後へ退く。
往 ^{ワイ} 外 ^{ホウ} 。扔 ^{トウ}	外へ投げる。
往 ^{ワイ} 小 ^{シヤウ} 裏 ^リ 。縮 ^{シュク}	小さく縮まる。
往 ^{ワイ} 懷 ^{ワイ} 裏 ^リ 。拉 ^ラ	手前へ引く。
物 ^{ウツ} 。價 ^{チヤウ} 。都 ^{トウ} 往 ^{ワイ} 下 ^ハ 落 ^{ラク} 。	物價は皆下へ落ちた(下落)。

打は何處よりといふ起點を表はす時に用ひ、場所、位置、方向、時期等の語の上に置く語である。尙ほ從、由、自、解等の字を使用することがある。

打 ^ダ 衙 ^ヤ -門 ^{メン} 回 ^{ホイ} 來 ^{ライ}	役所から歸つて来る。
從 ^{フイ} 懷 ^{ワイ} 裏 ^リ 。掏 ^{トウ} 出 ^チ 來 ^{ライ}	懷中より引出す。
打 ^ダ 東 ^{トウ} 。京 ^{キヤウ} 到 ^{トウ} 神 ^{シヤン} 戶 ^フ 。有 ^ユ 多 ^ダ 少 ^{シヤウ} 里 ^リ 地 ^ヂ 。	東京から神戸まで何里あるか。
由 ^ユ 四 ^シ 月 ^{ゲツ} 起 ^キ 。開 ^{カイ} 學 ^{ガク}	四月より學校が始まる
起は四月よりはり始 ^シ まり學 ^{ガク} を開 ^{カイ} くと解釋 ^{ケイギ} す。	
太 ^{タイ} 。陽 ^{ヤウ} 是 ^シ 打 ^ダ 東 ^{トウ} -邊 ^{ペン} 出 ^チ 來 ^{ライ} 。	太陽は東方より出で

往^{ワイ}西^シ邊^{ペン}下^ハ去^キ 西方へ沈む。

到及在は又別種の用法がある。即ち到は送到火車站の如く動詞の後に置かれることがある。これは(停車場まで送る)との意味で即ち動作の終止點を表示する句法である。若し之を誤り到火車站送とすれば(停車場に行つて送る)意味となり、意味は全然異なるのである。

掉 ^{テウ} 。到 ^{トウ} 河 ^カ 裏 ^リ 去 ^キ 了 ^{リョウ}	河の中へ落ちて行つた。
拿 ^ナ 到 ^{トウ} 這 ^{ヂヤウ} 裏 ^リ 來 ^{ライ}	此處へ持つて来る。
念 ^{ニェン} 。到 ^{トウ} 第 ^{ダイ} 十 ^シ 頁 ^{ゲツ} 。了 ^{リョウ}	十頁まで讀んだ。
走 ^{ツォ} 到 ^{トウ} 半 ^{ハン} 。路 ^ル 。上 ^{シヤウ} 想 ^{シヤウ} 起 ^キ 來 ^{ライ} 了 ^{リョウ}	途中まで来て思ひ出した。
運 ^{ユン} 。到 ^{トウ} 外 ^{ホウ} 。國 ^ク 去 ^キ 賣 ^{マイ} 。	外國へ輸出して賣る。

等は皆終止點を示す語である。

在も動作を主とする場合は動詞の後に置かる。

拿 ^ナ 在 ^{ザイ} 手 ^{シュ} 裏 ^リ	手に持つ。
站 ^{ヂヤウ} 。在 ^{ザイ} 傍 ^{パウ} 邊 ^{ペン}	側に立つ。
擱 ^{カウ} 在 ^{ザイ} 桌 ^{ツァク} 子 ^{ツォ} 上 ^{シヤウ}	机の上に置く。
扔 ^{トウ} 在 ^{ザイ} 海 ^{ハイ} 裏 ^リ	海中に捨てる。
裝 ^{チヤウ} 在 ^{ザイ} 箱 ^{シヤウ} 子 ^{ツォ} 裏 ^リ	箱の中に詰める。

第十七課

把 ^バ 屋 ^ウ 子 ^{ツォ} 裏 ^リ 拾 ^シ 掇 ^{トウ} 乾 ^{カン} 淨 ^{チン}	部屋の中を綺麗に片附ける。
和 ^{ハイ} 母 ^ム -親 ^{チン} 商 ^{シヤウ} -量 ^{リヤウ}	母と相談する。
給 ^{カイ} 小 ^{シヤウ} 孩 ^{ハイ} 子 ^{ツォ} 買 ^{マイ} 個 ^コ 玩 ^{ワン} 藝 ^{イー} 兒 ^ル	子供に何か玩具を買つてやる。
這 ^{ヂヤウ} 是 ^シ 拿 ^ナ 紙 ^チ 做 ^{ヂョウ} 的 ^ヂ	これは紙で作つたのである。

叫。大。家。看。

衆人に見させる。

叫。雨。攔。了。

雨に妨げられた。

國。民。替。國。家。出。力。

國民は國家の爲に働く。

【說 明】

一線を附してあるのは何れも介詞で補助格と動詞とを連結する場合に使用せられる。

把は目的格と動詞と轉換する時、其目的格の前位に加へられる語である。目的格を對話者に早く知らせる時、又は目的格が附屬言を伴ふとか、動詞が副詞を伴ひて語調混雜する時に、この轉換法を使用する。

和は動作の對手となる語と動詞とを連結する時、其對手格の上位に附するもので、「……と、……に」の意味を有す。又與の字を用ふることがある。

給は動作を與へられる格の上に加へる語で、「……に……して呉れ」或はしてやるの意味を有する。

拿は又用の字を用ふることがある。動作に関連する材料となる語の上に加へる語で、「何々を以て何々する」、或は「何々で何々する」意味を有する。

叫は第十四課に説明してある。

替は代る意味で、介詞としては代理の對手方となる語の前位に附する語である。

句例

與。(和)衛。生有害。

衛生に害が有る。

和主。人告。辭

主人に暇を告げる。

給國家。興。利。除。害。

國家の爲に利を擧げ害を除く。

回家替我問。好

お歸りになつたら宜しく。

我把這。件。事。告。訴。你。說

この事を君に話します。

我把帽。子。叫。風。颳。了。去。了

私は帽子を風に吹き飛ばされた。

這。不。是。拿。石。頭。做。的

これは石で作つたのではない。

拿。胰。子。洗。就。洗。掉。了

石鹼で洗へば落ちてしまふ。

第七日

第十八課

我。不。要。這。麼。貴。的。東。西

私は此様に高い物は要らない。

今。天。我。不。到。那。裏。去。

私は今日何處へも行かない。

他。還。沒。到。過。中。國

彼はまだ支那へ行つたことがない。

我。沒。和。他。商。量

私は彼に相談しなかつた。

你。別。白。耽。誤。工。夫

無駄に時間を費してはいけない。

你。別。在。這。裏。站。着

お前は其處に立つてゐてはいけない。

【說 明】

不は意志が無い時、否定の時に使用する。動詞を打消す場合に

於て、現在及未來にあつては不を用ひ、過去にあつては没を用ひるといふ區別がある。例へば今天不去（今日は行かない）昨天没去（昨日は行かなかつた）の如し。

別は制止言で「何々する勿れ」の意味である。日本語に於ては打消、制止言は語尾に置かれてあるため、是等の關係點は割然しない。例へば「彼れに相談せぬ(してはならぬ)」の語に就いて見るに打消は彼れに關係するの、又單に相談のみに關係するの明瞭でない。支那語に於ては他に相談する即ち和他商量の全語を打消し、不(別)和他商量としなければ完全と言ひ難いのである。此關係點は特に注意を要する。

練習問題

次の日語を支那譯すべし。

1. 庭に松の樹を一本植える。
2. 家で本を讀んでゐる。
3. 上野へ博覽會を見に行く。
4. 東へ五里行く。
5. これは鐵で作つたのである。
6. 水で顔を洗ふ。
7. 彼は上海から來たのではない、北京から來たのである。
8. お前はあの人と交際してはいけない。
9. 私は上海に行つたことがない。
10. その品物は机の上に置いてなかつた。
11. 私の帽子を持つて來て呉れ。

用語 △松の樹 ソングジュ 松 樹。△一本 一。棵 △植ゑる チオング 種。

△博覽會 ボウワンクワイ △見る看 カン △鐵 タイエ △水涼水 リフングジュイ △顔臉 リエン
 △洗ふ洗 シー △交際する シヤウジヤウ △來往 ライワング △置く ク △擱 ク △帽子 マツ
 △持つて來る ツ △拿來 ナライ

解答

1. 在院子裏種一棵松樹。
2. 在家裏看着書。
3. 到上野看博覽會去。
4. 往東走五里地。
5. 這是拿鐵做的。
6. 他不是從上海來的、是從北京來的。
7. 拿涼水洗臉。
8. 你別和他來往。
9. 我沒到過上海。
10. 那個東西沒在桌子上擱着。
11. 你給我拿我的帽子來。

第十九課

身 - 量。長。大。了。	身の丈が延びた。
事。情。辦。完。了。	仕事は終つた。
這。個。東。西。我。買。貴。了。	此品物は買被つた。
在。路。上。摔。倒。了。	途で轉び倒れた。
吃。飽。了。飯。了。	飯を充分食べた。
喝。多。了。水。就。鬧。肚。子。	水を飲み過ぎると下痢をする。
這。本。書。還。沒。念。熟。了。	此本はまだよく覺えない。

フアング ツカイ トネラ
房子蓋得了

家が建て上がった。

我門商量好了

私共は相談が纏まった。

【説明】

動作の結果が實現された時は、動詞と結果とを直接連結するのであつて、此場合の動詞の意味は比較的軽く、結果を主要とするものであるから、第二字を重念とするのである。

身量身長は身長であつて目方ではない。長は發育することである。

事情事或は仕事の意味。辦取扱ふ又は處理するの意味である。

買貴了高く買ったことをいふ。

飽満腹せる意味で、日本語の飽きることではない。

就即ちの意味。鬧字の如くさはぐこと。

肚子腹をいふ。

這本書本は一冊のこと。還はまだの意味。

念熟読んで熟すこと。

房子建物の意。蓋口語では蓋をすることより轉じて建築することに用ひられる。得了總て出來上がる意味に使用する。

商量相談すること。

第二十課

オンスチンダ ヌユイ コオリアンダ グンダ
南-京我去過兩邊

南京へ二度行つたことがある。

パンヌラ ナイ トウ マイ オンダ コンダ
辦了兩回都沒成功

二度行つてみたが、皆不成功であつた。

ゲ-ツァイ ナイア ナウ-
他在我家住了一個。

彼は私の家に一週間泊つて、歸つて行つた。

ラインダ ナイ- ナイユ ツメウ
星期一就走了

三年勉強すれば卒業出来る。

ヌ- 學了三^ニ年、就^ニ可以^ニ

卒業了

彼の病氣は少し快くなつた。

テ- 他的病好^ニ一^ニ點兒了

シエンヌ ツァイ ワー ナイラ ヲオ イ- ナンダ
現在物價落了一成

現在物價は一割下落した今日五里歩いて疲れた。

チインヌ ナイエンヌ ツォウ ウー リー ナイ- ナー
今天走了五里地乏了

【説明】

回数、分量、時間は動詞の次位に置くのが通例である。此點日本語と異つてゐるから、注意を要する。

(日本語) 一時間讀書する

(支那語) 念一點鐘書

但し形容詞に對する數量は場合に依り、有一點兒、有五里の如く有を附して形容詞の前位に置き 有一點兒好 有五里遠 の如くいふことがある。又下方に名詞がある時は 念一點鐘的書、颯了一天的風、坐一天一夜的車 の如く恰も數詞を形容詞の如く表はすことがある。意味に於て相違は無いのである。

練習問題

次の日本語を支那譯せよ。

1. 手紙を書き終つた。
2. その話は聴き飽いた。
3. この綱は少し短い。
4. 彼は一度日本に來たことがある。

5. 長い間待つたが、遂に來なかつた。
6. 果物を餘計に喰べると腹を壊す。
7. 彼は支那から歸つて來て一個月病氣した。
8. この時計は子供に弄り壊された。

解 答

1. 寫完了信了。
2. 這個話聽膩了。
3. 這個繩子短一點兒。
4. 他到過一回日本。
5. 等了半天、到底沒來。
6. 吃多了菓子就鬧肚子。
7. 他從中國回來、病了一個月了。
8. 這個叫小孩子弄壞了。

第 二 週

第 八 日

第 二 十 一 課

動同の下添語

- (1) 出 來 出て来る 進 去 入つて行く 出 門 去 外へ出て行く 進 屋 裏 來 部屋に入つて来る。
- (2) 搬 出 去 運び出して行く 送 回 來 送返して来る
撈 上 來 掬ひ上げる 掉 下 去 落ちて行く
下 起 雨 來 雨が降り出す。

【説 明】

支那語には物體の動く方向を示すに本文の如きものがある。已れに接近して来るものは來を加へ、已れより遠ざかるものには去を加へるのである。而して若し場所を示す語(門、屋裏の如き)ある時は來、去は分離して語尾に附するのが通例である。又本文次例の如く二字の下添語がある。此場合に示處言或は目的格があればこの時も又來、去のみを分離して語尾に置くものとする。

- (3) 騎 上 馬 馬に乗つてしまふ 關 上 門 門を閉めてしまふ
穿 上 衣 服 着物を着てしまふ
把 箱 子 鎖 上 箱に鍵を掛けてしまふ
把 東 西 攔 下 品物を置いてしまふ 剩 下 一 點 兒 少し残した
留 下 一 封 信 手紙を一通残して置く
攢 下 不 少 的 錢 大分金を溜めた

這麼酸^{ソアシ}的東西我^ワ吃^ク不^ズ來^ズ

こんな酸^{アシ}つばいものは私は喰^クべられない。

上^ウは動作が目的物に及ぶ意味を有する。吃^ク不上^ズ飯^イは食^クふ動作が飯^イに及ばないと解釋すべきものである。

開^カは通じ開けること、分離すること、目的物の行渡る如きを意味する語である。

在這裏^{ココ}碍^{ガイ}事^ジ、^ニ挪^ノ開^カ罷^バ

此處では邪魔だから、傍へ寄せなさい。

分^ワ不^ズ開^カ身^ミ子^コ 手を離すことが出来ない。

這所^{ココ}房^フ子^コ大^オ、我^ワ們^{タチ}住^ス不^ズ開^カ

この家は大きくて私共は住み切れない。

(間敷多くして人が行渡らざること)

第九日

第二十二課

動詞の意義を確定する助動詞

你^ニ得^ル好^ク好^ク兒^ノ用^フ功^{コウ}

君はよく勉強しなければいけ^{ない}。

該^{コト}說^{ハス}的^ニ不^ズ說^{ハス}該^{コト}做^ル的^ニ不^ズ做^ル

言ふべきことを言はず、爲すべきことを爲さない。

自^ミ己^ノ的^ニ事^{トシテ}該^{コト}當^ル自^ミ己^ノ辦^ス

自分の事は自分で處理すべきものである。

能^ク吃^ク能^ク喝^ク不^ズ能^ク做^ル活^{ツク}

食つたり飲だりは出来る

が、働くことは出来ない。

這^{コト}麼^ニ走^ル可^ク以^テ到^ル

かう行けば到着出来る。

用^フ完^ル了^ス、可^ク以^テ擱^ル回^ル原^ノ處^ニ兒^ノ

置いてをきなさい。

你^ニ可^ク以^テ不^ズ必^ズ了^ス

必ずしもそうしなくとも宜しい。

要^ス辦^ス太^ク費^ス事^{トシテ}、不^ズ辦^ス又^モ領^ル一^ツ碎^ク

爲さうとすれば餘り面倒だし、爲さなければ又不面目である。

你^ニ要^ス和^ス他^ノ好^ク好^ク的^ニ玩^ブ兒^ノ

お前は彼と仲善く遊ばなければいけません。

他^ノ會^フ說^フ幾^{コト}句^ノ中^ノ國^ノ話^{トシテ}

彼は支那語を少し話すことが出来る。

我^ノ打^ス算^ス本^ノ月^ノ底^ニ動^ス身^{トシテ}

私は今月末出發する積り(考へ)だ。

他^ノ愛^ス看^ル電^ノ影^{トシテ}兒^ノ

彼は活動寫眞を見るのが好きだ。

這^{コト}事^{トシテ}他^ノ有^ル點^{トシテ}兒^ノ不^ズ願^ス意^{トシテ}做^ル

此事は彼は少しく遣りた

他^ノ倒^ル肯^ク用^フ功^{コウ}

がらないやうだ。

這^{コト}個^ノ天^ノ他^ノ許^ス不^ズ來^ル

この天気では彼は來ないかもしれない。

【說明】

一を附したる字は皆動詞の意義を確定する助動詞である。用法は動詞の前位に置かれるのであるが、若し其動詞に附屬言有る時は附屬言の前位に在つて動詞と相對する。

得[°]はテイと發音し、ねばならぬの意味である。近來口語に於て又要を用ふることが多い。

該、該當は道理上何々すべき筈の意味に使用せられ、用法は前述と同一である。

能は或事を爲す能力を有することを意味する助動詞であり、國語としては又會を用ふることがある。

可以は能^ふ意味と、何々すべし、何々する可なり等の意味に使用することは本文の通りである。但し能^ふの場合に於ては支障が無いから行ひ得る意味を含むからして、前者の能と區別することが必要である。併し支障無ければ能力を發揮することを得るものであるから往々能と混同することがある。これは己むを得ない處である。

要は事を爲す意志の有無を表示する場合と、本邦語の如く何々することを要すとの二種の場合に使用せられる。

會は一般語としては能と全然同一用法であるけれども、北京語では方法を會得してゐるから爲し能^ふの意味を含むでゐる。即ち能^ふの意味には

- (1) 能力に関するもの
- (2) 支障の有無に関するもの
- (3) 方法の會得に関するもの

の如き三種の用語がある。

打算は何々する積り或は考への意味で、用法は前者と同一である。愛は好む意味であることは言ふ迄もないが、其外何々したがる即ち愛説大話（大きな事を言ひたがる）とか、又は春天愛颺風（春はよく風が吹く）等に解釋されることもある。

願意は願望する意味であるが、譯語としては何々したいとなることがある。

肯は心に肯んずることを意味する。肯用功は勉強することを肯んずとの意なる故、進んで勉強する、勉強する氣がある等と譯するのが適當であると思はれる。

許は也許ともいひ、本邦語の何々かもしれぬの意味にて、想像の語氣に使用せられる。又語調上或者(或は)云々也是有的(かもしれぬ)の如き表現法もある。

練習問題

華語日譯

1. 他是能說不能行。
2. 天暖和了該穿夾衣服了。 夾衣服…給
3. 人該當孝順父母。 孝順…孝行する
4. 他會算會寫。
5. 我得[°]去。 得我去
6. 弟兄要和睦。 弟兄…兄弟
7. 我要和您打聽一件事。 打聽…尋ねる
8. 你愛看甚麼書。
9. 我打算到中國去一盪。
10. 他肯帮人的忙。 帮忙…手助けする

11. 這件事許他能辦。

下記の字音と四聲を考へよ。

送 進 玩 扔 找 願 箱 鎖 攢 辦 搬 費 自 己
當 攔 住 貴 必 肯 原 處 用 功 吃 得 了 找 得 着
電 影

解 答

1. 彼は口だけである。
2. 陽氣が暖くなつて、袷を着る時分になつた。
3. 人は親に孝行すべきものである。
4. 彼は計算も書くことも出来る。
5. 私は行かなければならぬ。(私が行かなければならぬ。)
6. 兄弟は親密でなければならぬ。
7. 私は貴方に一つお尋ねいたします。
8. 君は如何なる本が好きか。
9. 私は一度支那に行く積りである。
10. 彼は進んで人の手助けをする。
11. この事は彼れに出来るかもしれない。

第 十 日

第 二 十 三 課

動詞及形容詞を名狀する副詞

1. 時に關するもの。

^{フオング タイエンス} ^{フイナグ ウエング} ^{ヂユオ コオ}
從 前 我 聽 人 說 過。

以前私は人から聞いたこと
がある。

^{フアオ タイウ} ^{チオウ コオ} ^{ホフ}
早 就 有 這 個 話。

疾うから其様な話が有る。

^{シイフング ライ} ^{ヂエンヌ フ} ^{チイ} ^{ヂー}
他 向 來 身 子 不 結 實

彼は從來身體が丈夫でない。

^ジ ^{タイ} ^{イー} ^{ナグ} ^{コオ} ^{ヂユイ} ^ウ
時 代 已 經 過 去 了

時代はもう過ぎた。

^{カング} ^{フアイ} ^{フアイ} ^{ナー} ^リ ^{ニエンヌ} ^{ヂユ} ^{チオウ}
剛 纔 在 那 裏 念 書 來 着 先程彼處で本を讀んでを
つた。

私は今外から歸つて來たば
かりです。

^{シイエンヌ} ^{フアイ} ^フ ^{ホウ} ^{ハイ} ^{カンヌ} ^{チオウ} ^{フアング}
現 在 走 還 趕 得 上

今行けばまだ間に合ふ。

^{チオング} ^{イフオ} ^{チユ} ^{ノンヌ}
我 正 要 出 門 他 來 了

丁度門を出やうとする處へ
彼が來た。

^{ヂユオ} ^{フオー} ^{チイウ} ^{フオー}
說 做 就 做

すると言ふたら直ぐする。

^ヂ ^{チイ} ^{ナグ} ^{コフ} ^{ワンヌ} ^ラ
我 的 事 情 快 完 了

私の仕事はもう直き終る。

(了は快に附隨する。)

^{タオ} ^{ライ} ^{イング}
我 到 底 贏 了

私は結局勝つた。

^{チフング} ^{タヌウ} ^{コング} ^フ
常 來 耽 誤 工 夫

始終來て時間を潰す。

從此永遠不理他。それから後は永久に彼を構はなかつた。

立刻見效。直ぐに効果が現はれる。

忽然颯起一陣大風來。突然一陣の強風が吹き出した。

【説明】

以上は時間に関する副詞である。用法は本邦語と同一に動詞の前位に置くものである。但し動詞に附屬言を有する時は附屬言の前位に置かれるのが常例である。

2. 位置に関するもの。

前一面是海、後一面是山。

前方は海で、後方は山である。

哥哥前頭走、兄弟後面跟着。

兄は先に歩き弟は後から跟いて行く。

底下穿着一雙破靴子。

下には一足のぼろ靴を穿いてをる。

那裏看、見一所洋房。

彼處に一軒の洋館が見える。

把刀高高的擡起來。

刀を高く上げる。

遠遠的來了一隊騎兵。

遠くから一隊の騎兵が來た。

【説明】

形容詞が副詞に轉じ同一字が重なる場合には的を附するものと

す。

3. 様態に関するもの。

模模糊糊的過一輩子。

有耶無耶に一生を送る。

簌簌的掉下眼淚來。

ぼろぼろと涙を流す。

紙窗叫風吹得颯颯的響。

窓紙は風に吹かれてザワザワ音がする。

雨濼濼的下起來。

雨はざあざあ降り出す。

亮晶晶的月兒。

鏡の様に明るい月。

活潑潑的人兒。

活潑な人。

【説明】

様態文は音の形容語にも的を附して動詞に結合する、又亮晶晶の如く形容詞の次にあつて副詞の働きを爲すものもある。

我實在對不住你。

私は誠に君に申譯がありません。

櫻花開的真好看。

櫻花が誠に美しく咲いてをる。

等到那時自然香。

其時まで待てば自然に香氣を發する。

只得把實話說出來了。

是非なく真相を打開けた。

果然應了我的話了。

果して私の言ふ通りであつた。

道。麼。說　この様にいふ　那。麼。辦。彼様にする

【説　明】

實在、眞は確實を表示し、自然、只得は趨勢を表はし、果然是歸結を表示する。

4. 心理上に關するもの。

反。正。是。躲。不。了。的　何れにせよ避けられないのである。

簡。直。的。改。了。樣。子。了　全然様子が變つた。

這。是。他。故。意。兒。做。的　これは彼がわざとしたのである。

我。們。幸。虧。都。考。中。了　私共は幸にも皆及第した。

他。仍。舊。在。那。裏。開。買。賣。　彼は従前通り彼處で商賣をしてゐる。

【説　明】

反正は横豎、好歹等ともいひ、要するに、どつち道、どの道、何れにしても等の意味を持つてゐる。幸虧は幸而、好在等ともいひ、仍舊は又照舊、還是、依然等ともいふ。

5. 程度に關するもの。

幾。幾。乎。沒。淹。死。了　もう少しで溺死するところであつた。

彷彿。鐵。似。的。那。麼。硬。　丁度鐵のやうに堅い。

他的。酒。喝。的。更。厲。害。了　彼は尙ほ烈しく酒を飲みだした。

他的。身。體。越。發。強。健。了　彼れの體は益々強壯

になつた。

越。想。越。氣　思へば思ふ程腹が立つ。

他。說。的。話。可。笑。極。了　彼れの話は實に滑稽だ。

他。們。學。的。很。認。眞　彼等は甚だ熱心に研究する。

鄉。下。住。太。不。方。便　田舎に住むと餘り不便だ。

【説　明】

幾幾乎は又幾乎、差一點兒、險些兒等ともいひ、僅にて或結果に到達せざりしことを意味する。越發は益々、愈々の意味で單獨に使用せられる。但し場合に依つては越想越氣の如く前提語と斷定語と兩者を名狀することもある。此場合には越發は使用しない極は事後の場合には多く形容詞の後に附ける。認真は眞面目、熱心の意味である。太は期望を超過する意味のものであるから、很と混同してはならない。

6. 疑問副詞

你。幾。時。到。這。裏。來。的　君はいつ此處へ來ましたか。

許。久。沒。見。面　久しく會はない。

一。疋。有。多。長　一疋は(反物)どの程長さが

今。天。怎。麼。來。的。這。麼。多。有。る。か　

今日はどうして此様に多く來たのだらう。

7. 詰問又は感歎を表示するもの。

難。道。你。一。天。都。沒　なんと君は一日中暇の無い

工。夫。麼　ことは有るまい。

那。裏。有。這。個。理　どうして其様な道理があら

這。豈。不。是。一。舉。兩。得。麼

うか。
これ何ん和一舉兩得で
はないか。

你。莫。不。是。有。病。麼

君は病ではないのです
か。

你。瞧。這。裏。的。景。致。有。多。麼。好。看

どうです君、此處の景色は何
んと美しいではありませんか。

【說 明】

難道はなんと何々であらうか、何々ではない、或はまさか何々
で無からうとの意味で必ず語尾に麼を伴ふのである。豈は詰問に
も感歎にも使用せられ、これも語尾に麼を伴ふ。瞧は見る意味な
れども、又本文の如く人の注意を促す場合にも用ひられる。多麼
は感歎を表示する（なんと何々ではないか）との意味である。但
し疑問詞としてどの位との意味を有するから前後の關係に注意を
要する。

第 十 一 日

第 二 十 四 課

疑問句の構成

1. 你。要。學。中。國。話。麼

君は支那語を學びたいのです
か。

你。和。他。是。親。戚。麼

君とあの人は親戚ですか。

【說 明】

直説調即ち斷言句を疑問句とする場合は語尾に麼を加へる。

麼は或は嗎の字を使用することもある。

2. 那。件。事。幾。時。可。以。了。結。呢

あの件は何時結末が着くだろうか。

他。來。了。有。多。少。天。了

彼は來てから幾日になるか。

你。有。甚。麼。事。這。麼。忙。呢

君は何の事でそんなに忙しいのか。

那。裏。站。着。的。是。誰

彼處に立つてゐるのは誰か。

我的。胰。子。盒。兒。擱。在。那。裏

私の石鹼箱は何處に置いたか。

你。怎。麼。知。道。呢

君はどうして知つてるか。

離。這。裏。有。多。遠

此處からどの位遠さがあるか。

你。是。禮。拜。幾。有。工。夫

君は何曜日に暇が有るか。

【說 明】

句中既に疑問詞ある時は語尾に麼を附加しない。若し疑問詞と
麼とを併用すれば、それは疑問句ではなくして、不定句となるの
である。例へば

禮。拜。你。上。那。裏。看。花。去。麼 日曜には君は何處か

へ花見に行きますか(何處へ行くかに非ず)

你^ニ 找^ヲ 我^ヲ 來^ニ、是^ハ 有^ク 甚^ク 麼^カ 事^ヲ 麼^カ

君は何か用事で私を訪問された(何の用事の意味に非ず)

の如きで、又之を半疑問句と稱することも出来る。

3. 今^チ 天^イ 你^ニ 有^ク 事^ヲ 沒^ク 有^ク

今日君は用事が有るか有りませんか。

那^ノ 個^ノ 人^ノ 好^ク 不^ク 好^ク

あの人は善い人か悪い人か。

這^ノ 個^ノ 東^ノ 西^ノ 我^ノ 買^ク 的^ニ 貴^ク 不^ク 貴^ク

この品物は私の買い方が高いか安い。

後^ノ 天^ノ 你^ニ 還^ク 來^ル 不^ク 來^ル

明後日君はまた来るか来ませんか。

昨^ノ 天^ノ 他^ノ 上^ニ 學^ブ 了^カ 沒^ク 有^ク 昨日彼は學校へ行つたかどうか

(上學了沒有上學了の略)

【說 明】

來、不來の如く相反せる語を結合すれば疑問句となる、但し來了沒有來の如く過去詞の場合には不を用ひず、沒或は沒有と言はなければならぬ。而して同一語の第二の動詞は省略せらるゝことが多い。尙此場合にも麼は附してはならない。

4. 這^ノ 是^ハ 我^ノ 的^ニ 是^ハ 他^ノ 的^ニ

これは私のであるか、彼れのであるか。

你^ニ 是^ハ 要^ク 白^ク 的^ニ 是^ハ 要^ク 紅^ク 的^ニ

君は白いの欲しいのか赤いの欲しいか。

他^ノ 是^ハ 早^ク 上^ニ 來^ル 啊、還^ハ 是^ハ 晚^ク 上^ニ 來^ル 呢

彼は朝来るか、それとも夜来るか。

你^ニ 是^ハ 走^ク 旱^ル 路^ヲ 啊、還^ハ 是^ハ 走^ク 水^ノ 路^ヲ 呢

君は陸地に行くか、それとも船で行くか。

【說 明】

二個以上の事物を對照して問ふ場合には此語形を使用する。二種の例は意味に於て區別があるのではなく、單に前二例は語氣急に後二例は語氣緩なるに過ぎないのである。

第二十五課

半疑問句の構成

1. 有^ク 甚^ク 麼^カ 不^ク 妥^ク 當^ク 的^ニ 地^ヲ 方^ヲ 麼^カ

何か不穩當な點が有るか。

昨^ノ 天^ノ 你^ニ 到^ク 那^ノ 裏^ニ 去^ル 了^カ 麼^カ

昨日君は何處へか行きましたか。

有^ク 誰^ノ 不^ク 願^ク 意^ヲ 麼^カ

誰か希望しないものがゐますか。

【說 明】

以上は疑問詞に更に麼といふ疑問詞を伴つた例である。これは事物の何であるかを問ふのではなく、行動、状態の如何を問ふ形である。例へば 到^ク 那^ノ 裏^ニ 去^ル は何處へ行くかとの意味で、行先を問ふのであるが、到^ク 那^ノ 裏^ニ 去^ル 麼 は何處かへ行くかといふことで、行く意思の有無を尋ねることになるのである。

2. 那^ノ 一^ノ 回^ノ 地^ノ 震^ク 不^ク 知^ク 道^ク 死^ル 了^カ 多^ク 少^ク 人^ノ 了^カ

あの地震で何人死んだか知れない。

天^ノ 陰^ク 上^ニ 來^ル 了^カ、明^ノ 天^ノ 不^ク 知^ク 道^ク 下^ル 雨^ヲ 不^ク 下^ル 雨^ヲ

空が曇つて来た、明日は雨が降るかしらん。

到。現。在。他。還。不。來。不。知。道。是。甚。麼。緣。故。

今になつても彼はまだ来ない、どうした譯だらう。

不。知。道。他。今。年。學。校。畢。業。了。沒。有。

彼は今年學校を卒業したかしらん。

他。不。知。現。時。在。那。裏。哪。

彼は現在何處にゐるかしらん。

這。不。知。怎。麼。辦。才。好。

これはどうしたらよいかしらん。

【說 明】

不知道の下位の語は必ず疑問詞を置かなくてはならない。例へば(彼は今日来るかしらん)との語に對しては他今天不知道來不來とすべきもので、若し單に不知道來にては意味を成さないのである。

練 習 問 題

下記の語を支那譯せよ。

1. 今日は何曜日ですか。
2. 君はこの本は幾らか知つておますか。(幾ら…多少°錢)
3. 君は御飯を食べるか、饅頭を食べるか。(うどん…麪)
4. 君は支那へ行つたことがありますか。
5. 彼處には何か良い本がありますか。
6. あの學校は毎日何時に始まりますか。(何時…幾點°鐘 始む…開)
7. 誰れか有つてゐませんか。

8. 彼はどうしてまだ来ないかしらん。

9. もう八時になつたらうか。(もう…已°經 なる…有)

10. 彼は始終来ますか。(始終…常)

11. これは君の帽子ですか。

12. 君は電車で行くか、それとも自動車で行くか。(自動車…汽車)

解 答

1. 今天是星期幾(禮拜幾)
2. 你知道這本書是多少錢。
3. 你是要吃飯。是要吃麪。
4. 你到過中國麼。
5. 那裏有甚麼好書麼。
6. 那個學校每天幾點鐘開呢°
7. 誰有沒有。
8. 不知道他怎麼還沒來。
9. 已經有八點鐘了沒有。
10. 他常來麼。
11. 這是你的帽子麼。
12. 你是坐電車去啊。還是坐汽車去呢。

第 十 二 日

第 二 十 六 課

無條件副詞

1. 你愛^{アイ}怎^ツ麼^{アン}辦^ヌ、就^モ怎^ツ麼^{アン}辦^ヌ

何とでも好きなやうにせよ。

要^イ甚^シ麼^{アン}有^モ甚^シ麼^{アン} 欲しいものは何でもある。

那^ナ裏^リ窪^ク那^ナ裏^リ填^{テン} 何處でも低い處は平にする。

要^イ吃^チ那^ナ個^コ、吃^チ那^ナ個^コ。 どれでも喰べたいものを喰べる。

誰^シ要^イ我^ワ給^キ誰^シ

欲しい人には私は誰にでも與へる。

有^モ甚^シ麼^{アン}老^ラ子^コ、有^モ甚^シ麼^{アン}兒^ニ子^コ

この親にしてこの子有り。

有^モ幾^キ樣^{ヤウ}兒^ニ拿^ニ幾^キ樣^{ヤウ}兒^ニ 幾種類でも有丈け持つて來る。

【說 明】

以上は絶対無條件の語形であつて、必ず前提語と斷定語の兩者へ疑問詞を附するものである。此中には副詞に非ざるものもあるが、便宜上此部門に挿入したのである。

2. 無^ム論^{ロン}誰^シ我^ワ都^ド不^フ怕^パ

如何なる人でも私は恐れない。

無^ム論^{ロン}辦^{バン}甚^シ麼^{アン}事^シ、都^ド很^{ヘン}麻^マ俐^リ

何事をするにも甚だ敏活である。

他^タ不^フ論^{ロン}陰^{イン}天^{テン}晴^{チン}天^{テン}、老^ラ不^フ愛^{アイ}在^ゼ家^カ裏^リ

彼は雨天でも晴天でも、

不^フ拘^コ那^ナ裏^リ都^ド行^{コウ}

いつも家にゐたがらない。

何處でも宜しい。

不^フ管^{カン}趕^{ガン}得^{トク}上^{シヤウ}、趕^{ガン}不^フ上^{シヤウ}、

間に合つても間に合はなく

我^ワ去^ク就^{ジウ}是^シ了^{リヤウ}

とも、私は行きます。

(就是了…は何々するのみとの斷言の意。)

任^{レン}事^シ不^フ做^ゾ、竟^{チン}閒^{カン}着^{チヤウ}

仕事もせずに遊んで許り居る。

【說 明】

無論、不論、不管、不拘等は何れも同一意味にて、何れも混用し得るのである。而して其次位に置かれる語は疑問詞、不定句であることを要する。任は前者と異なり總じて前提語となつた目的格の前位に置かれ、例へば任書不念(書物も讀まず)の如く、如何なる書物も讀まずとの絶対的の語氣を表示するものである。

練習問題

華語邦譯

1. 心裏想甚麼嘴裏說甚麼。
2. 你到那裏去買、要甚麼東西有甚麼東西。
3. 我愛上那裏上那裏。
4. 誰跑第一誰得獎賞。
5. 要多少買多少。
6. 不管是誰我都不見。(見…面會する)
7. 無論到那裏都要帶去。
8. 不拘何時都可以。

解 答

1. 心に思つたことは何でも口に出す。
2. 君は彼處へ行つて買へば欲しいものは何でも有る。
3. 私は何處でも好きな處へ行く。
4. 誰でも一着のものは賞品を貰ふ。
5. 何程でも欲しいだけ買ふ。
6. 誰に拘らず私は面會しない。
7. 何處へ行くにしても持つて行く。
8. 何時でも宜しい。

第二十七課

接續詞

1. 我^{ワオ}最^{ゾイ}愛^{アイ}春^{チユン}天^{テン}和^ハ秋^{チウ}天^{テン} 私^シは春^{チユン}と秋^{チウ}とが最^{ゾイ}も好^{ハオ}き
である。

貴^{クオ}見^イ是^シ和^ハ敝^ベ見^イ正^ゼ是^シ一^{イチ}樣^{ヤウ}

貴方の意見は私の意見と丁度同じです。

今^{キン}天^{テン}比^ヒ昨^{チエ}天^{テン}暖^ヌ和^ハ 今日^{キン}は昨日^{チエ}より暖^ヌかい。

做^ゾ這^ゼ個^コ事^シ比^ヒ閒^{ケン}着^{チウ}強^{キウ}

この仕事をするは遊んでをるより勝しである。

禮^{レイ}拜^{パイ}或^{ハク}是^シ禮^{レイ}拜^{パイ}六^{ロク}好^{ハオ} 日^{ニチ}曜^{ヤウ}か若^{ニク}くは土^ド曜^{ヤウ}日^{ニチ}が宜^イい。

或^{ハク}我^{ワオ}去^キ或^{ハク}你^ニ去^キ都^ド行^{キウ}

私^シが行^キつても或^{ハク}は君^{キン}が行^キつても、ど^ドち^チら^ラでも宜^イし。

東^{ドン}西^シ也^ヤ好^{ハオ}、價^{ケン}一^{イチ}錢^{セン}也^ヤ便^ピ宜^イ物^{モノ}も良^{リョウ}く直^{チキ}段^{タン}も安^{アン}い。

【說 明】

以上は對等の語句を連接した例を示してゐる。閒着は仕事をせず遊んでをる意、強はまさること、便宜は字の如き意味より轉用して安價の意となる。

2. 他^タ回^ホ來^{ライ}了^{リョウ}、我^{ワオ}就^{ジウ}走^{ツォウ}

彼^タれ^レが歸^キつて來^{ライ}たならば私^シは出^{シュツ}か^カけ^ケる。

不^フ下^{シャ}雨^ユ就^{ジウ}去^キ、下^{シャ}雨^ユ就^{ジウ}不^フ去^キ

雨^ユが降^{クワ}らなければ行^キくし、雨^ユが降^{クワ}れば行^キかない。

張^{チウ}口^{コウ}就^{ジウ}罵^マ、舉^{キウ}手^{シュ}就^{ジウ}打^タ

口^{コウ}を開^{カイ}けば叱^シり、手^{シュ}を舉^{キウ}げれば打^タつ。

一^{イチ}寸^{シン}聽^{テイ}就^{ジウ}記^キ下^カ 一^{イチ}寸^{シン}聽^{テイ}けば覺^ケえてしま^{シマ}う。

青^{チン}草^{ツァオ}一^{イチ}發^フ芽^ヤ兒^ニ、綿^ミ衣^イ裳^{ヤウ}就^{ジウ}穿^{チュ}不^フ住^{ヂウ}了^{リョウ}

草^{ツァオ}が一^{イチ}寸^{シン}芽^ヤを出^{シュツ}すと、綿^ミ入^ニは着^{チウ}てゐ^ミられな^ナくなる。

若^{ニク}是^シ實^シ牢^{ラウ}價^{ケン}兒^ニ、我^{ワオ}就^{ジウ}買^{マイ}幾^キ個^コ

もし確^{ケツ}實^シな直^{チキ}段^{タン}ならば私^シは少^{シウ}し買^{マイ}ふ。

若^{ニク}是^シ這^ゼ麼^マ辦^{パン}、一^{イチ}定^{テイ}就^{ジウ}成^{チン}了^{リョウ}

もしこのやうにすれば、必^{ヒツ}ず成^{チン}功^{コウ}する。

【說 明】

以上は條件法の接續詞である、就は文章に於ける即、則、乃等に相當し斷定句の上部に置くものである。但し斷定句に主格となる語ある場合は其主格の次位に置く。

3. 因^{イン}為^{ウェイ}認^{ニン}真^{ジン}所^ソ以^イ長^{チン}進^{ジン}

熱^{ニツ}心^{シン}であるからそれ故^コ進^{ジン}歩^ポする。

因^{イン}為^{ウェイ}天^{テン}暖^ヌ和^ハ了^{リョウ}所^ソ以^イ出^{シュツ}去^キ遊^ユ玩^{ワン}的^テ人^{ニン}多^ダ

陽氣が暖くなつたので、それで遊びに出る人が多い。

因爲事情忙、所以短過去請安

仕事が忙しいので、それ故御無沙汰してをります。

【説明】

以上は原因結果の接續例である。場合により因爲、所以は一方を省略せられることがある。短は缺く意味、過去は去と同義、請安は機嫌を伺ふ意味である。

第十三日

不但沒有益處、而且還有害。

益が無いのみならず、且つ尙ほ害がある。

坐船去、不但舒服、而且又省盤費。

船で行けば、氣持好きのみならず、且つ又旅費が省ける。

不但是我一個人、就是別的人也都知道。

私一人だけではない、縦んば外の人でも皆知つてをる。

他固然有錯、你也沒有不是。

彼は勿論誤りは有るが、君にも非は有る。

本國人尙且不明白、何況是隔着國的人呢

自國人ですらも分らぬものを況して外國人では尙ほ分らう筈がない。

連一根針掉在地下、都聽見。

一本の針が下に落ちてすらも聴こえる。

你既知道、怎麼不預先來告訴我。

君は知つてゐる癖に何故豫め私に話さないのか。

【説明】

以上は一事を更に展開する場合の接續例舒服は心地良きこと、盤費は旅費の意、就是は縦んば、假令の意味、不是は不好と同義である。連と尙且とは同一意味であるが、連は句頭に置くといふ差異があり、掉は落ちること、既は……である以上、……であるからはといふ既然事實の上に置く語である。預は豫と混用せられてあらかじめの意であり、告訴は訴へる意味ではなく告げる意味に用ひらる。

或戰或和還沒有準信

交戦するか媾和するか、まだ確報がない。

不是下雨就是颶風、所沒有好天氣。

雨が降らなければ風が吹き、少しも好い天氣が無い。

你是先洗澡啊、還是先吃飯呢

君は先きに湯に入りますか、それとも先きに御飯を食べますか。

那個人的行為、是、不是糊塗就是瘋子

あの人の行動は馬鹿でなければ氣狂ひだ。

【説明】

以上は選擇的接續詞である。不是……就是は何々に非ざれば則ち何々といふ意味で何れか一方に對するをいふのである。

他認得我、我可不能認得他

彼は私を知つてゐるが、私は彼を知らない。

我勸了。他好幾回。他可是。都不聽我的話。

私は幾度も彼を忠告したが、併し彼は何時も私の言ふことを聽かない。

行李都預備好了。就是護照還沒下來。

荷物は全部用意は整つたが、何分旅券がまだ下付されない。

他沒別的能耐。就是勤謹。

彼は別に技量は無いが、併し勤勉である。

許多人都反對他的主張。然而他的主張總不改變。

多數の人は彼れの主張に反對するが、併し彼れの主張はどうしても變らない。

鐵本來不是貴金屬。但是他的用途。比金銀還廣。

鐵は本來貴金屬ではないが、併しその用途は金銀より尙ほ廣い。

人都把胃看輕了。其實百般的病。全是打胃裏生出來的。

人は皆胃を輕視するが、其實一切の病は悉く胃から生ずるのである。

【說明】

以上の例句は總て反轉接續詞である。可と可是とは同一意味ではあるが前者は語勢切迫し、後者は緩かであるといふ區別がある。主格は往々此語の前位に置かれる。就是は可是に比して語氣強きものと解すれば宜しい。但し何分にもとの意味を含まれることがある。然而は文章言であるけれども口語にも使用せられ、同一意味である。

7. 人雖死了。精神可不能死。

人は死しても併し精神は死滅することなし。

牡丹花雖美。可還得綠葉扶持。牡丹の花は美

しいけれども、併し尙ほ綠の葉の扶けが無ければ駄目である。

若是應該花的。就是花幾百塊錢。也不

要緊。もし遺ふべきものであつたならば、縱ひ何百圓遺

つても構はない。

縱然他不來。你也是要去的。

縱ひ彼が來なくとも、君は行かなければいけないのだ。

任憑有多大本事。也沒法子辦理。

假令如何に大手腕が有るとも處理する方法はない。

【說明】

以上は讓歩的接續詞である、雖は雖然ともいひ、賓句は可或は也を以て承接する、縱然の主句は一事物を指摘するものであるけれども、任憑の主句は疑問形であるのが普通である。此兩者を兼ねるものに就是といふ語がある。故に我々は多く就是を使用するのである。花は金錢を遺ふ意、多大はどれ程の、どの位といふ疑問數詞、本事は能耐と同義にて技倆、手腕の意。

以上接續詞の大體を例示せるに過ぎない。之を悉く網羅することは専門的となり、頗る煩雜であるから此位で打切ることにして。

第十四日

第二十八課

語尾の助字

了、啦 動作の完了を表示する時及び一語の終了を示す時に使用するのが普通である。但し其他語勢を強調する場合にも語尾に附せられることがある。

〔例〕 我早來了 私は疾うに來た。 開了口子了 堤防が切れた。 這是難題目了(決定的) これは難問題だ。

罷了 決定的の語氣で、文章言に於ける(……せんのみ)に相當する、又限定的語氣もあつて不過云々の語尾に附せらる(……に過ぎざるのみ)の如きである。

〔例〕 拿他解悶兒罷了 それを鬱晴らしにしてゐるのみ 不過如此罷了 只そんなことに過ぎないのだ。

就是了 前者と殆んど差異が無い。

〔例〕 我天天兒不閒着就是了 唯毎日遊んでゐない丈の事さ。 回頭我給你就是了 後にお前に上げますよ。

呢 警告的語氣例へば(此處に居ますよ、此處に居るではないか)の如き場合と、疑問句の句尾に置かれるものとの二種がある。

〔例〕 你一定來、我在家裏等着呢 屹度お出でなさい、私は家で待つてますよ。 他在[〃]那裏呢 彼は[〃]何處にゐるでせう。

罷 吧 推定、要求、勸請の語氣表示に使用せらる。

〔例〕 恐怕不容易辦吧 恐らく容易く出來まい。 我去看看罷 私が行つて見て來よう。 你快走吧、看下起雨來 君早く歩きなさい、雨が降つて來ます。 請您慢着點兒說罷 どうぞ少し緩くり言ふて下さい。

麼、嗎 疑問句の句尾に置く(前述疑問詞の構成参照)

啊 輕き疑問句と、驚歎、感慨深き句調に附せられる、啊は上位の語音によつて、呀、哇、哪と轉訛することがある。

〔例〕 一向忙不忙啊 近頃はお忙しいですか。

你快來呀 速く來なさい。

我家裏還有哇 私は家にまだ有りますよ。

哪 你們快來看哪(啊) 皆早く來て御覽なさい。

現在狀態、疑問句(啊の轉訛)、驚異等の句尾に附せらる。

〔例〕 他念着書哪 彼は讀書してゐます。

我還不知道哪 私はまだ知りません(現在句)

敢情是這麼貴哪 なんとそんなに高價なのですか。

其他數種あるが概して以上の轉訛したものであるから省略する。

第二十九課

感歎詞

唉(哎、噯) 慨歎、感慨、人を呼びかける等に發せらるるもの。

〔例〕 唉可惜了[〃]兒 アー惜いことをした。

唉怎麼辦纔好 アーどうしたら宜いだらう。

唉實在不成人 アー實に仕様がな人間だ。

唉別這麼鬧啊 オイそんなに騒いではいけない。

^{アイト} 唉呀 感慨、驚異、感傷を表示する聲。

- 〔例〕 唉呀、真可惜 アー眞實に残念だ。
 唉呀、這麼點兒事 還辦不了麼
 なんだ、これ許りの事が遣り切れないのか。
 唉呀牆要倒了 アレアレ壁が倒れそうだ。
 唉呀、你怎麼會落的這般光景
 オヤオヤ、君はどうして此様な有様になつたか。

^ア 啊 肯定、驚異、稱讚を表示する聲。

- 〔例〕 啊、你說的不錯 オー君の言ふ通りだ。
 啊、了不得 アーこれは堪らない。
 啊、叫人真佩服 アー全く感服した。

^ア 哦 前者に比し語勢重きもの。

- 〔例〕 哦不錯、我想起來了 オー左様、思ひ出しました。
 哦您來了請坐請坐 オヤ、ゐらつしやい、どうぞお座り。

^ア 哼 肯諾、卑下、呻吟等の聲。

- 〔例〕 哼就這麼辦 ウンその通りにしやう。
 哼他會。甚麼 フン彼は何を知つてるものか。
 苦的直哼々 苦しがつて頻りにウンウンいふてゐる。

^ア 噤 制止或は感慨の表示、

- 〔例〕 噤、別提了 アー話になりません。
 噤沒了指望了 アー絶望だ。

^ア 嘿 制止の語勢強きもの、

- 〔例〕 嘿、靜靜兒的罷 オイ靜かにしないかい
 嘿小心 オイ氣を付けよ。

^ア 嘍 驚異、驚歎の表示 〔例〕 嘍好險哪 オー危ない。
 嘍時光過的好快呀 アー月日の經つのは實に速い。
 其他文字あるも要するに轉訛せるに過ぎない。

練習問題

華語日譯

1. 看了一會兒報寫了幾封信就出門看朋友去了。
2. 廊房是在北京和天津的中間。
3. 今日的世界不但洪水汎濫而且猛獸橫行。
4. 我還走不動何況是你。
5. 說話句句留心尙且不免有錯、何況信口開河呢
 信口開河…口に任せて喋言り立てる。
6. 連一句都不明白。
7. 天天兒不是魚就是肉、我都吃膩了 膩…飽く。
8. 一般人只希望升官發財、他可是專心研究學問。
9. 他這幾年來用功太過、所以得了腦病。
10. 若是我能辦、我一定辦。
11. 就是西天出了太陽、我也不改變宗旨。
12. 世態炎涼、有了錢、纔有朋友呢。
13. 今天大概不能下雨罷。

用功……勉強する 發財……金を作る
 宗旨……趣旨 世態炎涼……世相輕薄

解答

1. 暫く新聞を見二三通手紙を書き、そして外出して友人を訪問に行つた。

2. 廊房は北京と天津の中間にある。
3. 今日の世界は洪水氾濫し且猛獸が横行す。
4. 私まで歩けないものを況して君には尙歩けない。
5. 言葉は一言一言注意してすらも尙間違が有る況して口に任せて喋り立てゝは尙誤りが出る。
6. 一言すらも分らない。
7. 毎日魚でなければ豚肉で、私は飽きてしまつた。
8. 一般の人は只陸進と理財を望んでゐるが、併し彼は専心學術を研究してゐる。
9. 彼は此數年來過度に勉強したので、腦病に罹つた。
10. もし私が出来ることなら、必ずやります。
11. 縦ひ太陽が西から出ても、私は主義を易へぬ。
12. 世の中は輕薄で、金錢が有れば、始めて友人が出来る。
13. 今日大方雨は降らないだらう。

第 三 週

第十五日

白話篇 第一

^{台オ} ^{台オ} ^{ウエンヌ} ^{シイラウグ} ^{タイー} ^{ジユオ} ^ニ ^{フイ} ^{トウ} ^{ジユ} ^マ ^{ホイ}
 哥-哥 問。 兄-弟。 說「你 愛。 讀。 書。 麼」。 兄-弟。 回
^ダ ^{ウオ} ^{ヘンヌ} ^{ヘンヌ} ^{ハオ}
 答 說「我 很 愛 讀 書」 哥-哥 說「很 好、 讀 書 是。 一
^{チイ} ^{エニス} ^{ツオ} ^イ ^{アオ} ^{チンヌ} ^ア ^ジ
 件。 最。 要。 緊。 的。 事。」

【註 解】

一件は事件といふ名詞の助數詞であつて、俗に之を陪伴字ともいふ。名詞には各々專屬の助數詞あり、船には一隻、車には一輛、刀には一把といふ類である。最要緊的事の如く副詞(最)を伴つた形容詞(要緊)が名詞の附屬言となるときは「的」を介して結合するのである。即ち頂高的山(一番高い山)、很深的河(甚だ深い河)といふ如くである。

【譯 解】

兄が弟に向つて「お前は讀書が好きか」と尋ねると、弟は「僕は非常に讀書が好きです」と答へたら、兄は「それは大へん好い事だ、讀書は一つの最も肝要な事だ」と言ふた。

第 二

^ニ ^ブ ^{カンヌ} ^{チイ} ^{エニス} ^{フイ} ^{チイ} ^ニ ^{ツオ} ^ジ ^{オウ} ^マ ^ケ ^ム ^ヌ ^イ ^エ ^シ ^イ ^オ ^ト ^オ
 你 不 看。 見。 飛。 禽 走。 獸。 麼。 他。 們。 也 曉。 得
^ニ ^{ナウ} ^{チイ} ^ケ ^ム ^{コウ} ^{ツオ} ^イ ^チ ^ジ
 吃。 曉。 得。 住。 就。 是。 不。 能。 毅。 讀。 書。 所。 以。 知。 識。 不。
^ホ ^グ ^{エニス}
 如。 人。 啊

【註 解】

△看見は見るの過去詞である。現在詞は看を用ひる。△曉得は知道と同義 知るの意。△能穀は能ふの語勢強きもの。△知識は智識である。△不如人は人に叶はないこと。△就是は但しの意。

【譯 解】

お前は鳥や獸を見ませんか。彼等も食ふことゝ住むことを知つてゐますが、但し讀書することが出来ません。夫故知識では人間に及ばないので。

第 三

天 剛 亮。先 是 雞 叫。後 來 是 鳥 叫。他 們 好 像。說「太 陽 要 出 來 了。你 們 快 起 來 看。啊。快 起 來 看 啊」

【註 解】

△剛は時間的副詞で今何々せしばかりの意味である。我刚打學校回來 私は今學校から歸つたばかり。剛來兩天就走了 二三日居たばかりで行つてしまつた。△亮は明るいといふ形容詞より動詞に轉じたるもの。△好像は丁度何々のやうであるとの意。好像是冬天的天氣 丁度冬の陽氣のやうだ。他念書好像是念經 彼の本の読み方は丁度經を讀むやうだ。櫻花謝的好像下雪似的 櫻の花が恰も雪の降るやうだ。△快 速かに △起來 起床すること。

【譯 解】

空が明るくなつたばかりの時、第一に雞が鳴き、後には鳥が鳴く。丁度「太陽が出ようとしてゐます。皆さん早く起きて御覽なさい。早く起きて御覽なさい。」といふてゐるやうである。

第 四

河 沿 上。有 兩 棵 柳 樹。樹 枝 和 樹 葉 都 垂 下。來。裏 頭 有 一 隻 黃 鶯 兒。他 叫 的 聲 音。仿 佛 跟 唱 歌 一 般。

【註 解】

△河沿上は在河沿上といふべきのを省略したのである。△棵 樹木の助數詞にて一株といふに同じ。△和 接續詞で何々と何々の意。這個和那個 これとあれ。我愛春天和秋天 私は春と秋が好きだ。△隻 鳥の助數詞、一羽といふが如し。△叫的聲音 鳴く聲。凡そ動詞が名詞の附屬言となる時は的を介して結合せらる。他寫的字很自然 彼れの書いた字は甚だ辭がない。我說的話你明白麼 私の云ふ言葉は分るか。下雨颯風的日子多 雨降り風吹きの日が多い。△彷彿 前回の好像と同一義で、恰も何々の様である意。彷彿是鐵做的 恰も鐵で作つたやうだ。彷彿是火車的聲兒 丁度汽車の音のやうだ。彷彿翻了玩具箱子似的 丁度手遊箱をひっくり返した様だ。彷彿是聽人這麼說過 何だか誰れかからその様に聽いたことがあるやうだ。△跟 和と同一である。你去跟他商量商量 お前は行つて彼と相談せよ。這個跟我買的一樣 これは私が買つたのと同じである。△一般 同士の意。

【譯 解】

河縁に二株の柳の樹があり、枝も葉も垂れ下がつてゐる。其中に一羽の鶯が居り、その鳴き聲は丁度歌をうたうやうである。

第五

蠶豆。花。的。形。狀。很。像。蝴。蝶。有。兩。個。蝴。蝶。落。在。蠶。豆。花。上。遠。遠。的。看。去。竟。辨。不。出。那。個。是。花。那。個。是。蝴。蝶。

【註 解】

△ 蠶豆花 そら豆。△ 很像 甚だ似る。△ 落 止まる。△ 遠遠的 副詞、遠くより。△ 竟 此處にては結局の意味である。△ 辨不出 區別がつかぬとの意。△ 那個 何れ。

【譯 解】

空豆の花の形状は蝴蝶によく似てゐます。二匹の蝶が空豆の花に止つてゐますが、遠くから見ますと、どちらが花で、どちらが蝶々か、全く區別がつきません。

第六

桃。樹。！ 你。已。經。開。了。花。了。螞。蜂。飛。來。蝴。蝶。飛。來。鳥。兒。也。飛。來。都。和。你。做。朋。友。； 你。心。裏。高。興。不。高。興？

【註 解】

△ 已經 已に。△ 螞蜂 蜂。△ 也 鳥も来るのもの意。△ 都 總て△ 和は何々と何々のとに相當す。△ 做朋友 友達となるの意。△ 做學生 學生となる。 做武官 武官となるの類。△ 高興 樂しい、嬉しい、面白がる等の意味、打消を挾めば疑問詞となる。

【譯 解】

桃の樹よ、汝は已に花を開けり。蜂飛び來り、蝶飛び來り、鳥も飛び來り、皆汝と朋友となる。汝は心中樂しきや否や。

第七

枇。杷。是。冬。天。開。花。； 明。年。夏。天。子。兒。纔。熟。的。時。候。； 顏。色。兒。青。味。兒。又。酸。； 熟。了。顏。色。兒。黃。味。兒。又。甜。； 去。了。皮。和。核。兒。就。可。以。吃。

【註 解】

△ 子兒 實の意。△ 時候は時をいふ。△ 顏色兒 色、色彩。△ 又 事柄の重疊する場合の副詞、又好又賤 良くて安い。他又搬家了 彼は又轉居した。の如し。△ 甜 甘い。△ 去皮 皮を剥き取る。△ 可以 支障無く行ひ得るの意。當天可以回來 其日に歸つて來ることが出来る。雨住了可以出門了 雨が止んだ、外出せられる。△ 就 何々すれば、何々なればの意。

【譯 解】

枇杷は冬花が咲き、翌年の夏漸く實が熟すのである。生の時には色青く味も酸いが、熟せば色は黄いろく味も又甘くなり、皮と種を取れば食ふことが出来る。

第八

種。了。幾。畝。地。桑。樹。到。了。春。天。發。芽。兒。了。趕。芽。兒。長。成。了。葉。子。農。家。婦。女。就。都。帶。着。剪。子。和。筐。子。成。一。群。的。到。那。裏。去。採。好。

回 家 養 蠶

【註 解】

△種 植える。△幾畝 數畝といふが如く、三四畝、五六畝をいふ。△趕 時期動作の済んだ時或結果を發生する如き場合に用ひられる一種の接續詞。趕我到了那裏人都散了 自分が其處へ行つてみると人は皆解散してしまつた。趕我回去一找、所沒找着 私が戻つて行つて搜してみると、一向見當らなかつた。△剪子 鉸。△筐子 籠、笊の類。△採 取入れる。△好 事をするに都合好くする意であるが、邦語には適語が無いから、そうしてに譯せば意味が稍、近いと思ふ。今天預備好了行李、好明天一早動身 今日荷物を完全に用意して仕舞へば、明日早朝出立するに都合が好い。你常々來信、家裏人也好放心 お前が始終便りを寄越せば、そうすれば家族の者も安心するといふものだ。

【譯 解】

五六畝の桑を植ゑたら、春になつて芽を出した。芽が育つて葉になると、すると農家の女は皆鉸や籠を持ち、一群となつて其處へ行つて採り入れ、そして家に歸つて蠶を飼う。

練 習

口語華譯

1. 何だか何處かで見たことがあるやうだ。
2. 花は咲いたばかりの時が宜しい。
3. どれが實物か、どれが偽物か區別がつかぬ。
實物……真的。 偽物……假的。
4. これは私が言ふたのと同じだ。

5. 今頃は已に彼は北京に到着したらう。
6. 彼は兄によく似てをる。
華語日譯
7. 遠遠的聽見一聲砲聲。
8. 在樹上落着一隻鳥。
9. 這個材料又好又結實。
10. 我已經說了好幾回了。
11. 心裏好像水洗了一樣。

解 答

1. 彷彿在那裏看見過。
2. 花是剛開的時候是好。
3. 我辨不出那°個是真的、那°個是假的。
4. 這個是和我說的一樣。
5. 這個時候他已經到了北京了罷。
6. 他很像哥哥。
7. 遠くに一發砲聲を聽いた。
8. 樹に一羽の鳥が止まつてゐる。
9. この地質は良くてその上丈夫だ。
10. 私はもう幾度も言ふた。
11. 心は丁度水で洗つたと同じやうである。

第十六日

第九

妹。妹。問。哥。哥。說「人爲甚麼要養蠶呢」哥。哥
 說「蠶和人很有關係，像我們們的綢衣服
 那材料就是蠶絲織出來的」

【註解】

△ 蠶和人 蠶と人。△ 像 の如き。像今天這樣天氣 今日のやうなこんな天氣。人都像他那麼用心就好了 人が皆彼れの如く熱心であつたならば宜しい。不_レ像東京這麼大 東京のやうに此様に大きくない。△ 綢 支那絹。△ 就是 即ち。△ 織出來 織成す。出來には成就すると現出するとの兩意がある。例へば 他的中國話學得出來 は前者に屬し、他的意思我看出來了 は後者に屬す。

【譯解】

妹が兄に「人は何故養蠶をしようとするのですか」と問ねたら兄は「蠶と人とは大へん關係が深いので、私達の絹の着物のその地質は即ち蠶の糸で織り出したものです」といつた。

第十

衣服的材料是有布的有綢子的綢子沒有
 布結實與其做綢子的不如做布的好

【註解】

△ 布 木綿。△ 綢子 支那絹。△ 沒有布結實 木綿程丈夫でない

此場合の沒有は比較否定となるものである。例：這個沒有那個好これはあれほど良くない。他沒有我忙 彼れは私ほど忙しくない。牛沒有馬跑的快 牛は馬ほど速く走れない。△ 結實 堅牢、丈夫。△ 與其……不如…… 接續詞に屬し、何々するよりは何々する方が宜いの意味で展開的の用法。與其閒着不如下下棋 遊んでゐるよりは寧ろ碁でも打つた方が宜い。與其這麼白坐着還不如睡覺この様に只座つてゐる位なら、まだ寧ろ寝た方が宜い。與其悔於終不如慎於始 終りに後悔するよりは一層始に慎んだ方がよい。

【譯解】

衣服の材料には木綿のものも有り絹のものも有る。絹は木綿ほど丈夫でない。絹のものを作るくらいなら、寧ろ木綿の物を作つた方が宜しい。

第十一

街上一家布店裏頭的貨物很多。旁邊
 一塊招牌上寫着「貨真價實」
 無欺

【註解】

△ 街上は在街上の略。冒頭の示處言は前置詞を省略することが多い。上は位置を表示するを以て在は省略せらるゝも意味に變化はないのである。△ 貨物 商品。△ 旁邊 傍側の意。△ 挂 掛と同じ。△ 一塊 木の助數詞。△ 招牌 看板。△ 寫着 現在状態にて書いてある意。

【譯解】

町に一軒の木綿店が有り、中には商品が甚だ多い。傍に一枚の看板を掛け、其表には「品物に偽りなく、値段は確實、老人子供にも掛値なし」と書いてある。

第十二

我^{ウオ}。家^{チイ}有^{パー}八^{フエン}個^{フウ}。人^ム。祖^ニ母^ン年^チ。紀^イ最^ツ。大^オ。父^フ。親^チ在^{イン}。外^ン。頭^ン做^ン。生^ン。意^ン。大^ン。哥^ン去^ン。當^ン。兵^ン。二^ン。哥^ン和^ン。我^ン在^ン。學^ン。校^ン裏^ン。讀^ン。書^ン。姐^ン。姐^ン已^ン。經^ン。出^ン。嫁^ン。兄^ン。弟^ン。剛^ン。會^ン。說^ン。話^ン。家^ン。事^ン。都^ン。是^ン。由^ン。母^ン。親^ン。照^ン。管^ン。的^ン。

【註 解】

△年紀 年齢。△外頭 外或は他處。△大哥 上の兄。△當兵 兵となる。當は職業的の事に當る意味。當差使 職に當る、勤務する。當教師 教師となる。當總理大臣總理大臣となる。△二哥 次の兄。△姐姐 姉。△已經 已に。△出嫁 字の如く結婚せること。△兄弟 弟。△剛 何々したばかりの意。△會 習ひ覚えること會 説話は口が利けるとの意。△會寫字 字が書ける。會騎馬 馬に乗れる。不會吃烟 烟草を飲むことを知らぬ。△由 起點を示す場合と、人の手を経るとの二様の用法有り、由我做主（私が主動者となる、自分の自由となる）由上司管理（上官に出つて管理せらる）の如きは後者に屬す。△照管 支配する。

【譯 解】

私の家には八人の人が居る。祖母は最も年が上、父は他處で商業を営み、上の兄は兵役に服し、次の兄と私とは學校に入つてをり、姉は已に縁付き、弟は口が利けだしたばかりであつて、家事

は總て母によつて支配されて居る。

第十三

我^{ウオ}住^チ。在^ン。城^ン裏^ン。姑^ク。母^ム住^ク。在^ン。城^ン外^ン。昨^フ。天^オ星^シ。期^ン日^ン。我^チ同^ン。了^ン。兄^タ。弟^オ。到^ク。姑^ク。母^ム家^ノ去^ル。一^ノ路^ノ上^ニ。只^チ看^ク。一^ノ見^ノ。高^ク。的^ク。是^ク。山^ノ。低^ク。的^ク。是^ク。田^ノ。流^ク。的^ク。是^ク。水^ノ。覺^ク。得^ク。城^ノ外^ノ的^ク。風^ノ。景^ノ。比^ク。城^ノ裏^ノ好^ク。得^ク。多^ク。

【註 解】

△城裏 市内に同じ。△姑母 母の兄弟の妻のこと、即ち邦語にては總稱して叔母といふ。△城外 市外、郊外。△星期日 日曜日。△同了 連れて。△一路上 途中の意。△只 たゞ何々のみの意。△看見 見るの過去にて眼に入るとの語に近し。△高的是山 △高きものは山との意なれども、それでは邦語としては不自然だから、山は高くと譯す。△覺得 感ずる意。△好得多 ずつと宜しとの意で比較形である。今天暖和得多 今日はずつと暖かい。這東西貴得多 この品物はずつと高い。他比我跑的快得多 彼は私よりずつと走りかたが速い。他的程度高得多了 彼れの學力はずつとずつと高い。

【譯 解】

私は市内に住み、叔母は郊外に住んでゐる。昨日の日曜日に私は弟を連れて叔母の家に行つた。途中眼に入るものは只高きは山低きは田、流れるは水だけで、郊外の景色は市内よりずつと好いと思つた。

練習

次の間に答へよ。

1. 你們的衣服是用甚麼做的。
2. 你現在穿的是甚麼衣服。
3. 綢子比布結實不結實。
4. 布店傍邊挂的是甚麼東西。
5. 招牌上有甚麼字。
6. 家裏有八個人都是誰 (第十二課に就いて)
7. 父親在家麼。
8. 大哥做甚麼事。
9. 在學校裏讀書是誰。
10. 姐姐也在家麼。
11. 爲甚麼城外比城裏好呢 (第十三課に就いて)
12. 星期日你到那裏去了。
13. 你是一個人去的麼。
14. 城外的風景怎麼樣。

解 答

1. 我們的衣服用布做的。
2. 是夾衣服。
3. 不結實。
4. 挂的是招牌。
5. 是貨真價實童叟無欺。
6. 祖母、父親、母親、大哥、二哥、姐姐、我、兄弟。
7. 不在家、在外頭做生意。
8. 當兵。

9. 二哥和我。
10. 出嫁了。
11. 風景好。
12. 到姑母家去了。
13. 不是、同着兄弟去了。
14. 比城裏好得多。

第 十 四

我°家°的°屋°子°一°共°有°五°間°客°廳°一°間°正°房°
 兩°間°廂°房°廚°房°各°一°間°前°面°有°一°個°院°子°
 院°子°裏°一°邊°是°井°一°邊°是°梧°桐°樹°一°到°夏°
 天°滿°院°子°都°是°陰°涼°所°以°最°涼°快°

【註 解】

△屋子は部屋と家との二つの意味がある。此處では家と解す。

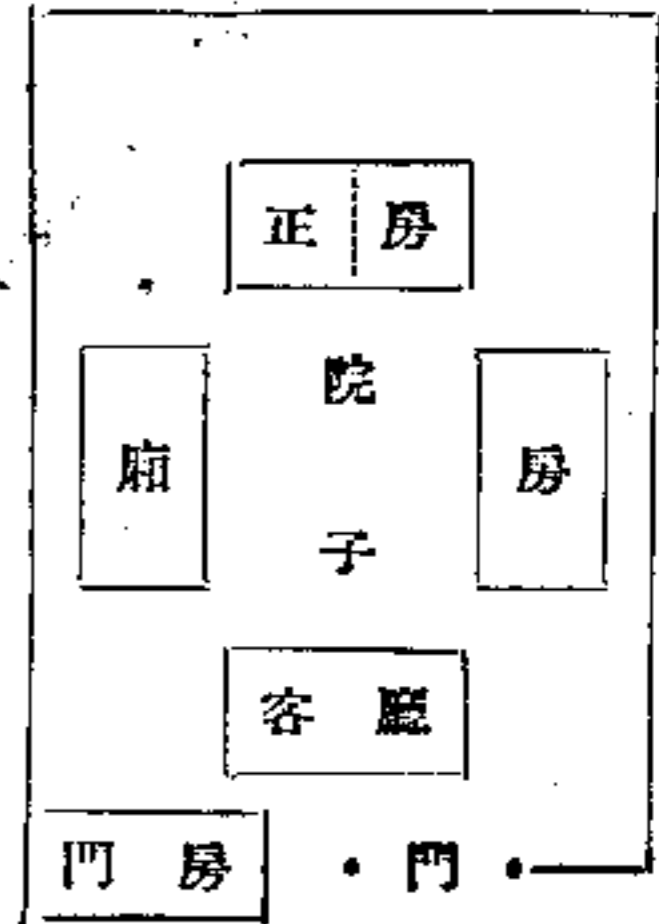
△共 合計。△五間 は部屋の數が五つ、いつまの意。

△客廳 客間。△正房 家族の居住する部屋。△廂房左右の離れたる部屋。

△廚房 臺所 △院子 屋前の空地、假りに庭と譯す。△一邊 一方、片方。

△梧桐樹 青桐 △滿院子 庭一面、庭全部。△陰涼日蔭。△所以 所以

れ故。涼快 涼しい。



支那家屋の圖

【譯 解】

私の家は全部で五間ある。客間が一間、奥の間が二間、離座敷と臺所が一間づつである。前に庭が一つあり、庭は一方は井戸、一方は青桐の樹で、夏になると庭一面日蔭となる故、大層涼しい。

第 十 五

做。了。鄰。居，第。一。要。和。睦。吳。蔣。兩。家，同
朝。西，窗。朝。西，傍。晚。看。見。太。陽。低。門。朝
南，窗。朝。南，日。暖。風。和。不。用。關。門。朝。北，窗
朝。北，天。冷。風。多。開。不。得。

【註 解】

△ 鄰居 鄰人、隣同志。△ 第一 一は順序数の場合には1聲に發す。△ 一條 街路の助數詞。△ 同我家 は和我家と同一にして「私の家と」との意。△ 相好 仲が善い、親密。△ 一定 必ず。△ 幫助 字の如く手傳け、助けること。△ 算得 「先づ何々といふものである」との意。△ 有道理 「筋道に叶つてをる」、或は「情理に合す」との意。

【譯 解】

隣人となつたならば、第一に親睦でなければならぬ。吳氏と蔣氏の二軒は、私の家と同じ町に住んでゐるが、平素私方と甚だ親密で、私方に何かあると、必ず來て手傳つて呉れる。この二軒が隣同志となつたことは誠に意義があるといふことが出来る。

第 十 七 日

第 十 六

門。朝。東，窗。朝。東，早。起。看。見。太。陽。紅。門
朝。西，窗。朝。西，傍。晚。看。見。太。陽。低。門。朝
南，窗。朝。南，日。暖。風。和。不。用。關。門。朝。北，窗
朝。北，天。冷。風。多。開。不。得。

【註 解】

△ 朝は面す、向くの意。但し停止不動のものゝ面する方面のみに使用す。△ 早起 朝である、早く起きると誤つてはならない。△ 紅 赤いこと。△ 傍晚 日暮れ方、傍は2聲有氣であるが、此處では4聲無氣に發す。△ 日暖 字の如く日は暖いの意。△ 風和 そよそよと吹く風。△ 不用關 閉めるに及ばぬの意。不用說 言ふに及ばぬ。不用買 買ふに及ばぬ。△ 開不得 開いてをかれぬこと。不得は有害なるためなすを得ざる意を含む。

【譯 解】

東向の門と、東向の窗は、旭赤赤と見ゆ。西向の門と、西向の窗は、夕日が低く見ゆ。南向の門と、南向の窗は、日は暖かく風やわぎ、開ける儘ぞ宜しけれ、北向の門と、北向の窓は、日は冷やかに風多く、閉させるまゝぞ宜しけれ。

第 十 七

南。風。熱。北。風。涼。東。山。西。山。好。放。羊。

羔兒向娘要奶吃。咩咩咩咩叫不歇。
叫不歇，跪變膝。阿娘辛苦兒曉得。

【註 解】

△好 何々するに宜しとの意。△羔兒 羊の子。△向娘 母に向つて。△要奶吃 乳を貰つて飲むとの意味。△咩 羊の鳴聲。
△叫不歇 「鳴いて休まない」ことだから鳴き止まずと譯す。△跪膝を折つて座ること。△阿娘 母親。阿は多少敬意を有す。△曉得 知るの意。

【譯 解】

南風は熱く北風は涼し、東の山も西の山も、羊を飼ふに都合好し。子羊は母に乳ねだり、みい みい みい みいと鳴き止まず。鳴きやまずして膝を折る。母の苦勞を子供知る。

第 十 八

驢、馬、牛、羊、雞、鴨、猪、狗，都是人家養活的。
所以叫做家畜。家畜都有用處，不是幫
人做事，就是給人做食物。他們對於我們，
們，很有益。所以我們應該好好的看待他們。

【註 解】

△鴨 家鴨(あひる) △猪 豚。△狗 犬。△養活 飼育すること。
△所以 それ故。△叫做 何々と言ひ做す。△幫 助ける。△做事 仕事をする。△不是……就是……選擇的接續詞で何々でなければ何々の意。△給人 人の爲めにの意。△應該 道理上何々す

べき筈。△好好的 親切にの意。△看待 待遇すること。

就是の例：不是要辦這個就是要辦那個的、心裏很忙

これをしやうとしたり、あれをしやうとしたり、氣が忙しい。

不是挨掌櫃的罵就是挨夥計的說

主人に悪口されるのでなければ店員に叱られる。

應該愛惜光陰 光陰は惜むべきものである。

人應該趁着年輕的時候努力用功

人は若き時に於いて極力勉強すべきである。

【譯 解】

驢馬、牛、羊、雞、家鴨、豚、犬は總て人が飼養するものであるから、夫故家畜といふ。家畜は皆役に立つ。人の仕事を手傳うとか、人の爲に食物を作るとか、吾等に對し甚だ有益である。故に吾等は親切に彼等を扱ふが當然である。

第 十 九

牛種。田、馬拉車，狗看門。他們都是畜
類，尙且會做事。我們做了人，知識比他
們高，能力比他們大。做事也要比他們認
真，那纔無愧於心哪。

【註 解】

△種 此處にては耕やす意。△拉 挽く。△看 守る意味の時は1聲に發す。看守、看護は皆1聲。△尙且 何々ですらもの意。

△會 其方法を解すること。△做了人 人と爲つたものの意。

△也 事をするこゝもの意。

張三也來看、李四也來看 ねこもしやくしも来て見る。

物産也多地方也大 産物も多く土地も大。

△要 ねばならぬ。△認真 眞面目或は熱心。△那纔 それでこそ

這麼様、這纔是好孩子哪 この様であつてこそ好子供である。

那纔合乎道理哪 それでこそ道理に叶ふといふものである。

△無愧於心 心に愧づる無し。

【譯 解】

牛は田を耕やし、馬は車を挽き、犬は門を守る。彼等は皆畜類であるけれども、それですら働くことを知つてをる。吾等人類たるものは、知識は彼等より高尚であり、能力は彼等より大である従つて事を爲すことも彼等より熱心であつてこそ心に愧かしくないといふものである。

第 二 十

一個。農夫每天起來，挑兩筐菜，到街上。去賣。他的菜很肥，又不二價。人家都搶着買。他的。他把菜賣完了，就用賣來的錢，揀家裏缺少的東西，買些兒回來。

【註 解】

△一個 或(農夫)。△每天 毎日。△起來 起きること。△挑 擔

ぐ。△筐 籠の意。△又不二價 その上掛直無しの意、即ち二様の直段無く誰に對しても一つの直段であるをいふ。又は事柄の重疊するを意味する。

這個東西又貴又不結實 この品物は高くて、その上丈夫でない。

又有學問又有閱歷 學問があり且經歷がある。

△搶着買 争つて買ふ、搶は奪ふ意。△把 目的格が動詞の前位に轉倒せられたる時、目的格の上に冠する介字で、邦語の「を」に相當する。

你把裏頭的東西拿出來 お前は中の物を取り出ささい。

他把我的話都記下了 彼は私の言葉を皆記憶した。

把衣裳拿出來曬々 着物を取り出して日に晒す。

△揀 選ぶこと。△些 多少の意、或は少こしの意味ともなる。

【譯 解】

或る農夫が毎朝起きると、二籠の野菜を擔いで町へ賣りに行く彼れの野菜は甚だ出来が良く、その上直段に懸値がないので、人は皆争つて彼れの野菜を買ふ。彼は野菜を賣り終ると、そこで賣つた金で、家に不足の物を選び、何か買つて歸つて来る。

第 二 十 一

匠。人的。生活。艱。難， 喫的。不。好， 穿的。不好。一。年。到。頭， 有空。的。時。候。也。很。少。但。是。生。在。世。界。上， 除了。老。弱。殘。廢。的。人， 都是。應該。勞。動。的。匠。人。最。勞。動， 所以。他的。職。業。很。正。當。

【註 解】

△匠人 職人。△喫的 食ふもの。△穿的 着るもの。△一年到頭 一年中。△有空 暇が有る。△但是 併し。△生在世界上 世の中に生れ合はすこと。△除了 何々より外はの意味。

除了我沒人知道 私より外には誰も知らぬ。

除了會吃飯、還會甚麼 飯を食ふより外に何を知つてるか。
△應該 何々すべき筈の意。△殘廢 不具。

【譯 解】

職人の生活は困難である。食物は粗末、着物は上等でなく、一年中暇の有る時も甚だ少ない。併し世の中に生れ合はせては、老人子供不具者の外は、皆労働すべき筈のものである。職人は最も労働するが故に、彼れの職業は甚だ正しいのである。

第 二 十 二

我^{ウオ}是^ジ牛^{ニウ}、有^{ヘン}很^タ大^ク的^テ力^{リキ}氣^キ不^バ怕^パ冷^{リョウ}、不^バ怕^パ熱^{ネツ}、
能^{ノウ}耐^{タイ}勞^{ラウ}苦^ク。吃^チ的^テ是^シ草^{サウ}料^{リョウ}、住^{ジュ}的^テ是^シ草^{サウ}屋^ウ。農^{ノウ}夫^フ和^ワ我^ワ最^{サイ}相^{サウ}好^{コウ}、我^ワ天^{テン}天^{テン}幫^{バウ}着^{チウ}他^タ做^{トウ}事^シ、作^{トウ}完^{ワン}了^{リョウ}工^{コウ}、就^{ジウ}跟^{ゲン}着^{チウ}他^タ慢^{マン}慢^{マン}的^テ回^{ホイ}家^カ。人^{ニン}家^カ都^ド笑^{シウ}我^ワ笨^{ペン}、我^ワ看^{カン}一^{イツ}班^{パン}貪^{タン}吃^チ懶^{ラン}做^{トウ}的^テ人^{ニン}、還^{ヘン}不^バ如^{ニウ}我^ワ笨^{ペン}牛^{ニウ}啊^ア！

【註 解】

△力氣 力。△怕冷 寒さを恐れる、寒がり。△草料 秣。△和我 私と。

桌子上有筆和墨 机の上に筆と墨が有る。

他和我有交情 彼と私とは交際がある。

△幫着 手傳つて。△就 そこで。△跟着 後に跟いて行くこと。
△慢慢的 徐々と。△人家 他人の意。△笨 遲鈍、無器用。△一班 一般に同じ。△貪吃懶做 食意地が張つてをるのみにて働かぬこと。△還不如 尙及ばぬ意。

【譯 解】

私は牛で、甚だ大なる力を持ち、寒さも恐れず、暑さも平気で、勞苦に堪え得られ、食ふものは秣、住居は草小屋である。農夫は我輩と最も親密で、我輩は毎日彼れの仕事を手傳ひ、仕事が済めば、彼に跟いてそろそろと家に歸つて來る。人は皆吾輩を鈍物だと笑ふが、吾輩から見れば一般の食ふて働かぬ人は、尙吾輩の如き鈍物に及ばないのである。

練 習

日語支那譯

1. 私の部屋は南向だから冬は大層暖かい。
2. 此地方は魚より外に何も食べられる(可吃)ものはない。
3. それ等(那些)の物を取り出して母に見せた。
4. 火曜日と木曜日が最も暇(工夫)がある。
5. これはあれに及ばない。
6. 若し働かなかつたら、世の中に生れてをって何の益に立役つか(有甚麼用處)。
7. 品物は良く其上直段(價錢)も安い(便宜)。
8. それでこそ友人の道である。

華語日譯

- 9. 人生在世界上應該勞動的。
- 10. 因為他的東西不二價、所以人都搶着買。
- 11. 畜類尙且會做事、何況是人類呢。
- 12. 跟着他慢慢的回家。
- 13. 挑、揀、殘廢、認真、曉得。

解 答

- 1. 我的屋子朝南所以冬天很暖和。
- 1. 這個地方除了魚、沒甚麼可吃的。
- 3. 把那東西拿出來給母親看。
- 4. 星期二和星期四最有工夫。
- 5. 這個不如那個。
- 6. 若不勞動生在世界上有甚麼用處。
- 7. 東西又好價錢又便宜。
- 8. 那纔是朋友的道理。
- 9. 人は世の中に生存してをれば當然労働すべきである。
- 10. 彼れの品物は懸直がないので、それ故人皆争つて買ふ。
- 11. 畜類ですら仕事を爲すのである、況して人に於てをやだ。
- 12. 彼れに跟いてそろそろと家に歸る。
- 13. 擔ぐ、選ぶ、不具、眞面目(熱心)、知る。

第 十 八 日

第 二 十 三

時辰鐘、滴、滴、滴、一秒一分又一刻、光

陰一去不再來、今日事、今日畢、勿換到明日。滴滴滴、好光陰、要愛惜。

【註 解】

△時辰鐘 時計。△滴滴滴 時計の刻む音。△一刻 十五分。△換到明日 明日まで延ばすこと。△愛惜 惜む意。△滴、畢、口、惜は同韻。

【譯 解】

時計の針はチクチク刻み、一秒一分一刻と、月日は去つて歸り來ず、今日の仕事は今日了へて、あすまで延ばすこと勿れ、チクチクチクチク好い日の影を、我等は愛し惜むべし。

第 二 十 四

你看這滴滴滴的是甚麼？是時辰鐘。鐘上的字都認識嗎？都認識他長針短針那個走得快呢？長針走得快。現在幾點鐘？快要到九點鐘了。怎麼知道呢？你看短針指在九字上，長針快要走到正中了。是呀！到了九點鐘了，我們去睡罷。

【註 譯】

△認識 見知ること。△那個 どれ。△走得快 動き方が速い。△怎麼 どうして、如何にしての意。△快要 將に何々せんとす。もう直きに何々せんとするの意。△是呀 強く肯定せる語氣、そらだとも、其通り、といふ如きに類す。

【譯 解】

このチツクチツクチツクチツクいふてるのは何であると思ひますか。時計です、時計の字を皆知つてゐますか。皆知つてゐます。その長針と短針とは、どちらが速く動きますか。長針の方が速く動きます。今何時ですか。もう直き九時になります。どうして分りますか。御覽なさい、短針は九の字を指し、長針はもう直き真中に來ます。その通りです、九時になります、私達は行つて寝ませう。

第二十五

陶侃做事認真。其他對人一家說「從前有一個聖人，名叫禹。連一寸的光陰，都要愛惜的。我們沒有他那樣的聰明，就是一分的光陰，也應該愛惜。纔是。若是遊蕩，不做事，生在世界上，有甚麼用處。這種人不是自己看輕自己麼？」

【註解】

△陶侃 晋の將で努力家として有名なる人。△認真 熱心。△名叫禹 名を禹といふ。△連 は都と俱に接續詞となり。何々ですらも、或は何々でさへもとの意。

連三歲的小孩子都知道 三歲の小兒ですらも知つて居る。

連一個人影兒都沒有 人の影すらもない。

連一碗茶都不敢喝 お茶一杯すらも飲まうとしない。

△愛惜 惜む。△就是……也…… 縦ひ何々でもの意味で接續詞である。

就是我不說，你也得幹 たとひ私が言はなくとも、お前は爲さなければならぬ。

就是一個錢也不可以浪費 縦ひ一錢の金でも無駄に遣つてはならぬ。

△應該 當然何々すべきとの意。

爲人子的應該孝順父母 人の子たるものは父母に孝行するは當然である。

這樣東西是應該擱在這裏的 この種の物は此處に置くべきものである。

△纔是 纔好、纔行ともいひ、それでこそ始めて宜しとの意、語調の関係上往々得(ればならぬ)應該(すべき等)の句尾に附せられることがある。得這麼辦纔是(この様にしなければならぬ)應該先預備纔行(豫め用意して置くべきである) △遊蕩 遊に耽ること。△不是……嗎 何々に非ずやの意味。△看輕 輕看ともいひ輕侮すること。

【譯解】

陶侃は事を爲すに熱心な人であつた。彼は人に向つて言ふには「昔一人の禹といふ聖人が居つて、一寸の日影すら惜しまれた。我等は禹の如く聰明でない故、假令一分の日影でも惜しむが當然である。若し遊惰放縱で事を爲さなかつたならば、世の中に生れ來て何の役に立たうか、此種の人間は自ら自分を輕蔑するものではないか」と。

第二十六

春^{チユン}天^{テイ}的^{テイ}天^チ氣^キ，好^{ハオ}像^{シイ}活^フ潑^{レイ}的^ボ孩^ハ子^イ，夏^ハ天^フ的^{レイ}天^ボ氣^フ，好^ハ像^{シイ}強^フ壯^ボ的^フ少^フ年^ボ，秋^フ冬^フ的^フ天^フ氣^フ，好^ハ像^{シイ}衰^フ敗^ボ的^フ老^フ人^ボ。但^フ是^フ冬^フ天^フ一^フ過^フ，仍^フ舊^フ可^フ以^フ回^フ到^フ春^フ天^フ做^フ了^フ老^フ人^フ，要^フ想^フ再^フ做^フ孩^フ子^フ，可^フ是^フ萬^フ萬^フ不^フ能^フ，所^フ以^フ趁^フ著^フ年^フ輕^フ的^フ時^フ候^フ，趕^フ緊^フ要^フ用^フ功^フ，不^フ然^フ歲^フ數^フ大^フ了^フ，懊^フ悔^フ也^フ來^フ不^フ及^フ了^フ。

【註 解】

△好像 恰も何々のやう。△孩子 兒童。△少 若い意味には去聲に發す。△一過 一寸經過する意。△一は一寸動作する場合の副詞。

天一晴就颯風 天氣が一寸晴れると直ぐ風が吹く。

叫涼風一吹就覺得通快 冷い風に一寸當ると清々する。

△仍舊 元の通り。△可以 何々し得るの意。△做了老人 老人となつてしまう。△要想 何々したいと思ふの意。要はしやうと思ふと解釋する。△可是 併しながら。△萬 決しての意。△趁着 機會に乗すること。△趁着空虛就去攻打 虚に乗じて攻撃す。趁着不下雨就走 雨の降らない中に出かける。△所以 夫故。△年輕年青といもいひ年若きをいふ。△趕緊 急いで、速かにの意。要用功 勉強しなければならぬ。△不然 さもなくての意。歲數 年齢。△懊悔 煩悶後悔すること。△也 亦なり。△來不及 間に合はぬ意。

【譯 解】

春の氣候は恰も活潑なる兒童の如く、夏の氣候は恰も強壯なる

青年の如く、秋冬の氣候は恰も凋衰せる老人の如くである。併し冬一たび過ぐれば、元の如く春に歸へることを得れども、老人となつて、再び小兒たらんと欲するも、併し決して爲し能ふものにあらず。故に青年の間に速かに勉強せざるべからず。然らずんば、年長するに及んで懊惱後悔するも、時期は己に遅いのである。

第 二 十 七

春^{チユン}天^{テイ}一^フ到^フ，各^フ種^フ草^フ木^フ，發^フ芽^フ的^フ發^フ芽^フ，開^フ花^フ的^フ開^フ花^フ，都^フ有^フ一^フ種^フ蓬^フ蓬^フ勃^フ勃^フ的^フ氣^フ象^フ。一^フ會^フ兒^フ蜜^フ蜂^フ飛^フ來^フ，一^フ會^フ兒^フ蝴^フ蝶^フ飛^フ來^フ，還^フ有^フ可^フ愛^フ的^フ小^フ鳥^フ，從^フ樹^フ枝^フ上^フ發^フ出^フ有^フ趣^フ的^フ聲^フ音^フ，給^フ我^フ們^フ聽^フ這^フ時^フ候^フ不^フ論^フ甚^フ麼^フ人^フ看^フ了^フ這^フ種^フ情^フ景^フ，心^フ裏^フ沒^フ有^フ不^フ快^フ活^フ的^フ，這^フ箇^フ叫^フ做^フ春^フ景^フ。

【註 解】

△種 動詞には去聲に發し、其他の場合には上聲に發す。△發芽的發芽 芽を出すものは芽を出すの意にて、各自の動作を表示する語法である。念書的念書、寫字的寫字 讀書するものは讀書し字を書くものは字を書く。玩耍的玩耍做工的做工 遊ぶものは遊び、働くものは働く。△蓬々勃々の八切れそうな形容。△一會兒 暫くの間。△給我們聽 我等に聞かせて呉れる。△不論甚麼人 如何なる人でも。△沒有不 せざる無し。△快活 氣持の好きこと。

【譯 解】

春が來ると、色々の草や木は、芽を出すものは芽を出し、花の

咲くものは花が咲き、皆一種の生きたる氣分を有つのである。
 蜜蜂が飛んで來るかと思れば又蝶が飛んで來る。其外愛らしい小
 鳥が、木の枝から面白い聲を送つて私共に聽かせて呉れる。此時
 如何なる人でも、このやうな有様を見て、氣分の清清しないもの
 はないのである。これを春景色といふ。

第二十八

春。天種。幾盆。菊。花，現。在。開。花。了，他。的
 顔。色。黃。白。紅。紫，各。不。相。同。他。的。形。狀。
 有。的。像。毬，有。的。像。盤。子，有。的。花。瓣。曲。彎，
 和。螃。蟹。的。脚。爪。差。不。多。每。盆。插。一。枝。竹
 簽，上。面。寫。着。各。種。花。名。

【註 解】

△種 植ゑる。△數盆 五六鉢。△顔色 色彩。△紅紫赤と槐色。
 △有的 或者。△像毬 鞠に似る。△盤子 大皿；△和 差不多
 何々と大差がない。△螃蟹 かに。△脚爪 二字にて足の意。△
 插 立てること。△竹簽 竹の札。△寫着 書いてある。

【譯 解】

春植ゑた五六鉢の菊の花は、今咲いた、其色は黄色赤色白槐と
 取り取りで、其形は鞠に似たものあり、皿に似たものあり、花瓣
 の曲りくねつて、蟹の足に似たものもあり、一鉢毎に竹の札を立
 て、表に各種の花の名が書誌してある。

第二十九

我。家。有。兩。棵。桂。樹，聽。母。親。說，這。桂。樹。是。
 生。我。的。那。一。年，父。親。買。來，種。在。院。子。裏。
 的。所。以。我。名。叫。桂。生。現。在。我。已。經。長。大。
 進。學。校。裏。讀。書。桂。樹。也。長。得。比。從。前。高。
 花。也。開。得。多。了。

【註 解】

△棵 株といふに同じ。△桂樹 木樨の樹。△聽母親說 母から
 聽く。△生我的那一年 私を生んだ年。△種 植ゑる。△院子
 庭。△所以 夫故。△名叫 名を何々といふ。△已經 二字にて
 已にの意。△長大 成育す。△進 入ること。△長得 生長して
 云々。△開得多 咲き方が多い即ち多く咲くの意。

【譯 解】

私の家に二株の木樨の樹が有る。母上の話では、この木樨の樹
 は私が生れた其年に、父上が買つて來られて、庭に植ゑたもので
 ある。それ故私を桂生といふのであるとのことである。今自分は
 已に成長し學校に入つて勉強してをるし、木樨も育つて以前より
 高くなり、花も澤山咲くやうになつた。

練 習

1. 朝涼しいうちに勉強する。
1. 牛にも似ず馬にも似ない。
3. 酒を飲む(喝酒)ものは酒を飲み、飯を食べるものは飯を食べる。
4. 疲れ(累)て動けなくなつた。
5. 人人はその様に言はないものはない。

6. 風が吹かなければ雨が降り、一日すらも好い天氣がない。

下記の各語は如何なる意味なるや。

差不多、幾點鐘、挨到明日、一會兒、長得高、種在院子裏、紫、蓬々勃々的、趕緊、快要到了、進、仍舊、アオ⁴ホイ¹、パンダ³シエ⁴、リ²ン⁴ス⁴、チェン³、ヨン⁴、コン⁴、イェン³、ウ⁴、チユイ³ホア¹。

解 答

1. 趁著早晨涼快、就用功。
2. 也不像牛、也不像馬。
3. 喝酒的喝酒、吃飯的吃飯。
4. 累得動不得了。
5. 人人沒有不這麼說的。
6. 不是颯風就是下雨沒有一個好天兒。

下語の意味。

大差無し、幾時、明日に延ばす、暫時、大きく育つ、庭に植ゑる、槐色、生生として、急いで、最早達す、入る、元通り、懊惱後悔、蟹、眞面目（熱心）勉強する、色、菊の花。

第 十 九 日

第 三 十

到^{タオ}了^ト冬^{トン}天^{テイ}呼^フ呼^フ的^{テイ}冷^レ風^フ從^フ北^ペ方^フ吹^チ
來^{ライ}各^{ガク}種^{チュン}花^ホ木^ム都^{トウ}顯^シ出^イ衰^セ敗^{パイ}的^{テイ}氣^キ象^{シヤン}。
但^{ダン}是^シ有^ユ幾^キ種^{チュン}植^チ物^フ當^{ダン}風^フ站^チ着^ヂ精^{チン}神^シ更^グ。

覺^{ジュ}飽^{バオ}滿^{マン}這^チ類^{レイ}植^チ物^フ裏^リ松^ソ竹^ツ梅^{メイ}最^ゼ著^ヂ名^{ミン}。
原^ユ來^{ライ}他^タ們^{メン}有^ユ耐^{ナイ}寒^{ハン}性^{シヤン}質^チ所^ソ以^イ人^{レン}家^カ把^バ他^タ
叫^チ做^ヂ歲^{サイ}寒^{ハン}三^{サン}友^ユ。

【註 解】

△呼呼呼 冬の風の音であるからヒューヒューといふが適當である。△當風 風の中。△站着 立つてゐる。△精神 元氣の意。△覺 感ずること。△飽滿 充實なり。△著 著名著作の意味にはチュ⁴と發音す。△叫做 呼びなす。

【譯 解】

冬となつて、冷い風が颯々と北から吹いて來ると、種々の植木は皆凋落の氣分が現れるが、併し數種の植物で、風の中に立ちて、元氣が更に旺盛なるものが有る。此種の植物中で松竹梅が最も知られてゐる。原來彼等は耐寒性をもつてゐる故、人は彼を寒時の三友といつてゐる。

第 三 十 一

你^ニ們^{メン}打^ダ開^{カイ}這^ヂ本^{ベン}書^{シュ}不^フ是^シ看^{カン}見^{ケン}許^シ多^タ字^ジ麼^マ?
這^ヂ種^{チュン}字^ジ就^ヂ叫^チ做^ヂ楷^{カイ}書^{シュ}字^ジ不^フ止^チ楷^{カイ}書^{シュ}一^{イチ}種^{チュン}還^ハ有^ユ篆^{セン}書^{シュ}隸^{レイ}書^{シュ}草^{サウ}書^{シュ}行^{ハヤウ}書^{シュ}形^{シヤウ}狀^{チヤウ}各^{ガク}有^ユ不^フ同^{トウ}現^シ在^ザ最^ゼ通^{トウ}行^{ハヤウ}的^{テイ}是^シ行^{ハヤウ}書^{シュ}楷^{カイ}書^{シュ}兩^{リウ}種^{チュン}。

【註 解】

△打開 開く。△這本書 この一冊の書物。△許多・多數。△不止 字の如く何々のみならずとの意。△還有 其他にあり。△通行 一般に行はるとの意。

【譯 解】

諸君はこの書物を開けば多くの文字を見るならん。この種の字を楷書と稱す。文字は楷書の種類に止まらず、尙篆書、隸書、草書、行書ありて、形は各々一様に非ず、現在最も通用せらるゝものは行書、楷書の二種である。

第三十二

首^{シウ}先^{シエン}造^{ツアオ}筆^{ゼー}的^{グエン}人^ジ，是^シ姓^シ蒙^{モン}恬^{テイ}名^{ミン}恬^{テイ}。當^{タング}初^{チウ}的^テ筆^{ペン}尖^{チエン}，是^シ兔^{トウ}子^{ツォ}毛^{マオ}做^{ツォ}的^{グエン}。後^{ホウ}來^{ライ}纒^{ヤン}有^{マオ}羊^{ヤン}毛^{マオ}狼^{ラン}毛^{マオ}雞^チ毛^{マオ}等^{トウ}筆^{ペン}，如^チ今^{キン}除^チ去^ク毛^{マオ}筆^{ペン}，又^マ有^ユ鉛^イ筆^{ペン}・石^シ筆^{ペン}・粉^フ筆^{ペン}・鋼^{カン}筆^{ペン}，名^{ミン}稱^{チン}雖^{スイ}然^{ラン}不^フ同^{トウ}，用^ユ處^{チュ}可^カ是^シ一^{イツ}樣^{ヤン}。

【註 解】

△首先 第一番。△蒙恬 秦の將軍、始皇の時兵三十萬人を率ゐて長城を築ける人。△當初 最初の意。△筆尖 筆頭ともいふ、筆の毛の部分はいふ。△纒 漸く。△如今 現在に同じ。△除去 毛筆 毛筆の外にとの意。△粉筆 白墨。△雖然不同 同じからずと雖もと解す、然りと雖もと誤るべからず。△用處 用途なり。可是 併し。△一様 同じ。

【譯 解】

第一に筆を製造したものは蒙恬といふ人である。最初の筆の先は兔の毛で作つたのであるが、後に至つて漸く羊毛狼毛雞毛等の筆が出来、今日では毛筆の外に更に鉛筆石筆白墨ペンが有り、名稱は同じくないけれども、併し用途に變りはない。

第三十三

我^ワ們^{メン}寫^シ字^ジ，大^{ター}抵^{テイ}寫^シ在^シ紙^シ上^シ。但^ダ是^シ沒^{メイ}有^ユ紙^ジ的^テ時^シ候^{コウ}。是^シ怎^{ゼン}樣^{ヤン}的^テ呢^ネ？發^フ明^{ミン}紙^ジ的^テ人^{ニン}，又^マ是^シ誰^{シュイ}呢^ネ？紙^ジ是^シ蔡^{ツァイ}倫^{ルン}發^フ明^{ミン}的^テ。蔡^{ツァイ}倫^{ルン}以^イ前^{チン}，字^ジ都^ド寫^シ在^シ帛^ボ上^シ。因^{イン}爲^フ帛^ボ貴^{クワイ}紙^ジ賤^{チエン}，所^ソ以^イ紙^ジ一^{イツ}發^フ明^{ミン}，大^{ター}家^{チア}都^ド不^フ在^シ帛^ボ上^シ寫^シ字^ジ了^{リョウ}。

【註 解】

△寫字 字を書くこと、寫すに非ず。△大抵 意味字の如し。△寫在紙上 紙に書く。種在院子裏(庭に植える)扔在窓戶外(窓の外に捨てる) 貼在牆上(壁に貼る)等皆同一語法である。△怎樣 如何なる有様。△蔡倫 後漢の人にて字を敬仲といふ。以前は竹を編みたる竹簡を使用し、或は絹糸にて作りたる紙を用ひたが(名を竹帛に垂るといふ如く)倫に至りて始めて樹皮、麻布等にて紙を作る様になつた。△帛貴 絹は高價。△紙賤 紙は安い。△大家 衆人の意。

【譯 解】

吾人は字を書くには、率ね紙に書くのである。併し紙の無かつた時はどんな有様であつたらうか、又紙は誰れが發明したのであらうかといふに、紙は蔡倫が發明したので、蔡倫以前は、皆絹の帛に書いたのである、絹は價高く紙は價安きため、紙が發明されると、多くの人は皆絹に字を書かなくなつた。

第三十四

フオング ナイエンヌ ベンダ ナー イュー タイナイエンヌ コンダ ナイエンヌ ヨウ ナー
 從-前-的 兵-器, 有 刀 劍, 有 弓 箭, 有 矛 戟
 現-在-的 兵-器 是 槍 礮, 槍 子 同 礮 彈, 能 够
 打 穿 鐵 石, 從-前-的 兵-器, 萬 萬 不 及 他 所
 以 現-在 打 仗, 弓 劍 矛 戟 都 用 不 着 了。

【註 解】

△矛 鋒の類。△戟 側邊に更に一本の刃を有するもの。△槍 小銃、やりは扎槍といふ。△礮 砲に同じ。△槍子 小銃弾。能够 は能と同義にて語勢強きもの。△萬 決して。△用不着 不用の意、必要無きを意味す。着は目的に副はざること。△打仗 戦争する意。

【譯 解】

以前の兵器には刀劍有り、弓矢有り、矛戟が有つたが、現今の兵器は銃砲であつて、銃弾砲弾は鐵石を打抜くことが出来、以前の兵器は決してそれに及ばない。夫故現今の戦争には弓劍矛戟は用を爲さないのである。

第 三 十 五

中 國 古-代-的 建-築-物, 長-城 工-程 最 大
 東-邊 從 山-海-關 起, 西-邊 到 嘉-峪-關 爲
 止。經-過 河-北, 山-西, 陝-西, 甘-肅 四 省, 人
 家 都 把 他 叫 做 萬 里 長 城, 其 實 只 有 五
 千 多 里, 並 沒 有 一 萬 里 啊。

【註 解】

△工程 工事。△山海關 河北省と東三省との境界にある關門。

嘉峪關 甘肅にあり。△人家 一般人を指していふ。△把他 彼を。△並 此處に於けるものは否定の副詞で、決して、少しもの意味に相當す。

我並沒說過這個話 私は一向そんな事をいふたことはない。

這並不是他的錯兒 これは決して彼の誤ではない。

【譯 解】

支那古代の建築物では、長城の工事が最も大なるものである。東は山海關より起り、西は嘉峪關に至つて終り、河北、山西、陝西、甘肅四省を経てをる。人は皆それを萬里の長城と稱するが、其實僅に五千里餘有るのみで、決して一萬里はないのである。

第 三 十 六

長-城 的 西 北 邊, 多 半 是 沙-地。這 種 地
 方, 叫 做 沙-漠。植-物 不 多, 飲-料 缺 少,
 到-處 是 沒 有 人 住 的。若 使 旅-行 到 此, 一
 定 要 騎 駱-駝。因-爲 駱-駝 的 脚-爪 皮 很 厚,
 走 在 沙-地 上, 不 會 陷 進 去, 又 耐 得 口
 渴 的 緣-故。

【註 解】

△多半 過半、半以上。△沙地 砂地に同じ。△沒有人住 人が住んで居ない。此語法は有無存在を主とし、其動作、状態を補助とせるものである。例へば

- 沒有人來 來る人がない
- 有衣裳穿 着物が着られる
- 沒話可說 言ふべき言葉なし
- 沒有法子辦 處置の方法が無い

△若使、假定語にて若しもの意、使には意味無し。△一定 必ず。
 △脚爪 動物の足をいふ。△走在沙上 砂上を歩く意味、原文は沙
 上に歩くと解釋せらる。△不會 能はずの意。△陷進去 泥濘等
 にぬかり込むと同一義にて、砂中にめり込むをいふ。△緣故 譯
 柄、理由、原因等の意、本邦語の意味とは異なる。

【譯 解】

長城の西北方は多くは砂地であつて、此種の土地を沙漠といひ
 植物多からず、飲料も缺乏し、到る處居住するものがない。若し
 此土地を旅行すれば、必ず駱駝に乗らなければならない。それは
 駱駝の足の皮は甚だ厚く、且つ渴に堪え得る爲めの故である。

第三十七

船在河裏走，同魚在水裏游，道理是一
 樣的。魚有分水，船有槳，都是撥水用的。
 魚有尾巴，船有舵，都是回轉用的。古時
 候的人，就是看了魚游水，纔發明造船的
 法子。

【註 解】

△在河裏走 河の中に走るとの意であるが譯語としては、河の中
 を行くとする方がよい。△同 は下句の一樣なる語に關係し、何
 ゝと同じとの意。△分水 鰭のこと。△槳 櫂なり。△撥水 水
 を掻くこと。△尾巴 尾のこと。△舵 舵に同じ。△纔 そこで
 始めての意。

【譯 解】

船は河の中を走り、魚は水の中を泳ぐ。道理は同じである。魚
 には鰭があり、船には櫂が有る。皆水をかくに用ふるものである。
 魚には尾が有り、船には舵が有る、何れも轉回に用ふるものであ
 る。昔の人は其魚が水を泳ぐを見て、造船の法を發明したのであ
 る。

練 習

次の問に答へよ。

1. 松竹梅怎麼叫做歲寒三友呢。
2. 到了冬天吹北風的時候、各種花木是怎麼個樣子呢。
3. 問字有幾種。
4. 現在最通行的是甚麼字。
5. 首先造筆的人是誰。
6. 當初的筆尖用甚麼做的。
7. 現在怎麼不在帛上寫字呢。
8. 如今打仗是用甚麼兵器。
9. 萬里長城所經過的都是甚麼地方。
10. 長城從那裏起、到那裏爲止。
11. 走在沙漠地方、爲甚麼騎駱駝。
12. 魚的分水船的槳是有甚麼用處。

解 答

1. 有耐寒的性質。
2. 都顯出衰敗的氣象。
3. 有五種就篆隸草行楷。
4. 現在通行的是楷書。

- 5. 姓蒙名恬。
- 6. 用鬼子毛做的。
- 7. 因爲帛貴紙賤。
- 8. 是槍和礮。
- 9. 是河北、山西、陝西、甘肅四省。
- 10. 從山海關起到嘉峪關爲止。
- 11. 因爲駱駝的脚爪皮很厚、不會陷進出又耐得口渴的緣故。
- 12. 是有撥水的用處。

第二十日

第三十八

シフンダ クー ジー ホウ マイ イー フー ダエンヌ トウ ヨング ショウ ピー ジュー イエー
 上。古。時。候。沒。有。衣。服。人。都。用。獸。皮。樹。葉。
 フ チョー シエンヌ タイー ホウ マー フー 合オ エュー チイエンヌ フアー ミンダ
 子。遮。身。體。後。來。麻。布。葛。布。逐。漸。發。明
 レイ ツー イエー ナイアオ ヤング ツァンヌ イー フー チイエンヌ ジー チイエンヌ
 嫫。祖。又。教。人。養。蠶。衣。服。一。件。事。漸。漸。的
 チンヌ ホア チイー 下ンダ タオ チョンダ ミエンヌ ホア フアー ツォンダ インヌ
 進。化。起。來。了。等。到。種。棉。花。的。法。子。從。印。
 トウー チョンヌ ライ ファイ リアオ テイエンヌ チョンダ ミエンヌ
 度。傳。來。衣。服。的。材。料。又。添。了。一。種。棉。
 織。物。

【註 解】

△葛 麻に似て劣るもの。△逐漸 漸次。△嫫祖 黃帝の妃。△衣服一件事 衣服といふ事といふが如し。△進化起化了 進化し始めたの意。下起來了(降り初めた) 颯起風來了(風が吹き出した) 打起仗來了(戦争し始めた) 學起中國話來了(支那話を習ひ始めた) の類の如し。△等 待つこと、何々してからと譯す。多くは等云

々再々々の如く接續せらる。

等雨住了、再走 雨が止んでから出かける。

等事情消停了、再請安去

仕事が暇になつてからお伺ひ致します。

等說完了再笑、或笑完了再說、像你這麼連說帶笑的、

好叫人不明白

言ひ終つてから笑ふか、又は笑ひ終つてから言ふか、

どちらかにしなさいその様に話したり笑つたりでは、

全く分らない。

△添 増加すること。

【譯 解】

太古の時には衣服無く、人は皆獸皮や木の葉を以て身を掩ふてをつた。後麻布や葛布が漸次發明せられ、嫫祖といふ人が又養蠶の道を教へたので、衣服の一事は漸く進化し始めた。棉の栽培法が印度より傳つてから、衣服の材料には又綿織物が加はつた。

練 習

左の間に答へよ。

1. 上古時候人都穿甚麼衣服來著。
2. 衣服是從甚麼時候進化起來的。
3. 種棉花的法子是從那裏傳來的。
4. 有了棉花以後衣服是怎麼樣了。

下記の意味を問ふ。

5. チー²チイエンヌ⁴ チンヌ⁴ホア¹ ミエンヌ²ホア¹ チー¹シェンヌ¹
 テイ³ チイエンヌ⁴チイエンヌ⁴ テイ¹フアー¹ミンダ² チイアオ¹

リェン²ヤン³ツァン³、チェン⁴ミエン³ホア¹、ツァン³
イン⁴ト¹チァン²ライ。

日語支那譯

- 6. 湯(水)が沸いて(熟了)から、入浴する(洗澡)。
- 7. 本を読み終つてから散歩に行く。
- 8. 太陽が出てから出發(動身)する。
- 9. 人が來揃(齊)つてから相談(商量)をする。
- 10. 花が散つて(謝了)から葉が出る。

解 答

- 1. 都穿獸皮樹葉子做的衣服。
- 2. 從燧祖教人養蠶漸漸的進化起來了。
- 3. 從印度傳來的。
- 4. 是添了一種棉織物。
意味下の如し。
- 5. 漸次、進化、棉花、體を掩ふ、漸次發明する、人に養蠶を教へる、棉花を栽培する、印度から傳はる。

日語支那譯

- 6. 等水熟了再洗澡。
- 7. 等念完了書再散歩去。
- 8. 等太陽出來再動身。
- 9. 等人到齊了再商量。
- 10. 等花兒謝了再放葉子。

第三十九

上¹古²人³的⁴住⁵處⁶，一⁷種⁸是⁹土¹⁰穴¹¹，一¹²種¹³是¹⁴樹¹⁵枝¹⁶做¹⁷的¹⁸窩¹⁹，一²⁰種²¹是²²獸²³皮²⁴做²⁵的²⁶帳²⁷子²⁸，自²⁹從³⁰黃³¹帝³²出³³世³⁴，大³⁵家³⁶纔³⁷知³⁸道³⁹，建⁴⁰造⁴¹宮⁴²室⁴³，可⁴⁴是⁴⁵現⁴⁶在⁴⁷的⁴⁸屋⁴⁹子⁵⁰，對⁵¹於⁵²采⁵³光⁵⁴去⁵⁵濕⁵⁶通⁵⁷空⁵⁸氣⁵⁹幾⁶⁰件⁶¹事⁶²，更⁶³是⁶⁴注⁶⁵重⁶⁶，比⁶⁷黃⁶⁸帝⁶⁹時⁷⁰候⁷¹的⁷²宮⁷³室⁷⁴又⁷⁵進⁷⁶步⁷⁷多⁷⁸了⁷⁹。

【註 解】

△窩 巢をいふ。△帳子 天幕。△自從 時期の起點を指すに使用せらる。

自從火輪船一興、 汽船が一度び開けてより、
那個地方所顯着蕭索了 彼の土地は全く淋れてしまつた。
自從小的時候、受盡了辛苦 幼小の時より苦勞を嘗め盡した。

△大家 衆人。△纔 始めて。△可是 併しながら。△采光 採光なり、光線取入れの意。△注重 重視する、重きを置く。△進歩多了 ずつと進歩した。多了は比較の場合に用ふ。

比從前改變多了 以前に較べずつと變つた。
比那程子結實多了 先頃よりはずつと丈夫になつた。

【譯 解】

上古人の住居は、一は土穴であり、一は樹枝にて作りたる巢であり、一は獸皮にて作りたる天幕であつた。黃帝が世に現はれてより、人人は始めて宮室を建築することを知つた。併し現在の家

屋は採光、防濕、通風等の事に對し、更に重を置き、黃帝時代の宮室に比し、又一層進歩してゐる。

練習

下の問に答へよ。

1. 上古時候的日本人也住在土穴裏麼。
2. 日本現在還有土穴麼。
3. 上古人住在甚麼帳子裏。
4. 從甚麼時候起建造宮室。
5. 現在的屋子和古來的宮室、有怎麼個差處。
6. 比黃帝時候的房子怎麼樣。

下記各語の發音を記せ。

穴、窩、注重、黃帝、濕、通、自從、建造、於、宮室、採光。

日語華譯

1. 上古の人は土穴に住むものも有り、樹上の巢に住むものも有つた。
2. 宮室を建造することを知つてより、人は土穴や獸皮の天幕に住まなくなつた。
3. 光線を採り、濕氣を防ぎ、通風等の事は家を建てる時最も注意しなければならぬ。
4. 現在の家屋は上古より、どの位進歩してゐるか知れない。
5. 彼から聽いて始めてずつと變つたことを知つた。

解答

1. 是、也住在土穴裏。
2. 是、現在在幾處還有土穴。

3. 住在獸皮做的帳子裏。
4. 是從黃帝出世起建造宮室。
5. 現在的屋子是注重在採光去濕通空氣、上古時候是沒有這個事。
6. 進歩多了。

日語華譯

1. 上古的人也有住在土穴裏、也有住在樹上的窩裏。
2. 自從曉得建造宮室人都不住在土穴裏或獸皮的帳子裏。
3. 採光去濕通空氣幾件事、是建造房子的時候、最要注意的。
4. 現在的房子比上古的房子、不知有多麼進歩。
5. 聽他說就知道改變多了。

第四十

食物。分。生。食。熟。食。兩。種。上。古。時。候。火。的。用。處。還。沒。有。發。明。所。以。只。曉。得。生。食。等。到。燧。人。氏。發。明。了。火。的。用。處。應。該。熟。食。的。食。物。都。加。了。一。番。燒。煮。的。工。夫。比。熟。食。再。進。一。步。的。就。是。烹。調。

【註解】

△生食 生の食物。△熟食 火を加へたる食物。△火的用處 火の用途。△還 尙まだ。△只 只何々のみ。△曉得 知る、知道と同義。△燧人氏 上古皇帝の名。△應該 當然何々すべき。△一番 心理上の助數詞にて一段といふ如き意味。△工夫 此處にては時間に非ず、研究との意に解すを適當とする。△燒煮 焼いたり茹でたり等の意。△烹調 調味すること即ち割烹。

【譯 解】

食物は生食熟食の二種に分つ。上古時代に在りては、火の用途未だ発見せられざりしが故に、只生食するを知るのみであつたが燧人氏が火の用途を發明するに及び、熟食すべき食物は一段炙煮の研究が加へられた、熟食の更に一步進みたるものは即ち割烹である。

練 習

日語華譯

1. 君は生食が好きですか熟食が好きですか。
2. 生食すべきものは生食し、熟食すべきものは熟食する。
3. 火の用途が發明されなかつた以前は、人は皆生食であつた。
4. 火の用途を發明したから、それで燧人氏といふ。
5. 春花が咲くに及び人は皆彼處へ遊びに行く。
6. 更に一枚(一張)書けば終る(完)。

質 問

1. 燧人氏發明 是甚麼事情。
2. 食物分兩種、是那兩種呢。
3. 發明火的用處以後、無論甚麼食物都燒煮嗎。
4. 怎麼樣的就叫做熟食呢。

下記の發音に就き漢字を思索せよ。

イン¹カ¹イ¹ シー²ウー⁴ ソオ³イー³ シ¹アオ³トオ² ヨン⁴チュー⁴ チン⁴イー⁴プー⁴ チ¹ア¹シ¹ア¹チュー³テ¹コン¹フー¹ シ¹ン⁴ク³シー²ホウ⁴ チ¹ウ⁴シー⁴ ハイ²メイ²イ³フ¹ミン²

解 答

1. 你是愛生食、是愛熟食。
2. 應該生食的就生食、應該熟食的就熟食。
3. 火的用處沒發明以前、人都生食了。
4. 因爲發明了火的用處、所以叫做燧人氏。
5. 等到花兒開了人都到那裏遊玩去。
6. 再寫一張就完了。

質問の答

1. 發明的是火的用處。
2. 是生食熟食。
3. 不是、應該生食的不燒煮。

第 四 十 一

衣^イ食^シ住^ヂ的^テ材^{サイ}料^{リョウ}、都^{トウ}是^シ土^ト地^チ上^ノ產^{サン}出^{シュツ}來^{ライ}的^テ。所^ソ以^イ國^ク家^カ的^テ土^ト地^チ、是^シ很^{ヘン}寶^{ホウ}貴^{クイ}的^テ。東^{トウ}西^シ、從^{シヨウ}前^{コノ}有^ア人^ニ說^フ「一^{イチ}寸^{セン}山^{サン}河^カ一^{イチ}寸^{セン}金^{キン}」據^{コト}我^ガ看^ミ起^キ來^{ライ}國^ク土^ト比^ヒ金^{キン}子^コ還^{ヘン}貴^{クイ}重^{ジュウ}。我^ガ們^{タチ}做^シ了^シ國^ク民^{ミン}、應^{オウ}該^カ知^チ道^{ダウ}國^ク土^ト的^ノ寶^{ホウ}貴^{クイ}、並^ニ且^ニ要^ス盡^{ジュウ}保^{ホウ}守^{シュ}國^ク土^ト的^ノ責^{セキ}任^{ニン}。

【註 解】

△土地上產出來 土地から産出する意。△寶貴 貴重なる。△有人說 或人が言ふ。△做了國民 國民と爲る。△並且 其上。

【譯 解】

衣食住の材料は皆土地より産出す、夫故國家の土地は甚だ貴重

なものである。曾て或人が「一寸の山河は一寸の金なり」と言ひたるが、我れより見れば、國土は金よりも尙貴重である。我等國民たるものは當然國土の貴重なることを知り、且つ國土保守の責任を盡すべきある。

練習

下の問ひに答へよ。

1. 國家的土地爲甚麼寶貴。
2. 從前有人對於國家的土地、說了些甚麼。
3. 做了國民應該知道甚麼事。
4. 衣食住的材料是從那裏產出來的。
5. 我們對於國土有甚麼責任。

下記各字の發音を記せ。

産出、寶貴、寸、山河、並且、保守、盡責任、

解答

1. 因爲衣食住的材料、都是土地上產出來、所以寶貴。
2. 說的是一寸山河一寸金。
3. 應該知道國土的寶貴。
4. 從土地上產出來。
5. 有保守的責任。

第二十一日

第四十二

中國的地形、像一片秋海棠葉。子、東南

是十八省、東北是東三省、北方是蒙古同幾個新設的省、西邊是新疆、青海、西藏、全國的地方很大、把亞洲各國的面積比較起來、中國要算第一、個大國了。

【註解】

△像 似る。△地方 土地。△把 目的格の上部に置かれる介字にて「を」に相當する語。△亞洲 亞細亞洲。△要算 數へねばならぬ、稱さざるべからず。

【譯解】

支那の地形は、一葉の秋海棠の葉に似てゐる、東南は十八省、東北は東三省、北方は蒙古及び新設の數省、西方は新疆、青海、西藏である、全國の土地甚だ廣く、亞細亞各國の面積を比較すれば、支那は第一の大國と言はなければならぬ。

第四十三

長江長有九千幾百里、是我國第一條大水、從青海發源、向東邊流下來、經過西康省、和雲南、四川、湖北、湖南、江西、安徽、江蘇七省、江蘇地方沿海、江裏的水、就是從江蘇流到海裏去的、從湖北到江蘇、沿江肥田多、所以長江的下、游、物產很豐富。

【註解】

- △長江 揚子江をいふ。△第一條 第一の意、條は河の陪伴字。
- △西康省 以前の川邊特別區域、四川と西藏の境界地方。△沿江 揚子江沿岸。△就是 即ち。△流到海裏去 海中へ流れて行く。
- △下游 下流。

【譯 解】

揚子江は長さ九千數百里ありて、我國最大の河流である。青海より源を發して東方に流れ、西康省及び雲南、四川、湖北、湖南、江西、安徽、江蘇の七省を通過す。江蘇地方は海岸に沿ふにより江水は是に於て江蘇より海中に注ぐのである。湖北より江蘇に至る沿岸は沃田多きにより、夫故揚子江の下流は物産が甚だ豊富である。

練 習

下の問に答へよ。

1. 長江是甚麼河、有多少里長。
2. 所過的都是那°一省。
3. 從°那裏發源呢。
4. 到甚麼地方流入海裏呢。
5. 長江的下游爲甚麼物産豐富啊。

解 答

1. 是揚子江、有九千幾百里。
2. 所過的地方是西康、雲南、四川、湖北、湖南、江西、安徽、江蘇八省。
3. 從青海發源。
4. 到江蘇流入海裏。

5. 是因爲沿江肥田多。

第 四 十 四

黄-河 長有八千幾百里也。從青-海發源，經過甘-肅、綏遠、陝西、山西、河南、河北、山東，流到海裏去。他的上游，有許多沙土，跟着河水下來，堆積在河南、山東一帶。河道慢慢的淤塞了，河身也高起來了。因此時常鬧出決口的禍患。所以黃河上游，利益很多，下游的利益很少。

【註 解】

△也從云々 此河も何處々々よりの意。△他 は黄河を指す。△上游 上流。△許多 多數。△沙土 土砂。△跟着 随つて、着いての意。△河道 河筋。△淤塞 埋まり塞がる。△河身 河床と譯す。△因此 之が爲め。△時常 常に。△鬧出 發生する意、鬧は病氣又は不吉祥の事柄に對する動詞。△鬧肚子(下痢をする) △鬧賊 盜賊が入ること。

【譯 解】

黄河は長さ八千數百里有り、亦青海より源を發し、甘肅、綏遠、陝西、山西、河北、山東を経て、海中に注ぐ。其上流は多くの土砂河水と共に流下し河南、山東一帶に堆積するため、河道は漸次埋まり、河床も高くなつた。これが爲め常に隄防潰決の災害を發生す。故に黄河の上流は利益甚だ多く、下流は利益甚だ少なし。

練習

下記の字音を示せ。

發源、甘肅、堆積、陝西、禍患、淤塞、時常、綏遠、黃河。

日語華譯

1. 長江は黄河より一千里餘長い。
2. 若し土砂が堆積しなかつたならば誠に良い河である。
3. 土砂が河南山東一帶に堆積するため河道は段々埋まり、河床は高くなる。
4. 黄河は源を青海に發し、甘肅綏遠各省を経て渤海に流入す。
5. 夫等の土砂は河水に随つて下流に流下する。

解答

フー¹ ユアン²、カン¹ スー⁴、トイ⁴ チー¹、シアン³ シー¹、
 ホオ⁴ ホアン¹、ユイ¹ サイ⁴、シー² チェン³、ソイ² ユアン³、
 ホアン² ホー²。

日語華譯

1. 長江比黄河長一千多里。
2. 若沒有沙土堆積、實在是一條好河。
3. 因爲有沙土堆積在河南山東一帶、河道就慢々的淤塞、河身也高起來。
4. 黄河從青海發源、經過甘肅綏遠各省流到渤海裏去。
5. 這些沙土順着河水往下游流下去。

第四十五

シアン³ ハイ¹、シー² チェン³ コオ¹ タイ¹、
 ター¹ シアン³ フー¹、シアン³ チェン³、
 上-海。是。中-國。第。一。個。大。商-埠。商-船。進。

了。吳-淞-口。可以。直。達。黃-浦-江。有。兩。條。鐵
 路。一。條。叫。滬。寧。一。條。叫。滬。杭。甬。水。陸。
 交-通。都。很。便。利。漢-口。在。長-江。的。中。部。
 是。沿。江。最。大。的。商-埠。南。邊。到。長-沙。北
 邊。到。北。平。火。車。都。通。的。所。以。漢-口。地。方。
 實。在。是。全。國。交-通。的。中。心。點。

【註 解】

△商埠 通商港又は貿易場。△進入。△吳淞口 揚子江口の港。△滬寧 滬は上海の別名、寧は江寧即ち南京。滬杭甬 上海、杭州、寧波。△火車 汽車。△實在 誠に、實に。

【譯 解】

上海は支那第一の通商港である。汽船吳淞口に入れば直ちに黃浦江に至ることが出来、そこには二線の鐵道が有り、一線は上海南京線といひ、一線は上海杭州寧波線といふ、水陸の交通何れも甚だ便である。漢口は揚子江中部に在りて沿岸最大の通商地にて南は長沙まで、北は北平まで何れも汽車が通じてゐる。故に漢口地方は誠に全國交通の中心點である。

第四十六

火-輪-車。又。叫。做。火-車。全。靠。着。汽-力。推
 動。車-輪。在。鐵-道。上。行-走。當-初。發-明。這。水
 蒸。氣。的。英-國-人。瓦-特。後。來。鳩-爾。齊。就。利。
 一。用。他。來。造。成。火-車。載。客。運。貨。火-車。分。貨
 車。客。車。車。頭。三。大。部。汽-機。就。裝。在。車-頭

上、火車不是處處可以通行的。一定要先
 造一條鐵路，鋪好鐵軌，把他架在鐵軌
 上面，纔能行走。
 火車行動極快，不但運貨載客，的便利。
 就是傳達文化，發展實業上的關係，也
 很重大，所以現在各國，都拿這件看
 得很要緊。第一，保全本國利益。第二，
 恐怕事權落在他人手裏，文化上，運
 輸上，國防上，要受人的牽制，所以都用
 本國的資本來建築的。

【註 解】

△火輪車 汽車。△靠 依る、倚頼する意。△汽力 蒸氣力。
 △瓦特 ワット。△鳩爾齊 ジョウジ。△車頭 機關車。△汽機
 蒸汽機關。△裝 裝置するこ。△處處 到る處何處でも。△鋪好
 完全に布設す。△鐵軌 レール。△架 組み載せる。△就是即ち
 の意なれども。縦ひの意に轉用す。△恐怕 恐る。△事權 事に
 對する權利。

【譯 解】

蒸汽車は又汽車といひ、専ら蒸氣力に依つて車輪を動かし、鐵
 道上を走るのである。最初蒸汽を發明せる人は英國人のワットで
 ある。後に至りジョウジがそれを利用して汽車を製造し、旅客を
 搭乘し、貨物を運搬したのである。汽車は貨車、客車、機關車に三
 大別し、蒸汽機關は機關車に裝置せらる。汽車は何處にても走る
 こと能はず。必ず先づ一條の鐵道を築造し、完全にレールを敷き

て汽車をレールの上に置かざれば走り難いのである。

汽車は走ること極めて快速なるが故に、貨物の輸送、旅客の搭
 乗に便利なるのみならず、縦んば文化の傳達、實業の發展にも甚
 だ重大なる關係が有る。故に現在各國は均しく、此事を重視して
 をるのである。第一は自國利益の保護、第二には利權が他人の手
 中に落ち、文化上、運輸上、國防上に他人の掣肘を受くるを恐れ、
 夫故皆自國の資本を用ひて建造するのである。

第 四 週

第二十二日

第四十七

美^{ノイ}國^{コオ}福^{フー}特^{トオ}車^{チア}廠^{アア}的^{アア}廠^{アア}主^{アア}，是^{アア}一^{アア}個^{アア}。很^{アア}明^{アア}白^{アア}的^{アア}。
 資^{アア}本^{アア}家^{アア}。他^{アア}減^{アア}少^{アア}了^{アア}工^{アア}人^{アア}作^{アア}工^{アア}的^{アア}時^{アア}間^{アア}，又^{アア}。
 增^{アア}加^{アア}工^{アア}人^{アア}的^{アア}工^{アア}資^{アア}。工^{アア}人^{アア}都^{アア}願^{アア}意^{アア}替^{アア}他^{アア}出^{アア}力^{アア}。
 出^{アア}品^{アア}又^{アア}快^{アア}又^{アア}好^{アア}，所^{アア}以^{アア}這^{アア}個^{アア}工^{アア}廠^{アア}很^{アア}賺^{アア}錢^{アア}不^{アア}。
 但^{アア}這^{アア}麼^{アア}着^{アア}，一^{アア}方^{アア}一^{アア}面^{アア}又^{アア}體^{アア}恤^{アア}工^{アア}人^{アア}，一^{アア}方^{アア}一^{アア}面^{アア}。
 又^{アア}體^{アア}恤^{アア}社^{アア}會^{アア}上^{アア}用^{アア}汽^{アア}車^{アア}的^{アア}人^{アア}，所^{アア}以^{アア}他^{アア}們^{アア}所^{アア}造^{アア}。
 的^{アア}汽^{アア}車^{アア}，賣^{アア}價^{アア}比^{アア}別^{アア}的^{アア}車^{アア}廠^{アア}便^{アア}宜^{アア}，社^{アア}會^{アア}上^{アア}的^{アア}。
 人^{アア}都^{アア}願^{アア}意^{アア}買^{アア}他^{アア}們^{アア}的^{アア}車^{アア}，因^{アア}此^{アア}福^{アア}特^{アア}廠^{アア}的^{アア}生^{アア}意^{アア}。
 也^{アア}格^{アア}外^{アア}的^{アア}好^{アア}。

【註 解】

△美國 米國。△福特車廠 フォード自動車工場。△明白 事理
 人情に明るき意。△工資 給料。△願意 願ふ、進んでと譯さん
 とす。△替他出力 彼れの爲に働く。△出品 物品を製出するこ
 と。△又快又好 速かで且良好。△賺錢 金が儲かる。△一方面
 一方又は一面。△體恤 憫み恵むこと、優遇すること。△汽車
 自動車。△便宜 安價、低廉。△生意 商賣。△格外的好 格別
 繁昌する意。△

【譯 解】

米國フォード自動車工場の主人は甚だ道理に明るい資本家であ
 る。彼は職工の作業時間を短縮したる上、又其賃銀を増額し、職

工は皆進んで彼の爲めに働き、生産は速かに且製品良好であるが爲めこの工場は甚だ利益が大である。そのみならず、一面職工を優遇し、一面又會社の自動車使用者を優待するため、夫故其處に製作せられたる自動車は、他の工場に比し賣價低廉であり、社會の人は皆悦んで彼れの自動車を買ふため、フォード工場の商賣も特に繁昌するのである。

練習

下記の發音に由り漢字と其意味とを表はすべし。

1. ヲン² トウ¹ ユアン⁴ イ⁴ ティ⁴ タ¹ チュ¹ リ⁴.
2. ティ⁴ ジュイ⁴ ヨン⁴ チ⁴ チ¹ テ⁴ ヲン².
3. イ¹ 合⁴ ヘン³ ミン² パイ² テ¹ ツ¹ ペン³ ティ⁴.
4. タ¹ メン² テ¹ ショ¹ イ⁴ 合² ワイ⁴ テ⁴ ハオ³.
5. チ¹ エン³ シ³ ツ⁴ コン¹ シ² チ¹ エン³.
6. シ¹ チ¹ コン¹ ヲン² テ¹ コン¹ ツ¹.
7. マイ⁴ ア⁴ ピ³ ピ² テ¹ チ¹ シ³ ピ² エン² イ⁴.

第四十八

工¹ 業² 上⁴ 最⁴ 不⁴ 可⁴ 少⁴ 的⁴ 兩² 件² 東¹ 西¹ 就⁴ 是⁴
 煤¹ 知¹ 鐵¹ 外⁴ 國¹ 科¹ 學¹ 家¹ 發¹ 明¹ 種¹ 種¹ 新¹ 方¹
 法¹ 去¹ 開¹ 煤¹ 礦¹ 鐵¹ 礦¹ 並¹ 且¹ 開¹ 大¹ 工¹ 廠¹ 去¹
 煉¹ 鋼¹ 製¹ 鐵¹ 所¹ 以¹ 工¹ 業¹ 一¹ 天¹ 比¹ 一¹ 天¹ 發¹ 達¹
 國¹ 家¹ 一¹ 天¹ 比¹ 一¹ 天¹ 富¹ 足¹

【註 解】

△少 缺くこと。△就是 即ち。△煤 石炭。△種種 上聲の字

が重なれば上字は2聲に發するため、同一字にて聲を異にするのである。△一天比一天 日増に、日毎にの意。

【譯 解】

工業上最も缺くべからざる二物は、即ち石炭と鐵である。外國の科學者は種々新方法を發明して炭礦鐵礦を開掘し、且つ大工場を開いて鋼鐵及鐵を製煉するため、夫故工業は日日に發達し、國家は日々に富裕となる。

第四十九

銅¹ 和¹ 鐵¹ 鐵¹ 都¹ 是¹ 鑛¹ 產¹ 日¹ 用¹ 的¹ 器¹ 具¹ 用¹ 銅¹ 鐵¹
 製¹ 成¹ 的¹ 最¹ 多¹ 鑛¹ 產¹ 裏¹ 面¹ 鐵¹ 最¹ 賤¹ 可¹ 是¹ 最¹
 有¹ 用¹ 銅¹ 的¹ 身¹ 分¹ 比¹ 鐵¹ 硬¹ 可¹ 是¹ 沒¹ 有¹ 鐵¹ 的¹ 用¹
 處¹ 大¹ 所¹ 以¹ 鐵¹ 器¹ 多¹ 銅¹ 器¹ 少¹ 中¹ 國¹ 山¹ 西¹
 湖¹ 北¹ 等¹ 省¹ 都¹ 產¹ 鐵¹ 雲¹ 南¹ 的¹ 保¹ 山¹ 銅¹ 也¹
 是¹ 很¹ 著¹ 名¹ 的¹

【註 解】

銅和鐵 鐵と銅。△裏面 又裏頭ともいふ、中といふこと。△賤 廉價の意。△可是 併しながら。△身分 質なり。△沒有鐵的用途大 鐵程用途が廣くないとの意、比較事物の程度に達せざるを表示する語法である。

今天沒有昨天忙 今日は昨日程忙しくない。

中國話沒有日本語難 支那語は日本語ほど難しくない。

の如し。△著 あらはれるの意味にはチュー、四聲に發す。

【譯 解】

銅と鐵は何れも鑛物である。日用の器具は銅鐵で作られたものが最も多い。鑛物中、鐵は最も廉價であるが、併し最も有用であり、銅の質は鐵より堅いが、併し鐵程用途は廣くない。故に鐵器は多く、銅器は少ない。支那の山西省湖北省等は鐵を産出し、雲南省の保山銅も亦甚だ有名である。

第五十

我的名字。叫做銅，本來住在深山裏的地底下。那時候我的形狀像一塊石頭，顏色是棕紅的。後來有人把我挖出來，送到爐裏去提煉。又把我做成長條子，或者是長磚的樣子，我從此失去了本來面目，人家就叫我是紅銅。

【註解】

△地底下 地の下。△像 似る。△石頭 石なり。頭には意味無し
△顔色 色。△棕紅 黒褐色。△挖 掘る。△提煉 精煉す。△長條子 長き棒。△長磚 長方形の煉瓦。△從此 之れより後。△

【譯解】

我名は銅と稱し、本來深山の地下に住んでをるものである。其時分に於ける我形狀は一塊の石に似てをり、色は黒褐色であつた。其後人は我を掘り出し、爐中に入れて精煉し、且我れを長き棒にしたり、或は長方形の煉瓦形にしたりした爲め、それより我は本來の面目を失つてしまひ、人はそこで自分を赤銅と名付けた。

我做紅銅的時候，是住在煉銅廠裏的，但是爲時不久，他們又把。我送進一座火爐。我到火爐裏面一看，我的本家。錫哪，鉛哪，錫哪，錫哪，都住在那裏。見面以後，彼此極要好，極親熱。所以等到出爐的時候，我們都并在一處了。這時候，人家又改了我的名字，叫做黃銅，白銅，青銅。并且帶我到各繁盛的地方去遊玩，從此以後，到處都有我的蹤跡了。

【註解】

△我做紅銅的時候 私は赤銅と爲つた時との意味であつて、赤銅を作つた時と解するは前後の關係上正當ではない。△爲時不久 時たる久しからずと讀み、間も無くと解釋す。△送進は送入の意
△本家 直系の親戚。△錫 亞鉛。△鉛 = ツケル即ち白銅。△見面 顔を合せる。△彼此 互に。△要好 仲が善い、意氣投合す。△親熱 親しいこと。△并 は併に同じ。△黃銅 眞鍮。△帶 連れ立つ。△蹤跡 足跡なり。

【譯解】

自分が赤銅と爲つてゐた時は、製銅工場に住んでゐたが、併し間も無く、彼等は自分を又一つの溶爐の中に送つた。溶爐の中に往つて見ると、自分の親戚である亞鉛や鉛や白銅や錫等が皆其處に住んでゐた。知り合つた後は、互に極めて仲良く、極めて親密であつた。夫故溶爐を出た時、我々は一處に固まつてゐた。此時

人々は自分の名を易へて、真鍮、白銅、青銅と呼び、其上各地の繁華なる土地へ遊びに連れてゐつた。それから後は、到る處に自分の足跡が残された。

第五十一

中國發見大冶鐵礦以後，就在漢陽設立煉鐵廠。起初因爲經費不足，不能發達。後來經費足了，又在萍鄉發現煤礦。用萍鄉的煤，煉大冶的鐵，很是便利。然而又因爲機爐不合用，出品不好，仍舊不能得利。最後纔派人到西洋去，查考製煉的方法，並且買了新式機爐。從此煉出鋼來，就一天好似一天。現在廠裏出的一種馬丁鋼，不但比從前好，並且算是世界上第一等鋼了。

【註解】

△大冶 湖北省にあり。△就 そこで。△漢陽 湖北省にあり。△起初 最初の意。△萍鄉 湖南省に在り。△然而 併しながら。△不合用 不適當。△出品 生産。△仍舊 依然元の如く。△纔 漸く。△一天好似一天 一天比一天好と同義にて日一日と良好となる意。△馬丁 鋼鐵の名。△算是 先づ何々に數へらるとの意。

【譯解】

支那は大冶鐵山を發見して後、漢陽に煉鐵所を設けたが、最初は經費不足の爲めに發達することが出来なかつた。後經費は充分

となり、又萍鄉に於て炭礦を發見し、萍鄉の石炭を用ひて大冶の鐵を製煉するので、甚だ便利となつた。併し又溶鑛爐適當ならず、生産不良にて、依然利益を得ることが出来なかつた。最後に至り漸く人を西洋に派遣し、製煉法を視察せしめ、其上溶鑛爐を購入したので、それより鋼鑛の製煉は日一日と良好になつた。現在工場より一種のマーティン鋼を出してゐるが、以前より良好であるのみならず、且つ世界第一の鋼鐵に數へられてをる。

萍鄉的煤，大冶的鐵，據化驗的工師說「質料都是頂好的。地底裏也蘊藏得不少，可以用幾百年。如果儘力去整頓。研究，一定可以做世界上頂好的礦」這句話。未免近於誇大，叫人難信。但是現在我國最有成效的煤鐵廠，不能不說他是「首屈一指」的了。

【註解】

△化驗的工師 分析技師。△頂 最も。△幾百年 數百年。△如果 若しも。△儘力 精一杯に。△整頓 整備すること。△一定 必ず。△未免 免れずの意、平易に譯さば「何となく」の語に近からん。△叫人 人をして何々せしむの意。△成效 効果を上ぐ。△首屈 第一に屈す。

【譯解】

萍鄉の石炭、大冶の鐵、分析技師の言に據れば「質は何れも極めて佳良であり、地下の礦層も厚く、數百年使用することを得、

若し極力整備研究せば必ず世界第一の礦たることを得べし」と、此言葉は誇大に近く、信じられないやうではあるが、併し現在我國に在つて、最も好成績の炭鐵工場は彼に第一指を折らなければならぬ。

練習

日語華譯問題

1. 鐵と石炭とは工業最も缺くべからざるものであるから、科學者は新方法を發明し、石炭礦や鐵礦を開掘し、大工場を興して鋼鐵や鐵を製煉し、國家を富裕ならしめなければならぬ。
2. 大抵の器具は銅や鐵で作られてないものはない、其中でも鐵の質は銅ほど堅くないが、廉である爲め世上には鐵器が最も多い。

解答

1. 煤和鐵都是工業上最不可少的東西、所以得有科學發明新方法去開煤礦和鐵礦、開大工廠、製煉鋼鐵、使國家一天比一天富足、是要緊。
2. 差不多器具、是沒有不用銅鐵做的、這裏頭、鐵的身分、雖然沒有銅的身分硬、可是因爲便宜、所以在世上鐵器多。

次の問題

下記發音に就き、意味を思索すべし。

チン⁴ イ³ ゴア¹ ター⁴ ホア⁴ イェン⁴ フー¹ シイエン⁴
 メイ³ コン³ ショウ³ チュイ¹ イ⁴ チ³ 合² チウ⁴ チン¹
 フェイ⁴ チン³ トウン⁴ イエン² チウ¹ チ² ガオ³ チ⁴
 リエン⁴ テ¹ ファン¹ フー³ タオ⁴ ファン² シン⁴ テ⁴
 ファン¹ チュイ⁴ イ² ファン²

第二十三日

第五十二

景⁴ 德⁴ 鎮⁴ 在⁴ 江¹ 西¹ 省⁴ 浮¹ 梁¹ 縣⁴ 境⁴ 裏⁴ 鎮⁴ 上⁴
 住⁴ 的⁴ 人⁴ 大⁴ 概⁴ 有⁴ 三¹ 十¹ 萬⁴ 左⁴ 右⁴ 這⁴ 裏⁴ 面⁴ 做⁴
 瓷⁴ 器⁴ 的⁴ 人⁴ 有⁴ 二¹ 十¹ 萬⁴ 其⁴ 餘⁴ 也⁴ 大⁴ 抵⁴ 靠⁴ 着⁴ 這⁴
 件⁴ 事⁴ 生⁴ 活⁴ 的⁴
 做⁴ 瓷⁴ 器⁴ 的⁴ 土⁴ 有⁴ 兩¹ 種⁴ 一¹ 種⁴ 又⁴ 硬⁴ 又⁴ 脆⁴ 的⁴ 叫⁴
 做⁴ 瓷⁴ 骨⁴ 一¹ 種⁴ 又⁴ 軟⁴ 又⁴ 堅⁴ 韌⁴ 的⁴ 叫⁴ 做⁴ 瓷⁴ 肉⁴
 都⁴ 產⁴ 在⁴ 景⁴ 德⁴ 鎮⁴ 的⁴ 附⁴ 近⁴ 挖⁴ 了⁴ 出⁴ 來⁴ 做⁴ 成⁴ 瓷⁴
 泥⁴ 纔⁴ 運⁴ 到⁴ 鎮⁴ 上⁴ 去⁴ 做⁴ 瓷⁴ 器⁴

【註解】

△左右 内外といふに同じ。△瓷器 磁器と同一。△靠着 頼つての意。△硬 堅きこと。△堅韌 堅くして弾力あること。△挖掘る。△纔 そこで始めて。

【譯解】

景德鎮は江西省浮梁縣域内にあり、鎮の住人は大凡三十萬内外有り、此中二十萬人は磁器製作を業とし、其餘は率ね此事業に依つて生活す。

磁器製造に要する土には二種有り、一種は堅くして且つ脆きものにて、之を肉骨と稱し、一種は軟く且つ弾力ありて、之を磁肉と稱し、皆景德鎮附近に産す、之を掘り取り磁泥となし始めて鎮に運搬し磁器を製造す。

做。瓷。器。的。法。子，先。把。兩。種。瓷。泥，混。合。拌。勻。後。來。再。把。他。捏。成。一。種。器。具。要。裝。柄。的。裝。柄，要。畫。圖。的。畫。圖。末。了。再。上。釉。擱。在。窯。裏。去。燒，瓷。器。就。成。了。

【註 解】

△法子 方法。△拌勻 平均に攪拌す。△捏 指にてこねること。要裝柄的 手を付けなければならぬもの。△要畫圖的 繪を描かなければならぬもの。△末了 最後。△上釉 瀬戸薬をける。擱在窯裏 竈の中に入れる。

【譯 解】

磁器の製造法は、先づ二種の磁器粘土を、混合平均に攪拌し、後更に之を一種の器具にこね上げ、手を附すべきものは、手を附し、繪を描くべきものは繪を描き、最後に更に薬をかけて竈の中に入れて焼けば磁器は完成す。

瓷。器。在。窯。裏。燒。的。時。候，火。力。從。一。千。六。百。度。到。二。千。度，素。瓷。燒。一。次。就。成。彩。瓷。要。燒。兩。次，方。能。成。功。進。窯。燒。的。時。候，外。面。要。加。一。層。粗。泥。做。的。護。瓷。筒，那。瓷。器。纔。不。會。破。裂。

景。德。鎮。的。瓷，在。中。國。是。最。有。名。的。瓷。質。也。是。全。球。第。一。等。現。在。又。用。新。法。製。造，出。品。格。外。精。美。將。來。的。進。步。和。希。望，正。不。可。限。量。的。

【註 解】

△素瓷 素焼。△一次 一回。△彩瓷 彩色焼。△方 始めて。△進 入る。△不會 能はず。△全球 世界の意。△出品 製出品。△不可限量 測り知るべからずとの意。

【譯 解】

竈に於いて磁器を焼く時、火力は千六百度乃至二千度である。素焼は一回にて焼けるも、彩色焼は二回にて始めて焼き上がるのである。竈に入れて焼く時は、外部に土の保護筒にて一側掩はなければならぬ。斯くすれば磁器は始めて破裂することなし。

景德鎮の焼物は、支那に於いて最も有名であり、磁質も世界第一である。現在は又新式方法を以て製造するに因り、製出品は特に精美で、將來の進歩と期待は真に測り知るべからざるものがある。

練 習

下句の意味を思索せよ。

1. 靠着做磁器生活。
2. 先把兩種磁泥混合拌勻。
3. 末了再上釉。
4. 彩磁要燒兩次、方能成功。
5. 不可限量。
6. 要畫圖的畫圖要裝柄的裝柄。

第 五 十 三

中。國。北。方。各。省，都。產。羊。毛，產。額。最。多。的。是。甘。肅。蒙。古。山。西。河。北。河。南。山。東。幾。

省。每^{ノイ}年^{ニエンヌ}產^{フオング}額^{ヌー}的^{スニ}總^{フニ}數^{フンヌ}，從^{フニ}四^{フンヌ}。十^{タン}萬^グ石^{ウー}。到^{ウー}五^{ウー}十^{ウー}萬^{ウー}石^{ウー}不^{ウー}定^{ウー}。前^{フニ}幾^{フニ}年^{フニ}裏^{フニ}，日^ニ美^ニ兩^ニ國^ニ研^ニ究^ニ。羊^{ヤン}毛^{マウ}的^{ノイ}人^{ニエンヌ}說^{フオング}，「中^{フニ}國^{フニ}羊^{フニ}毛^{フニ}很^{フニ}合^{フニ}用^{フニ}。」從^{フニ}此^{フニ}中^{フニ}國^{フニ}輸^{フニ}出^{フニ}的^{フニ}額^{フニ}數^{フニ}，也^{フニ}就^{フニ}逐^{フニ}年^{フニ}增^{フニ}加^{フニ}了^{フニ}。但^{フニ}是^{フニ}飼^{フニ}養^{フニ}和^{フニ}採^{フニ}取^{フニ}的^{フニ}方^{フニ}法^{フニ}，還^{フニ}有^{フニ}點^{フニ}不^{フニ}合^{フニ}，所^{フニ}以^{フニ}中^{フニ}國^{フニ}羊^{フニ}毛^{フニ}的^{フニ}產^{フニ}額^{フニ}，還^{フニ}不^{フニ}如^{フニ}澳^{フニ}洲^{フニ}。若^{フニ}是^{フニ}能^{フニ}够^{フニ}把^{フニ}這^{フニ}兩^{フニ}層^{フニ}趕^{フニ}緊^{フニ}改^{フニ}良^{フニ}，就^{フニ}不^{フニ}難^{フニ}和^{フニ}澳^{フニ}洲^{フニ}一^{フニ}樣^{フニ}，即^{フニ}使^{フニ}做^{フニ}世^{フニ}界^{フニ}上^{フニ}第^{フニ}一^{フニ}個^{フニ}羊^{フニ}毛^{フニ}出^{フニ}產^{フニ}國^{フニ}，也^{フニ}不^{フニ}是^{フニ}難^{フニ}事^{フニ}，所^{フニ}謂^{フニ}「事^{フニ}在^{フニ}人^{フニ}爲^{フニ}」這^{フニ}句^{フニ}話^{フニ}是^{フニ}不^{フニ}錯^{フニ}的^{フニ}。

【註 解】

△幾省 數省と解す。△石 量目の時はタンと發音す。△不定 均しからずの意。△日美 日本米國。△合用 實用に適する意。從此 それより以後。△還有點不合 尙少し適當ならず。△能够 能ふの語勢強きもの。△把 何々を。△趕緊 速かに。△和澳洲 一樣 濠洲と同一との意。△即使 假令の意。△事在人爲 事の成功不成功は人次第であるとの意。

【譯 解】

支那の北方各省は總て羊毛を産出す。産額最も多きは甘肅、蒙古、山西、河北、河南、山東數省にて、毎年の總産額は四十萬石より五十萬石に達す、數年前日米兩國に於ける羊毛研究者は「支那羊毛は甚だ使用に適す」と發表したるより、支那輸出額も年年増加せり、但し飼養と採毛の方法に於いて尙稍、不適當の點有るが爲め、夫故支那羊毛の産額は尙濠洲に及ばざるなり、若し此二點

を急速に改良し得れば、濠洲と肩を並ぶるに難からず、假令世界第一の羊毛産出國たることも難事に非ず、謂はゆる「事は人次第」なる語は適語といふべし。

第 五 十 四

我^{ノウ}國^ウ的^フ農^フ夫^フ，除^フ了^フ種^フ稻^フ麥^フ。種^フ桑^フ麻^フ外^フ，大^フ部^フ分^フ是^フ種^フ棉^フ花^フ的^フ。可^フ是^フ近^フ年^フ外^フ國^フ棉^フ花^フ，進^フ口^フ極^フ多^フ，質^フ料^フ很^フ優^フ良^フ，相^フ形^フ之^フ下^フ，我^フ國^フ的^フ棉^フ花^フ，竟^フ處^フ於^フ劣^フ敗^フ地^フ位^フ，這^フ是^フ什^フ麼^フ緣^フ故^フ呢^フ？據^フ農^フ學^フ專^フ家^フ試^フ驗^フ說^フ是^フ棉^フ種^フ的^フ關^フ係^フ。

【註 解】

除了…外 何々より外にはとの意。除了拚命外、沒有別的法子、命を捨てるより外には方法がない。除了作冤受累、沒有別的(誣されたり骨を折つたりした外には、何も無かつた)△種 植えること、但し種田は耕す意味ともなる。△進口 輸入。△相形之下 比較考察する處との意。△竟 結局。△處 居るの意。△什麼緣故 如何なる原因。△專家 專門家。△棉種 棉の種子。

【譯 解】

我國の農夫は稻麥を植え桑麻を植える外は、多くは棉花を植えるのである。然しながら近年外國棉花の輸入極めて多く、品質甚だ優良にて、比較するに、我國の棉花は、結局劣敗の位置に置かれてゐるが、これは如何なる原因であるか、農科専門家の試験に據るに、棉種の關係であるといふ。

調一查 全一世界。的 產 棉，最。著。名。的 是 美一國
 其次，是 印。度。其次 是 埃。及，再。次 是 中。國。
 現。在。我 國 要 把 棉。花 改。良，當。然 試 種。外。國
 種。了，不 過。印。度 棉 種，並。不 十。分 高 貴，可
 以。不 必。改 種，埃。及 棉 種，又。不 適。宜 於 我 國
 的 氣。候。土。質，也 可 以 不 去。改 種。如 此 算。來
 最。好。的 就 是 美 國 種 了。

【註 解】

△ 美國 米國。△ 再次 更に次。△ 不過 但し。△ 並 少しも、
 一向に。△ 十分 甚だ。 高貴 優秀。 可以不必 必ずしも
 せざるも宜し。△ 不去改種 去は「行く」程の意味なく、一動作
 より他の動作に移る時、語調を整へるために置かる。△ 最好的
 最も良きもの。

【譯 解】

全世界の棉花生産を調査するに、最も有名なるは米國で、次は
 印度、其次は埃及、更に次は支那である。今日我國に於いて棉花
 を改良するには當然外國種を試栽すべきである。但し印度の棉種
 は、決して甚だしく優秀に非ざるを以て、必ずしも改良種子とな
 さざるも可なり、埃及棉種は又我國の氣候土質に適せざれば、是
 亦改良種子となさざるも可なり、此の如く數へ來れば最も適當な
 るは美國棉種である。

我 國 像。江。蘇。浙。江。湖。北。陝。西。湖。南。
 江。西。河。南。河。北。山。東 各。省，都 是 出。產

棉。花。的 地。方。但。是 只。可。以 紡。做。粗。紗，所
 以。着。着。失。敗。倘。然 改。了 美。國 種，再。加。上。
 些 培。植。工。夫，難。道。不。可。以 紡。做。細。紗。麼？
 從。這。樣。說。來。不。但 是 農。業。有 興。盛。之。日，
 就 是 工。商 業，也 有 發。達。的 希。望。了。（新法
 國語教科書）

【註 解】

△ 像 如きの意。△ 出產 産出する。△ 紡做粗紗 紡いで粗悪な
 紡績となすこと。△ 着着 一步一步といふが如し、着は圍碁の一
 手をいふ。△ 倘然 若しもの意。△ 培植工夫 栽培研究。△ 難道
 反問反詰に使用し、一般には「何んと云々なるや」或は「まさか
 云々ではあるまい」の如く譯されてをる。他辨得到的、難道我就
 辦不到麼 彼が爲し切れるのに何んと私だけが爲し切れないとい
 ふことがあろうか。他說煤是白的難道你還信麼 彼が石炭は白
 と言ふても、何んと君は尙信ずるか、難道你打算白活一輩子麼
 なんと君は空しく一生を送る積りか。△ 細紗 上等紡績絲。△ 不
 但……就是……のみならず且つの意。

【譯 解】

我國に於ける江蘇、浙江、湖北、陝西、湖南、江西、河南、河
 北、山東各省は總て棉花産出の土地である。但し只粗悪なる紡績
 糸を紡ぎ得るのみであるがため、夫故一步一步失敗するのである。
 若し米國種に改め、更に栽培研究を加へたならば、まさか優良紡
 績糸を紡ぎ得ないことがあろうか、此の如くなれば、唯に農業興
 隆の日有るのみならず、尙商工業も發達の見込が有る。

練習

下記の音に就き文字と意味とを表すべし。

1. 子¹ン¹コ²オ³テ¹イ¹ン²マ²オ²ヘ¹ン³余¹ヨ²ン⁴.
2. シ¹ツ¹イ¹リ²ン²ウ²イ².
3. パ¹子¹リ²ン²ヤ¹オ¹カ¹ン³チ²ン³カ¹イ³
リア²ン².
4. 子¹ン¹コ²オ²イ²ン²マ²オ²テ¹子¹ン³余¹ハイ²プ¹
ル²ア¹オ¹子¹ウ¹.
5. シ¹ユ¹子¹ユ¹テ¹余¹シ¹ユ¹子¹ユ¹ニ²エン²ツ¹ン¹
チ¹ア¹ラ¹.

解答

1. 中國的羊毛很合用 支那の羊毛は甚だ實用に適す。
2. 事在人爲 事は人次第。
3. 把這兩層，要趕緊改良 此の二點を急速に改良しなければならぬ。
4. 中國羊毛的產額，還不如澳洲 支那羊毛の產額は尙濠洲に及ばぬ。
5. 輸出的額數，逐年增加了 輸出數は年毎に増加した。

次の字音を思案せよ。

其餘、瓷器、軟硬、裝柄、產額、研究、拌勻、所謂、稻麥、劣敗、關係、興盛、希望。

下の語を漢譯せよ。

1. 上に置くべきものは上に置く。

2. 若し植付方法が良かつたならば、世界第一となるに難くない。
3. あの邊は河魚より外に食へるものはない。
4. 君が其様に言ふたので私は始めて分つた。
5. 必ずしも自分で行かなくとも宜しい。
6. なんと君は私に乞食(花子)の眞似をせよ(學)といふのか。
7. なんとこれしきの事すら爲し切れないのか。

1. 應該擱在上頭的、擱在上頭。
2. 若是培植的工夫很好、不難做世界第一。
3. 那一帶除了河魚、沒有什麼可吃的。
4. 你這麼說、我纔明白了。
5. 可以不必親自(自己)去。
6. 難道你叫我學花子麼。
7. 難道連這麼點兒事還辦不了麼。

第二十四日

第五十五

中國的地¹方²很³大⁴，出¹產²的³原⁴料⁵也⁶很⁷多⁸，
 可⁹是¹⁰日¹¹常¹²的¹³用¹⁴具¹⁵，大¹⁶半¹⁷是¹⁸外¹⁹國²⁰貨²¹，這²²是²³什²⁴
 麼²⁵緣²⁶故²⁷呢²⁸? 難²⁹道³⁰國³¹人³²不³³喜³⁴用³⁵國³⁶貨³⁷麼³⁸? 不³⁹是⁴⁰
 的⁴¹，因⁴²爲⁴³國⁴⁴貨⁴⁵和⁴⁶外⁴⁷貨⁴⁸比⁴⁹較⁵⁰有⁵¹三⁵²種⁵³劣⁵⁴點⁵⁵。

- (一) 質¹料²不³精⁴細⁵。
- (二) 形¹式²不³美⁴觀⁵。
- (三) 使¹用²不³便⁴利⁵。

所以中國雖有極豐富的原料，爲了工業不發達，製造不改良，國貨就不能抵制外貨了。

一國的日常用品，多數是外貨，在國民生活上，影響很大。維持的法子，祇有提倡國貨，然而提倡國貨，全在國民自己。獎勵我國工業，還在萌芽時代，用的人要原諒一點；製造的人，要奮勵一點，那麼國貨的前途，就有發達的希望了。（國語教科書）

【註解】

△難道 前章にも有りし通り、反問反詰の場合に使用せられ、何んと、まさかの意味の語である。△國貨 國產品。△爲了 爲めの意にて了には何等意味無し。△抵制 對抗制御すること。△國民生計 國民經濟。△維持 支持するに同じ。△祇 只に同じ。△提倡 獎勵する意味に近し。△獎勵 推獎すること。△原諒 諒察する意。△那麼 此の如くなればの意。

【譯解】

支那は土地甚だ廣く、原料の産出も甚だ多い、然るに日常の用具は過半は外國品であるは、そも如何なる原因なるか、何んと國人が國産品を愛用せぬのであるか、然らず、國産品を外國品に比較するに三種の劣點あり。

- (一) 實質精良ならず。
- (二) 外觀美術的ならず。
- (三) 使用法便利ならず。

故に支那には極めて豊富なる原料有れども、工業發達せず、製造改善せざるが爲め、國産品は外國品と匹敵する能はず。

一國の日用品にして、多數外國品なれば、國民經濟上に及ぼす影響は甚だ大なり、支持する道は、只國産を獎勵するにあるのみ。然れども國産獎勵は、全く國民自身の推獎に存す、我國の工業は尙ほ萌芽時代にあるが故に、使用者少しく諒察し、製造者少くし奮勵せば、國産品の前途は發達の望有るなり。

第五十六

現。今。世。界。大。通。各。國。的。商。業。日。興。月。盛。彼。此。互。相。競。爭。和。兩。軍。交。戰。一。樣。他。的。貨。物。就。是。槍。礮。公。司。就。是。隊。伍。商。埠。就。是。戰。場。所。以。商。業。競。爭。叫。做。商。戰。

【註解】

彼此 互に。△和……一樣……と同じ。△貨物 商品。△就是 即ち。△槍礮 銃砲。△公司 會社。△商埠 通商地。

【譯解】

現時世界の交通大に開け、各國の商業は日に月に隆盛となり、彼此互に競争し、兩軍交戦すると同じである。彼の商品は即ち銃砲であり、會社は即ち隊伍、通商地は即ち戰場である。夫故商業競争を商業戦といふ。

遇。着。戰。爭。的。事。殺。人。流。血。不。論。什。麼。人。都。是。害。怕。的。所。以。講。到。戰。爭。沒。有。一。

個不「談虎色變」可是商業的戰爭，大。家
 因。爲。不。見。什。麼。殘。酷。的。事，就。不。以。爲。意。不
 曉。得。商。戰。的。勝。負，却。和。國。計。民。生。有。絕
 大。的。關。係。兵。戰。敗。了，還。可。以。生。聚。教
 訓，再。圖。報。復。要。是。商。戰。敗。了，一。國。的。財
 力，暗。中。受。了。無。窮。的。股。削。要。想。恢。復，
 很。是。煩。難。好。比。一。個。人。害。了。弱。症，精。血
 已。枯，再。要。想。他。還。原，難。不。難。呢？所。以。商
 戰。比。兵。戰。還。要。利。害。商。戰。戰。敗。的。國。家，總。是
 一。天。窮。困。一。天，復。興。的。希。望。很。少，偏。看
 那。印。度。的。滅。亡，不。就。是。這。個。緣。故。麼？

【註 解】

△血 シ、エ、シ、エの兩音あり、前者は俗音とす。△害怕 恐
 を懐くこと。△講 話す意。△談虎色變 虎の事を話せば顔色を
 變ず即ち恐怖して顔色を變ずる意味の熟語。△可是 併し。△不
 以爲意 意に介せず、平氣でをること。△不曉得 知らずの意、
 何ぞ知らんの意に解す。△却 却て。△國計民生 國家經濟國民
 生活。△生聚教訓 人民繁殖集團して教育すること、左傳に十年
 を越えて生聚し、而して十年教訓すとの語あり。△股削 滅殺、
 減縮すること。△好比 恰も何々の如し、好と同義。△害 罹る
 の意。△還原 元に復すこと。△利害 激煎。△總是 結局の意
 △不就是……麼 即ち何々にあらずやと解す。

【譯 解】

戰爭に遭遇し、殺傷流血を見れば、如何なる人と雖も皆恐を爲

すのである。夫故戰といへば、一人として顔色を變へないものは
 ない。然るに商業戦争は衆人は何等残酷なる事を見ないが爲め、
 それで意に介さないのであるが、何ぞ知らん商業戦の勝敗は、却
 て國家經濟國民生活に絶大な關係を有つてゐるのである。戦争に
 敗けたならば、又人民繁殖して教育し、再び報復を企て得るが、若
 し商業に敗けたならば、一國の財力は暗々裏に非常な窮乏を受け
 恢復せんと欲するも甚だ困難であつて、恰も人が衰弱症に罹りて
 生氣が無いやうなものにて、再び回復を欲するは困難であらう。
 夫故商業戦は戦争に比して尙激烈であつて、商業戦争に敗北せる
 國家は、要するに日日困窮となり、復興の望は甚だ少ないのであ
 る。彼の印度の滅亡を見よ、即ち其故に非ざる無きか。

現。在。的。國。家。軍。國。主。義。已。經。不。適。用。了。
 只。有。用。商。戰。主。義。來。立。國。你。看。歐。美。各
 國，不。是。都。在。商。業。上。注。意。麼？我。國。再。不。趁
 着。這。時。候。「急。起。直。追」。將。來。就。不。堪。設。想
 了。（國語教科書）

【註 解】

△適用 適合の意に近し。△歐美 歐米。△趁着這時候 此時
 期に乗じての意。△急起直追 猛然立つて急に追躡すること。△
 不堪設想 想像するに堪えぬ即ち思ひ寄らぬ事を生ずと解せらる。

【譯 解】

現在の國家は軍國主義已に適用せられず、只經濟戰主義のみに
 依つて國を立つることゝなつた。見よ歐米諸國は總て商業に意を

注いでゐるにあらずや。我國は更に此時期に乘じ猛然起つて急追せざれば、將來想ひ及ばぬ事を生ずるに至るべし。

第五十七

徐伯林是德國人。少年時候，就在軍隊裏。他替國家出了許多力，立了許多功，還不能滿意。他時常說「我要造一隻新船，不走水路，不走旱路，要在天上飛，幾天裏頭，不用添上燃料，並且要在一定的時候，到一定的地方，我坐着這船，要把一個人家沒有到過的去處，發見出來。」

【註解】

△徐伯林 ツェツペリン。△德國 獨逸。△替國家 國家の爲め
△出力 働く、盡力する。△滿意 満足する。△時常 常に。△添上 増加。△沒有到過的去處 行きたることの無き場處。

【譯解】

ツェペリンは獨逸人である。少年時代早くも軍隊に入り、國家の爲め種々働き、種々功勞が有つたが、尙満足しなかつた。彼は常に「自分は一艘の水上を行かず、陸上を走らず、空中を飛行し、數日間燃料を補給せず、且一定の時期に一定の處に到着するやうな船を作り、自分は兵船に乗り前人未踏の處を發見したいものだ」といふてゐた。

徐伯林第一次說這話的時候，已經五

十。三歲了。他的親戚朋友，沒有一個不笑。他，都說他這話是一種夢想，決計不能成。做事實的，他也不和人辯白。自己去把住房賣了，拿錢來試造這個東西。起初幾次，總不能成功。人家譏笑他的越發多了。

【註解】

△決計 此處にては決してと解す。△和人辯白 人に向つて辯解す。△住房 住宅。△起初幾次 最初の數回。△總 どうしても
△譏笑 嘲笑す。△起發 益々。

【譯解】

ツェペリンが初めて此事を言ひたる時は已に五十三歳であつた。彼れの親戚朋友は誰れとして笑はぬものはなく、彼れの此話是一種の夢想だ、決して事實と成ることは出來ないと、皆言つた。彼は人に對して辯解もせず、自分で住宅を賣拂ひ、其金を以て之を試作した。最初數回は如何にしても成功しなかつた。人の彼を嘲笑するものが益々多くなつた。

但是他抱着「百折不回」的精神，志向更堅，試驗更猛。到後來，居然造成一隻船，能載在空中飛到三四十個小時，和三四千里遠路。後來又逐漸改良，竟成了軍事上最新的利器，人家因爲這船是徐伯林發明的，就稱做徐伯林新船。像有識

一見。有毅。力。這。樣。的。人，人。家。聽。了，誰。不。起。敬。
呢？

【註 解】

△百折不回 不撓不屈の意。△居然 意外の意を含む、又辛ふじて成就する場合に使用する（やつとのこと）の意にも解さる。
△小時 一時間。△像 如き、如しの意。△誰不起敬 誰れか敬意を起さざらんやの意。

【譯 解】

然しながら彼は不撓不屈の精神を抱き、決心は更に堅く、試作は更に猛烈となつた。後に至り、意外にも空中に三四十時間、距離三四千里を飛ぶ一艘の船を作成したが、後又漸次改良して、竟に軍事上最新の利器となつた。此船はツエベリンの發明せるものなるに因り、新ツエベリン號と、人は稱へた。識見と根氣有る此人の如きに對し、聞く人誰か尊敬の念を起さぬものが有らうか。

練 習

以下各語の意味を思索すべし。

難道國人不喜用國貨麼。

總是一天窮困一天。

趁着這個時候急起直追。

決計不能做成事實。

越發多了。

不堪設想。

百折不回。

居然造成了。

像有識見有毅力的這樣人能有幾個。

質 問

1. 甚麼叫商戰呢。
2. 印度是怎麼滅亡的。
3. 飛行船是那國人是誰發明的。
4. 他想要造飛行船的時候是多大歲數兒。
5. 到底他造了怎麼樣的船呢。

質問答解

1. 商業上彼此競爭、彷彿打仗一樣、所以叫做商戰。
2. 印度商戰上戰敗、一天窮困一天、所以滅亡了。
3. 是德國人名叫徐伯林的發明的。
4. 是五十三歲。
5. 能載在空中飛到三四十個小時、和三四千里遠路的船。

第二十五日

第五十八

旅行的樂處。旅行是離鄉背井的一件。
 事，情，經過多少路程，飽受多少風霜，
 究竟有什麼樂處呢？
 然而我們能留心交通的狀況，旅客的
 情形，或考察地方的風俗，訪問古時的

陳蹟，却到處有一種樂境。至於山峯的高壯，海水的廣潤，都可以開展胸襟，這也是一種好處。所以旅行是一面可以增進道德，一面可以擴張見聞。就是各地著名的食品，不妨略嘗異味，這又是一種樂事。

進一步說，旅行中所有賞心悅目的見聞，不單是一時的快樂，並且隔了多時，回想起來，如在目前，還可以做談話的資料。這不是人生很快樂的事麼？

【註解】

△背井 町を後ろにすること。△飽受 十分に受ける。△風霜 旅行の苦味。△究竟 畢竟、結局。△然而 然しながら。△陳蹟 舊蹟。△開展胸襟 氣分が開けること。△就是 縦しんばの意なれども、且其上と解す。△不妨 不可無しの意。△略嘗異味 少しく變つた風味を味ふ。△賞心 心を歡ばすこと。△不單 單に何々のみならず。

【譯解】

旅行の樂味 旅行は故郷を離れ家に背く事であり、幾許かの路程を過ぎ、幾許かの旅苦を痛切に受くるのであつて、結局如何なる樂みがあらうか。

然しながら我等は交通状態や、旅人の様子に注意することを得、又地方の風俗を視察し、古代の舊蹟を訪ぶることを得て、却て到る處一種の楽しき境地がある。特に山嶺の高壯や、海水の廣大な

るは、皆氣分を快豁にす、これ亦一の長處である。故に旅行は一方に於ては道德心を増進し、一方に於ては見聞を擴めることを得るのみならず、各地の名物を少く味ふことも不可無く、是れ又一の樂みである。

更に一步を進めて言へば、旅行中の心を悦ばせ日を娛ませたる一切の見聞は單に一時の快樂であるのみならず、尙時日を経過したる後、回顧すれば眼前に髣髴し來り、談話の種となすことを得る。何んと人生甚だ快樂の事にあらずや。

第五十九

湖上的山，湖裏的水，湖邊還繞着垂楊。垂楊裏面，夾着幾朵桃花，半開半放。想是怕洩漏春光，纔這般隱藏。

沒拘束的魚兒，在水中游泳。

沒拘束的鳥兒，在林中歌唱。

你看他們，是何等自由。

你看他們是何等歡暢。

淡淡的斜陽，照着山岡，

碧綠的湖水，在那裏盪漾。

顯出他活潑潑的氣象。

這真是湖山勝地，我可能終日徜徉。

還有那美^{メイ}人的蘇^{スー}小^{シイアオ}，英^イ雄^{イング}的岳^{レイユング}王^{ワン}，
 都^ド留^{リウ}着堆^{トイ}黃^{ホフング}土^{トウ}，供^コ人^{ロング}弔^{タイアオ}望^{ワング}。
 更^{ゴング}點^{フイエンヌ}綴^{ツイ}得^タ湖^ホ山^{シオング}生^{ワン}色^ク，
 教^{チイアオ}遊^{イユ}人^{イユ}不^{イユ}住^{イユ}的^{イユ}嚮^{イユ}往^{イユ}，不^{イユ}住^{イユ}的^{イユ}欽^{イユ}仰^{イユ}。

(西湖白話詩)

【註 解】

△繞 めぐる、圍繞する。△放 葉が出ること。△這般 此様に
 △何等 多麼と同義にて何んと譯す。△歡暢 暢りとして愉快
 なる形容。△斜陽 夕陽。△盪漾 漫々として岸を浸す。△徜徉
 往來遊歩すること。△蘇小 明瞭ならず、恐らく錢唐の妓の名な
 らん。△岳王 宋の名將岳飛。△點綴 飾り付ける。△生色 字
 の如く生き生きしたる様子。△教 せしむの意。△不住的 絶え
 ず不斷に。△嚮往 其處に向つて行く。△欽仰 仰ぎ敬ふ。

【譯 解】

湖上の山は麗しく、湖水の水は清らけし、
 湖邊をめぐる垂れ柳。
 柳の蔭の桃の花、若葉葉越にちらほらと、
 綻び初めし其風情。
 春の光の漏れ來り、疾く老行くを惜みてか、
 斯くは蔽ひ隠すなれ。
 囚はれ受けぬ小魚は、水に泳ぎて往きつ來つ、
 囚はれ受けぬ小鳥等は、木の間に彼方此方鳴き遊ぶ。
 見よや、如何に彼等の自由なる、
 見よや、如何に彼等の愉快なる。

淡き夕日は山に照り、
 青き湖水は岸を打つ。
 活氣に満てるその様は、
 げにこれ湖山の名勝地。
 われは終日遊ばなん。
 世に嘔はれし亡き蘇小、
 蓋世の英雄岳武穆。
 此處に一基の塚を留め、
 捧ぐる香の煙濃し。
 湖山は爲に景を添え、
 遊び詣づる人絶えず。

第 六 十

上^ク古^ク時^ク候^ク亞^ク洲^ク有^ク一^ク個^ク最^ク聰^ク明^ク的^ク國^ク王^ク名^ク
 叫^ク蘇^ク羅^ク門^ク他^ク能^ク認^ク識^ク各^ク種^ク花^ク草^ク又^ク曉^ク得^ク
 各^ク樣^ク昆^ク蟲^ク和^ク禽^ク獸^ク的^ク生^ク態^ク無^ク論^ク甚^ク麼^ク人^ク
 去^ク問^ク他^ク他^ク總^ク能^ク回^ク答^ク出^ク來^ク所^ク以^ク他^ク的^ク名^ク聲^ク
 很^ク大^ク。
 同^ク時^ク又^ク有^ク一^ク個^ク希^ク巴^ク國^ク的^ク女^ク王^ク聽^ク見^ク蘇^ク羅^ク門^ク
 是^ク這^ク樣^ク的^ク一^ク個^ク人^ク想^ク試^ク他^ク一^ク試^ク就^ク自^ク己^ク跑^ク
 到^ク田^ク裏^ク去^ク摘^ク了^ク許^ク多^ク首^ク蓓^ク花^ク又^ク叫^ク了^ク有^ク名^ク
 的^ク巧^ク匠^ク來^ク用^ク心^ク仿^ク造^ク造^ク成^ク後^ク真^ク假^ク一^ク
 比^ク簡^ク直^ク假^ク的^ク和^ク真^ク的^ク一^ク般^ク絲^ク毫^ク不^ク能^ク分^ク別^ク
 他^ク歡^ク喜^ク已^ク極^ク就^ク把^ク這^ク真^ク假^ク首^ク蓓^ク花^ク合^ク在^ク一^ク處^ク。

拿到蘇羅門那裏去，問他那一個是真的。
 蘇羅門接過首蓆花來一看，起先很是猶疑，
 不能決定。後來他聽得窗外有蜜蜂飛
 的聲。就叫人開了窗戶，讓蜜蜂進來。
 蜜蜂一進來，就直向真花上飛去。蘇羅門也
 立刻辨得出花的真假來了。
 女王連忙向他鞠躬說「國王！你真是一個
 聰明人，可稱「名不虛傳」我佩服你了」

【註 解】

△亞洲 亞細亞洲。△蘇羅門 ソロモン。△曉得 通曉すること
 △生態 生存狀態。△總 少くもと解す。△這樣的一個人 この
 様な立派なる人との意。△就自己 そこで自身。△首蓆花 草名
 馬ごやし。△仿造 模造す。△真假 眞偽。△簡直 全然。△一
 般 同様、同一。△絲毫 少しも。△接過 受取る。△起先 最
 初。△猶疑 躊躇する。△讓……進來 入り來らしむ。△直 い
 きなり。△辨得出 區別が出来る。△連忙 慌しく、忙はしくの
 意。△鞠躬 腰を曲げて禮をすること。△名不虛傳 名は實に背
 かずの意。△佩服 感服すること。

【譯 解】

昔亞細亞にソロモンといふ甚だ聰明な國王があつた。彼は各種
 の花や草を知り、又各種の昆蟲や禽獸の生存狀態に明るく、如何
 なる人が質問しても、殆んど答へることが出来たので、彼の評判
 は甚だ高かつた。

其時又シバの國の女王が、ソロモンの此の様に聰明なる人であ

るのを耳にし、彼を一つ試してみやうと考へ、自身田圃に走り行
 き、澤山のうまごやしの花を採つて來て、有名な器用な職人を呼
 び來り、心を籠めて模造せしめた。出來上がった後、實物と偽物
 を一寸比較してみると、全く偽物は實物と同じで、少しも見分け
 られなかつた。彼は限りなく喜び、そこでこの二色のうまごやし
 の花を一處に交せて、ソロモンの處へ持つて行き、彼に何れが眞
 物かと尋ねた。

ソロモンは其花を受取り一寸見て、最初は甚だ躊躇して決める
 ことが出来なかつたが、後に彼は窓の外の蜜蜂の聲を聞きつけ、
 そこで人に窓を明けさせ、蜜蜂を入れさせた。蜜蜂は入るや否
 や、いきなり實物の花へ飛んで行つたので、ソロモンも直ぐに眞
 偽を區別することが出来た。

女王は急いでソロモンに向つて禮を施し、そして「王様、あな
 たは誠に聰明な方です。評判の通りと申すことが出来、私は王様
 に敬服致しました」と言つた。

第 六 十 一

從前有两个殘廢的人，一个是瞎子，一个
 是不会走路的人；都是很可憐的。
 有一天，瞎子想自己眼睛，雖是看不见，
 腿可沒有病；要是能找一个腿不能走
 路的人，眼睛看得见的，合起力來，豈不是两个人
 都好点了麼？主意想定，他就去同瞎子
 商量。瞎子一聽，也很以為然。從此以

後，他們兩人就合在一處，共營生。活。走路做事，都是瞎子負着癱子。癱子指示他方向，告訴他事情。這麼一來，兩個人的痛苦，都減輕多了。

這一段故事，諸位以為怎麼樣？可知這就是共同生活最好的例子。拿自己所長補助他人的短處，連自己的短處，也補助起來。要不是這樣，瞎子如何會知道方向。和事情，癱子又怎麼會走路呢？

【註解】

殘廢 不具。△瞎子 盲人。△不會走路 路を歩く能はず。△癱子 中風に罹りたるもの。△看不見 見えぬこと。△腿 足。△要是 若是に同じ。△找 捜す。△看得見 見えること。△合起來 合せ出す、起來はし初める、し出すの意味にて進行を表示する助字。△豈 何んとし解す。△不是好麼 善いではないかの意。△主意想定 決心すること、考が決まること。△商量 相談する。△很以為然 甚た賛成する。△從此 これより。△告訴 話し教へる。△這麼一來 此の如くなるとの意。△輕減多了 ずつと軽くなる。△以為 想ふ意。△就是 即ち。△拿 以てと解す。△他人 トーゲンズと發音す。△如何會 どのように出来るかの意。

【譯解】

嘗て二人の不具者が居つた。一人は盲人で、一人は歩行の出来ない中氣病みであつて、何れも憐れな人であつた。

或日盲人は考へた、自分の眼は見えないけれども、足には病氣が無い、もし足の利かず、眼の見える人を捜して力を合せることが出来たなら、何んと二人とも都合が好いであらうと。考が決まると、そこで行つて中氣病みの者と相談した。中氣病は聞くと甚だ賛成した。それより後、二人のものは一緒になつて、共同生活をし、働いたり路を歩いたりする時、何時も盲人は中氣病みを背負ひ、中氣病は方向を示し、状況を教へたりした。かうなると、二人の苦痛はずつと軽くなつた。

この一くさりの故事を、諸君は如何に考ふるや、即ち共同生活の最も好き例であつて、自己の長處を以て、他人の短處を補ひ、同時に自己の短處さへも補ひ得られることが知れるであらう。若し此様でなかつたなら、盲人はどうして方向と状況を知ることが出来、中氣病は、又どうして道を歩くことが出来やうか。

第二十六日

第六十二

范熙恒坐在火爐旁邊，拿了兩個燒餅，在那裏吃。剛吃了一個，因為有事情，就把那一個放在火爐上烤着，自己走出去了。底下人走進來，見火爐上有個燒餅，就把他給吃完了。不多時，范熙恒走回來，看見火爐上的燒餅沒有了，就說「剛纔我放一個燒餅在火爐上，怎麼沒有了？」底下人說「我

「沒有吃」范熙恒說「你沒有吃還好，因爲我要捉老鼠，燒餅裏已經放了毒藥。」
 底下人聽了這話，慌忙說「哎喲！有毒嗎？我已經吃了，快快想個法子解毒罷！」范熙恒聽了，大笑說「你不要慌，如果我不是這樣說，你怎肯說是你吃的呢？」

【註 解】

△燒餅 我煎餅に似て軟くして厚く且大なるもの、飯の代用物である。△剛吃了 食べたばかりの時。△放 置く。△烤 炙り焼くこと。△底下人 下男。△走進來 入り来る。△還好 先づ宜い。△放了毒藥 毒藥を入れた。△慌忙 あわてること。△哎喲 驚の聲、やあ大變といふ如きもの。△想個法子 何とか方法を講ずとの意。△如果 もし果して。△怎肯 どうして自分から進んで何々するであらうかと解す。

【譯 解】

范熙恒は煖爐の傍に腰を掛け、二つの軟煎餅を手に持つて、そこで食べてゐた。一つ食べたばかりの時、用事が出来たので、片方の物を爐の上に置いて炙り置き、自分は出て行つた。

下男が入つて来て、煖爐の上に軟煎餅が置いてあるのを見てそこでそれを食べてしまつた。間もなく、范熙恒は戻つて来て見ると、煖爐に置いた軟煎餅が無くなつてゐた。そこで「先程私は軟煎餅を煖爐の上に置いたがどうして無くなつたのだろう」と言つたところ、「私は食べやしません」と下男が言つた。范熙恒は「お前は食べなくて先づ宜かつた。私は鼠を捕うと思つて餅煎の中に

毒を入れて置いたのだ」と言つた。

下男は此言葉を聞き、倉皇と言ふには「おや大變だ、毒が入つてゐますか。私は食べて了ひました、早く何とかして毒を出して下さい」。范熙恒は聞いて大笑ひをして言ふには、「お前、あわてるには及ばない、若し私が其様に言はなかつたら、お前はどうして自分から自分が喰べたと言ふであらうか」と。

第 六 十 三

「人是什麼東西呢？」
 這個問題，什麼人聽見，總覺得奇特。一定說直立步行，會說話的就是人。咳！這種解釋大錯了，錯誤的原因，是沒有知道人的價值。

【譯 解】

人とは如何なる物であるか。
 この問題は何人が聞いても、必ず奇怪に感じ、必ず直立歩行し、談話の出来るものが即ち人であると言ふであらう。否、この種の解釋は甚だ間違つてゐる。間違へる原因は人なるものゝ價值を知らないからである。

人的解釋，有種種不同。有人說「人是能笑的動物。」這是從生理上斷定的。有人說「人是有理性的動物。」這是從心理上斷定的。這些話都不是確論。

【譯 解】

人に就いての解釋は種々同一ならず、或者は「人は笑ひ得る動物である」と言ふが、これは生理上から斷定したものである。或者は「人は理性を有る動物である」と言つたが、これは心理上から斷定したもので、これ等は總て適論ではない。

據我看來，天生人的各種官能，本名叫他去共謀生活的，所以解釋人字的意義，應說人是能直立步行，會說話，有理性，營共同生活的動物。照這様說來，人是很不容易做的，我們怎可不打精神來做人呢？

【譯 解】

予の觀察に據れば、天が人類に各種の官能を與へたるは、本來人類をして協同して生活の道を謀らしむる爲である。故に人なる意義を解釋すれば、須く人は直立歩行し、言語を解し、理性有りて、共同生活を營む動物であると言ふべきである。

斯る次第なれば、人たることは仲々容易な事ではない。我等は何ぞ精神を振ひ起して人間とならずして可ならんや。

第 六 十 四

人類的思想，用聲音來發表，叫做語言。但是語言在一時一地，固然可以通彼此的情意，若要達到遠方，傳到後世，就

辦不到，所以必有文字去補助他，他的功用纔完備。

文字是各國各樣的，我國的文字，由來很古。據說是伏羲倉頡兩個人造的，但不見得十分的確。恐怕伏羲倉頡以前，已有很簡單的文字了。

【註 解】

△叫做 何々と稱す。△在一時一地 一時代一地方に於て。△固然 勿論何々ではあるがの意、概して下句に於いて反對の意を述べる場合に使用する。△若要 若し何々せんとせば。△辦不到 完全に行ひ得ずとの意。△功用 働き、機能。△的確 確實。△恐怕 恐らく。

【譯 解】

人類の思想を音聲を以て發表するものを言語といふ。併し言語は一時代一地方に於ては、勿論互に意思を通じ得れども、若し遠隔の地に達し、後世に傳へんとすれば、それは不可能である。それ故必ず文字なるものの補助が有つて、始めてその働が完備するのである。

文字は各國各様である。我國の文字は由來甚だ古いのであつて、人の説に據れば伏羲倉頡の二人が創造したのであると言はれてゐるが、但し十分的確とは思はれぬ。恐らくは伏羲倉頡以前己に簡單なる文字有りしならん。

語言和文字，是並行不悖，相得益彰。

的。所以各。國。的。語。言。不。同，文字也。必。不。同。
 但。從。大。體。上。說。起。來，世。界。上。的。文。字。雖。多，
 可。分。做。兩。類。一。類。是。形。義。的。字，我。們。中。國
 用。的。就。是。一。類。是。音。聲。的。字，現。在。歐。美
 各。國。用。的。就。是。形。義。的。字，是。拿。思。想。做。主
 的。音。聲。的。字，是。拿。聲。音。做。主。的。他。們。的。構
 造。組。織。雖。不。同，但。是。輔。助。語。言，傳。之。久
 遠。的。功。用，却。沒。有。分。別。的。（國語教科書）

【註 解】

△並行不悖 同時に進んで背馳せず、各個單獨に進むこと無し
 の意。△相得益彰 兩者相依て效力を發揚すること。△就是 即ち
 是れ。△拿思想做主 思想を主とすとの意。△傳之久遠的功用
 之を永久に傳ふる働きの意。△却 却つて、併しと解す。

【譯 解】

言語と文字とは、相離るべからざるものであり、相俟つて效力
 が益々顯れるのである。故に各國の言語が異なれば、文字も必ず
 異なるのであるが、併し大體より言へば、世界の文字は多けれど
 も、二種類に分つことが出来る。一種は形象文字であつて、我國
 に使用せらるゝものがそれであり、一種は音聲文字で、歐米各國
 の使用するものがそれである。形象文字は思想を主とし、音聲文
 字は音を主としたるものである。それ等の構造組織は同一ならざ
 れども、言語を助けて、之を永久に傳ふる働きに至つては、併し
 區別はないのである。

第 六 十 五

陶。侃。在。廣。州。做。官，遇。着。沒。有。事。的。時。候，
 就。把。一。百。塊。磚。頭，從。屋。子。外。面，搬。到。屋
 子。裏。去。早。上。搬。出。晚。上。搬。進。人。家。問。他。甚
 麼。緣。故？他。說「我。正。要。替。國。家。出。力，若。是
 過。慣。了。安。逸。的。日。子，將。來。就。不。容。易。振。作
 了」

【註 解】

△廣洲 廣東首府。△做官 官吏となる。△磚頭 煉瓦。△早上
 朝。△人家 己以外の他人。△替國家 國家の爲。△出力 盡力
 する。△過慣了安逸的日子 安泰な生活に慣れる。△振作 元氣
 を振ひ起す。

【譯 解】

陶侃が廣東で官に就いてゐた時、公務の餘暇に、百個の煉瓦を
 屋外から、屋内に運んだ。朝運び出し、夜運び込んだ。人が如何
 なる譯か尋ねたところ、彼が言ふには「自分は今國家の爲めに働
 かうとしてゐる。若し氣樂な生活に慣れたなら、將來元氣を出す
 に困難であるからである」と。

練 習

下記の音に就き意味を解釋すべし。

1. 巴¹ 伊¹ 合¹ シ¹オ¹-ピン³, ファン⁴ ツ⁴イ⁴ホオ³-ルー²
 シ⁴ン⁴ガオ³チ¹
2. カン¹-ツ¹イ² ファン⁴ ツ⁴イ⁴ホオ³-ルー² シ⁴ン⁴テ シ¹オ¹

- ピング³、シ³ン³モ¹メイ²イ³ラ¹。
- アイ¹ヨウ¹、イ³ト²マ¹、グアイ⁴グアイ⁴シ¹ア³ン³グ³
 合¹フ²ツ¹チ¹エ³ト²バ¹。
 - チ¹ン³チ¹エ³シ¹タ⁴ツ¹ラ¹。
 - チ¹シ¹ホ¹ア¹、トウ¹ブ²シ¹チ¹ユ⁴ル⁴ウ⁴ン⁴。
 - チ¹エン¹シ¹ン¹ラ¹リ²ン²、ペン³シ¹チ¹ア⁴タ¹
 チ¹ユ⁴コ⁴モ²シ¹ン¹ホ²テ¹。
 - ユ³イ³エン³シ¹バ⁴リ²ン²レイ⁴テ ス¹シ¹ア³ン³グ³、
 ヨ⁴ン⁴シ¹ン¹イ¹フ¹ピア³テ¹。
 - ツ¹イ⁴イ⁴シ¹イ⁴テ¹、ク⁴デ²ン²コ²イ³、
 ド¹ン¹ビ²ツ³テ¹チ¹ン¹イ⁴。
 - ロ¹オ⁴ヤ⁴タ²タ⁴ユ³ア³ン³フ¹ン¹グ¹、チ¹ア³ン³タ⁴
 ホ⁴シ¹、チ¹ウ⁴パ³ン³ブ⁴タ⁴ラ¹。
 - ピ⁴ン⁴シ¹ン¹ブ⁴ペ⁴、シ¹ア³ン³ト²イ⁴チ¹ン¹グ¹。
 - タ¹メ²ン²テ コ⁴ウ⁴ツ¹オ¹ツ¹チ¹ブ⁴ド¹ン¹グ¹、
 コ¹ン¹ヨ⁴ン⁴チ¹ユ⁴メイ²イ³フ¹ン¹ピ²エ²。

質 問

- (イ) 范熙恒的燒餅、是怎麼沒有了。
- (ロ) 文字有怎麼樣的功用呢。
- (ハ) 造文字的人是誰。
- (ニ) 陶侃沒有事的時候、做什麼事、這因為是什麼緣故。

解 答

1. 一個の軟煎餅を爐暖の上に置いて炙つてゐた。
2. 先程暖爐の上に置いた軟煎餅はどうして無くなつたらうか。

3. 大變だ、毒が這つてゐますか、早く何とかして毒を下ろして下さい。
4. 此種の解釋は違つてゐる。
5. これ等の言葉は確説ではない。
6. 天が人を生んだのは、本來彼をして共同して生活を謀らしむるためである。
7. 言語は人類の思想を聲音を以て發表するものである。
8. 一時代一地方に於ては勿論相互の情意を通ずることは出来る。
9. 若し遠方に達し、後世に傳ふるとなれば困難である。
10. 並び行はれて背馳せず、相依つて効力を顯はす。
11. それ等の構造組織は同じからざるも、效用は區別は無い。

質問答解

- (イ) 傭人儉着吃了。
- (ロ) 是可以把人的思想、遠到遠方、傳到後世。
- (ハ) 伏羲倉頡。
- (ニ) 沒事的時候把一百塊磚頭搬進搬出、這是若過慣了安逸的日子不能振作精神的緣故。

第二十七日

第六十六

時¹間¹和¹人¹生¹很¹有¹關¹係¹淺¹近¹一¹點¹說¹
 就¹像¹我¹們¹每¹天¹飲¹食¹鹽¹洗¹和¹種¹種¹瑣¹碎¹事¹。

情，也。要。消。耗。許。多。時。間。那。麼。人。的。一。生，
究。竟。有。多。少。時。間。可。以。消。耗。呢？ 究。竟。有。多。少
時。間。可。以。求。學。和。辦。事。呢？

【註 解】

△明近一點 少し卑近。△像 如き。△盥洗 入浴洗面等のこと
△瑣碎 細々せる事。△那麼 然らど。△究竟 結局。△可以消
耗 空費し得る意。△求學 學術研究。△辦事 仕事をする。

【譯 解】

時間と人生とは甚だ關係がある。少しく卑近に言へば、我等が
日常に於ける飲食洗浴及び零碎なる仕事の如きも、多くの時間を
消耗しなければならない。然らば人の一生に於て結局どの位消耗
してもよい時間が有るか、又どの位學術研究と仕事を爲し得べき
時間が有るか。

現。在。假。定。每。個。人。平。均。是。六。十。歲。這。六。十
歲。裏。面。最。初。十。年。是。幼。小。時。代。只。知。道
遊。戲。不。能。求。學。和。辦。事。的。最。後。十。年。又。已
經。衰。老。了。也。不。能。求。學。和。辦。事。只。有。中。間
的。四。十。年。可。以。求。一。些。學。辦。一。些。事。而。且
這。四。十。年。裏。面。還。要。除。去。疾。病。交。游。休。息
……所。耗。的。工。夫。所。以。一。個。人。可。以。做。求。學。和
辦。事。的。時。間。至。多。不。過。二。十。年。罷。了。

【譯 解】

今一人の年齢を平均六十歳と假定すれば、この六十歳の中、最

初の十年は幼小時代にて、只遊ぶことを知るのみにて、學術の研
究及び仕事に従事することは出来ない。最後の十年は、又已に老
衰し、是れ亦學業の研究及び仕事に従事することが出来ない。只
中間の四十年のみに於て僅に學術を研究し、仕事を爲し得るのみ
である。且この四十年内に於ても、尙更に病氣交際休息等に費す
時間を除かなければならない。故に人間一人の學術研究及び仕事
を爲す時間は、多くも僅か二十年に過ぎないのである。

但。是。世。界。上。的。學。問。是。無。窮。的。事。業。也。是
無。窮。的。一。個。人。只。有。二。十。年。可。以。求。學。和。辦
事。就。是。一。刻。不。停。又。能。求。多。少。學。辦。幾
件。事。呢？ 古。人。說「一。寸。光。陰。一。寸。金」又。說
「時。間。就。是。黃。金」我。們。從。這。幾。方。面。想
來。還。不。要。格。外。努。力。麼？

【譯 解】

併し世の中に於ける學問は限り無きものであり、事業も涯のな
いものである。而して人間一人の學術研究と仕事を爲し得るは僅
に二十年のみであるから、縦ひ一刻も休止せずとするも、尙何程の
研究と何程の仕事を爲し得るや、古人は「一寸の光陰は一寸金」
といひ、又「時は即ち金」といふ。我等はこの諸方面より考へ來
り、尙格別努力せずして可ならんや。

第 六 十 七

從。一。前。蘇。格。蘭。王。勃。羅。斯。和。英。國。打。仗。

屢戰屢敗，到了第六次，土地都失掉了，
將士都喪亡了。眼見衆寡不敵，無法挽回。
勃羅斯不得已，便躲避到草屋裏，躺
在地上睡覺。英雄末路，喟然興嘆。

【註解】

△蘇格蘭 スコツトランド。△勃羅斯 ブルース。△打仗 戰爭
する。△失掉了 失ひ盡す。△眼見 眼前に見るの意に解す。△
衆寡不敵 は又寡不敵衆ともいひ、少數は多數に叶はぬ意味である。
△無法挽回 即ち沒有挽回的法子の意味にて無法を強調せる
語形とす。△躲避 二字とも避ける意味。△躺 横臥すること。
△睡覺 二字にて眠る意味とす、字義より見れば感覺を眠らす意
となる。△喟然興嘆 あーといふて溜息を發す。

【譯解】

昔蘇格蘭王のブルースは、英國と戰爭を爲し連戰連敗した。第六回に至り、土地も失ひ盡し、將校も皆戰死し、衆寡敵せず、盛り返す術も無かつた爲め、ブルースは己むを得ず、一軒の草屋に遁れ、地上に横になつて眠つた。英雄の末路、眞に歎はしきことである。

後來他偶然擡起頭來，瞧見屋簷下面，
有個蜘蛛在那裏結網。斷絲六次，不能成功。
勃羅斯見了這個情景，想到自己境遇，越發悲傷。
不料沒多時，蜘蛛攀絲上，扼住一端，努力工作，網就成功了。
勃羅斯見了，不由得大爲感動。心想區區

一個蜘蛛，尙有這樣毅力，堂堂人類，難道不及他嗎？

【註解】

△抬起頭來 頭を擡げ起す。△瞧見 見ること、看見と同様。△屋簷 家の軒。△越發悲傷 益々悲しむ。△不料 意外にも。△絲椽 絲の垂木即ち親絲といふが如し。△扼住 堅く押へる。△不由得 覺えず、思はず知らずに。△區區 弱小の形容。△毅力 不屈の力、根氣。△難道 何んと云々ならんやの意。

【譯解】

其内不圖頭を擡げて見ると、軒下に蜘蛛が一匹其處で巢を掛けてゐたが、絲の切れること六回で、成功することが出来なかつた。ブルースはこの光景を見、己の境遇に想ひ及び、益々悲哀を感じた。意外にも幾程も無く、蜘蛛は絲の垂木に攀ち上り、其端を押さへて懸命に働きたるため、巢は遂に成功した。ブルースはこれを見て、覺えず感に打たれ、心に想ふ様、詰らぬ蜘蛛一匹にても尙且つこの根氣が有る、堂堂たる人間が何んと彼に及ばぬことがあらうかと。

他霍地裏站起來，勇氣頓增百倍，立刻召集部下將士，重振旗鼓，再和英國決一死戰。這一次，以一當百，所向披靡。居然能够恢復失去的土地，保持固有的王位。
事成後，人間勃羅斯怎麼能够第七次打

勝^{シオング}英^イ國^ク。他^タ說^セ「是^シ。蜘蛛^{チウ}。教^{キョウ}。訓^{クン}。我^ワ的^{ヂク}」

【註 解】

△霍地裏 不意に、俄破と(立上がる形容)。△站起来 立ち上がる。△重振旗鼓 再び軍勢を催す。△所向披靡 向ふ所伏し靡く即ち向ふ所敵無しとの意。△居然 困難を排し遂に或結果を獲得したる場合に使用する語にて、果して、意外にも等の意に近し。此處にては遂にと譯す。△能够 能ふの意にて語勢強きもの。

【譯 解】

彼は俄破と立ち上がり、勇氣俄に百倍、直ちに部下の將卒を召集し、重ねて軍勢を催し、更に英國と決戦を交へた。この一戦には一を以て百に當り、向ふ所敵なく、遂に亡失せる土地を恢復し従來の王位を保つことが出来た。

事成就の後、人ブルースに尋ねて如何にして第七回にて英國に勝ち得たるやと言ひたるに、彼がいふには「これは蜘蛛が我れに教訓したのである」と。

第 六 十 八

我^ワ起^キ。初^{シツ}。住^{ジュ}。在^{ザイ}。山^{サン}裏^リ。是^シ。很^{ヘン}。安^{アン}。樂^{ラク}。的^{ヂク}。後^{ハチ}。來^{ライ}。被^{ペイ}。人^{ニン}。取^キ。出^{シュツ}。造^{ゾウ}。成^{チヤウ}。這^ヂ。個^コ。樣^{ヤウ}。子^シ。就^{ジウ}。鎮^{チン}。日^{ニツ}。不^フ。得^{トク}。閒^{ケン}。了^{リョウ}。我^ワ。的^{ヂク}。一^{イチ}。生^{シヤウ}。不^フ。知^チ。遷^{セン}。了^{リョウ}。多^タ。少^{シウ}。地^ヂ。方^フ。換^{ファン}。了^{リョウ}。多^タ。少^{シウ}。主^{シュ}。人^{ニン}。若^{ニク}。把^バ。經^{キヤウ}。過^コ。的^{ヂク}。事^シ。情^{チヤウ}。一^{イチ}。天^{テン}。一^{イチ}。天^{テン}。記^キ。出^{シュツ}。來^{ライ}。人^{ニン}。家^カ。看^{カン}。了^{リョウ}。一^{イチ}。定^{テイ}。是^シ。很^{ヘン}。有^{ユウ}。趣^{シュ}。味^{メイ}。的^{ヂク}。

【註 解】

起初 最初。△安樂 安泰。△被人取出 人に取り出される。

△鎮日 一日朝から晩まで。

【譯 解】

予は最初甚だ安泰に山中に住んでゐた。後に人に取り出され、此様な形に造られ、終日暇の有ることが無い。予の一生は幾多の場所と主人を換へたか分からない。若し其經過を一日一日列記し人に見せたならば、必らず趣味多きことであらう。

有^{ユウ}。些^{シヤ}。人^{ニン}。因^{イン}。爲^{ウェイ}。要^{ヤウ}。找^{チヤウ}。我^ワ。就^{ジウ}。勞^{ラウ}。苦^ク。一^{イチ}。世^シ。有^{ユウ}。些^{シヤ}。人^{ニン}。因^{イン}。爲^{ウェイ}。沒^{メイ}。有^{ユウ}。我^ワ。就^{ジウ}。受^{シュ}。着^{チヤウ}。饑^{キウ}。寒^{ハン}。也^イ。有^{ユウ}。些^{シヤ}。人^{ニン}。靠^{カウ}。着^{チヤウ}。我^ワ。的^{ヂク}。力^{リキ}。量^{リヤウ}。窮^{キウ}。奢^{シヤ}。極^{キョク}。欲^{イク}。無^ム。所^ソ。不^フ。爲^{ウェイ}。然^ニ。而^ニ。我^ワ。的^{ヂク}。本^{ベン}。心^{シン}。又^イ。何^ハ。嘗^{チヤウ}。是^シ。這^ヂ。樣^{ヤウ}。呢^ニ。所^ソ。以^イ。我^ワ。說^セ。世^シ。界^{キヤイ}。上^{シヤウ}。沒^{メイ}。有^{ユウ}。了^{リョウ}。我^ワ。就^{ジウ}。可^{カウ}。以^イ。少^{シウ}。却^{キョク}。多^タ。少^{シウ}。是^シ。非^{フイ}。無^ム。奈^{ナイ}。世^シ。界^{キヤイ}。上^{シヤウ}。的^{ヂク}。人^{ニン}。絕^{キョク}。不^フ。容^{ユウ}。沒^{メイ}。有^{ユウ}。我^ワ。他^タ。們^{メン}。見^{ケン}。了^{リョウ}。我^ワ。就^{ジウ}。爭^{シヤウ}。奪^{トク}。離^リ。了^{リョウ}。我^ワ。又^イ。憂^{ユウ}。愁^{チウ}。一^{イチ}。天^{テン}。到^{トウ}。晚^{ワン}。辛^{シン}。辛^{シン}。苦^ク。的^{ヂク}。都^ド。爲^{ウェイ}。着^{チヤウ}。我^ワ。他^タ。們^{メン}。重^{チヤウ}。視^シ。我^ワ。好^{ハウ}。比^ヒ。自^ジ。己^キ。的^{ヂク}。生^{シヤウ}。命^{メイ}。真^{チン}。無^ム。謂^{ウェイ}。極^{キョク}。了^{リョウ}。我^ワ。很^{ヘン}。想^{キヤウ}。化^{キヤウ}。成^{チヤウ}。千^{チヤウ}。千^{チヤウ}。萬^{マン}。萬^{マン}。分^{フン}。給^{キヤウ}。大^{ダイ}。衆^{チュウ}。讓^{ヤウ}。他^タ。們^{メン}。取^キ。之^ヂ。無^ム。窮^{キウ}。用^{ユウ}。之^ヂ。不^フ。竭^{キョク}。豈^{キヤウ}。不^フ。是^シ。一^{イチ}。件^{キヤウ}。很^{ヘン}。好^{ハウ}。的^{ヂク}。事^シ。情^{チヤウ}。但^{ダニ}。是^シ。他^タ。們^{メン}。的^{ヂク}。心^{シン}。理^リ。是^シ。永^{ユウ}。遠^{ユアン}。不^フ。知^チ。足^ツ。的^{ヂク}。這^ヂ。便^{ビエン}。如^{ニク}。何^ハ。是^シ。好^{ハウ}。呢^ニ。我^ワ。看^{カン}。還^{ユアン}。是^シ。大^{ダイ}。家^カ。適^{シク}。可^{カウ}。而^ニ。止^チ。纔^{チヤウ}。好^{ハウ}。

【註 解】

△有些人 若干の人。△找 捜す。△靠着 倚頼する、頼ること。△窮奢 奢侈を極める。△極欲 十二分に欲心を満足させること。△無所不爲 爲さざる所無し、即ち放埒を爲し盡くす。△何嘗

何ぞ何々であらうかとの意に使用す。△少却 減少除去すること
 △是非 禍害或は非難を受ける事柄。△無奈 如何せんの意、何にせよ、何分にも等に當る。△絶不容 決して許さぬ、絶は決と同音。△争奪 奪ひ合ふ。△憂愁 心配する、鬱ぎ込む。△一天到晚 朝から晩までの意。△辛辛苦苦的 辛い思をする。△爲着 爲めの意、又爲了といふこともある。着、了は別に意味無く、單に口調を整へるためである。△好比 好像等と同義にて「恰も何々に似たり」との意。△無謂 無意義の意。△化成千千万萬 千にも萬にも多額の數に化する意。△讓 何々せしむとの意。△取之無窮 之を取つて窮り無し、即ち幾らにても手に入れる意。△不竭 盡きざること。△豈不是云云 何んと云々ではないかの意。△永遠 永久にの意。△不知足 足るを知らず、充分であると思はぬこと。△便如何是好 便は即ちと同義、一體如何にしたら宜しきやの意。△適可而止 適度に止むの意。△纔好 始めて宜しの意。ねばならぬの意に解するを可とす。

【譯 解】

若干の人は予を求めるために一生苦勞し、若干の人は予といふものが無き爲め飢餓に接し、又若干の人は予のお蔭にて贅澤を極め、何でも不良な事をするのであるが、併し予の本心は、又どうして其様なものであらうか。それ故予は思ふに、世の中に予といふものが無かりしならば、何程か禍が減少するであらうといふのであるが、何分世の中の人には決して予の絶滅を許さず、彼等は予を見れば互に争奪を始め、予から離るれば又憂愁に沈み、朝から晩まで辛い事をするのも、皆予の爲である。彼等は予を重視するこ

と、恰も自身の生命のやうであつて、誠に無意義至極のことである。予は千萬の數に變じて衆人に分配し、彼等をして無窮に取らしめ、無制限に使用せしめたならば、何と善い事ではないかと大ひに考へてゐるが、併し彼等の心理は永久に鑿くことを知らないのである。これは何とも致方が無いのである。矢張り衆多の人は適度に止むることを知らねばならぬと予は思ふのである。(金錢の述懐)

練 習

下語を和譯すべし。

1. 人的的一生究竟是有多少時間、可以求學和辦事呢?
2. 就是一刻不停、又能求多少學、辦幾件事呢?
3. 想到自己的境遇、越發悲傷。
4. 不由得大爲感動。
5. 堂堂人類難道不及他嗎?
6. 鎮日不得閒。
7. 他們重視我、好比自己的生命。

答 解

1. 人は一生中結局何時間學術を研究し仕事の出来る時間があるか、
2. 縦ひ一刻も休まないとして、どの位研究をし、どの位仕事をすることが出来るか、
3. 自分の境遇に思ひ及び、益々悲しむ、
4. 思はず非常に感動す、
5. 立派なる人類が何んと彼に及ばぬことがあらう、
6. 終日暇がない、
7. 彼等は自分の命の如く私を重視する、

第二十八日

第六十九

一個金磅，和一個銅便士，剛從造幣廠裏製造出來，並列在銀行裏的帳桌上。驕傲的金磅，向銅便士說「你不過是一塊棕色。的銅，那好和我住在一起，快走開罷。你要知道我是燦爛的黃金，將來轉到富人手裏，可以做出驚天動地的事業來。最後或者裝飾國王的冕旒呢！」

【註解】

△金磅 金貨。△銅便士 銅のペンス。△剛 何々せしばかりの時との意。△帳桌 帳簿臺。△驕傲的 高ぶる、傲慢に。△棕色 黒褐色。△那好 怎麼可以と同一にて、どうして出来やうかとの意。△一起 一緒に。△冕旒 王冠の意。

【譯解】

或金貨と銅貨が、造幣廠から鑄造され、銀行の帳簿臺の上に列べられたばかりの時、傲慢なる金貨は銅貨に向つていふには「お前は一塊の赤黒の銅に過ぎないのであるから、どうして俺と一緒に住むことが出来やうか。早く何處へか行つてしまへ。そして覺へて置け、俺はきらきら輝ける黄金であるから、將來富者の手に渡つて天地を震駭せしめる事業を爲し遂げ、最後に或は國王の王冠を飾るかも知れない」と。

這一席話纔完，可巧一個老守財奴走進銀行，被他兌換了這個金磅。銅便士見了，就恭恭敬敬的說了一聲「再會。」金磅正要回答，守財奴已把他塞進小袋裏，一直回家，藏到保險箱裏去，還恐不十分秘密，又把箱子埋在地下。後來守財奴死了，沒有人知道他藏金的地方，這金磅就隔離人世，永遠不見天日了！

【註解】

△一席話 一通りの話。△纔完 剛完に同じく、終つたばかりの意。△可巧 丁度其折。△守財奴 守錢奴。△兌換 兩換する。△恭々敬々 恭しく。△再會 左様ならの意。△正要 丁度何々せんとする時。△塞進 押込む。△一直 眞直に、途中立寄らざること。△保險箱 金庫。△沒有人知道 誰も知らぬ。

【譯解】

この一通りの話が終つたばかりのところへ、折しも一人の握り家の老人が銀行に入つて來、金貨は彼に兩替されてしまつた。銅貨は彼を見て、丁寧に一言左様ならと言つた。

金貨は今返答しようとした時、握り家は已に小袋の申へ押込んで眞直に家に歸り金庫の中へ隠藏したが、まだ十分秘密が保てないと思ひ、更に箱を地の中に埋めた、後握り家は死んでしまひ、誰も其金を藏した場所を知らず、それで此金貨は此世から引離され、永久に日の光を受けなかつた。

當看財奴離開銀行以後，銀行的司事，
 見一個很窮苦的小孩子扶起跌在街上的
 老婦；他就把這個銅便士賞給小孩子。
 小孩子回家，把銅便士的來歷，告訴他的姐
 姐。她見了光彩奪目的銅幣，非常歡
 喜。他就把這銅便士送給了她。其時門外
 恰巧來了個又老又跛的乞丐，她又把這便
 士轉送給乞丐，並且告訴他的由來。

【註 解】

△來歷 經て來た事柄。△姐姐 姉。△她 彼女。△光彩奪目 光り眩ゆき意。△銅幣 銅貨，銀貨を銀幣といふ。△恰巧 丁度其處。△又老又跛 年老いたる上に跛との意。△並且 且其上。△告訴 話すこと、訴べるに非ず。

【譯 解】

握り家が銀行を去つた後に當り、銀行員は或は貧困な子供が町に轉び倒れた老婦を扶け起すのを見て、そこでこの銅貨を子供に恵んでやつた。

子供は家に歸り、銅貨の來歴を其姉に話した。姉は目も眩ゆき銅貨を見て、甚だ喜んだので、彼は其銅貨を彼女へ與へた。此時丁度門の外に年老いた跛の乞丐が來たので、彼女は又この銅貨を乞丐に與へ、且つ其由來を彼に話して聞かせた。

乞丐得了錢，就找尋麪包店。剛要進店，見一衣衫襤褸的人，叫賣耶路薩。

冷的畫；要湊滿若干便士，贖回被土耳其人捉去的兄弟。乞丐也動慈善心，把這便士給了那人，又把他的歷史，敘說了一回。麪包店裏主人見了這種情形，很受感動，就取出麪包來送給乞丐，分量還比一便士可以買到的多些。

【註 解】

△就找尋 そこで搜す。△剛要 將に何々せんとする時。△叫賣 大道賣をする。△湊滿 集め揃へる意。△贖回 金で受戻すこと。

【譯 解】

乞丐は金が手に入つたので、そこで麪包屋を捜し、將に店に入らうとした時、一人の襤褸着物の人が、エルサレムの畫を呼び賣し、若干の銅貨を集め土耳其に捕はれたる弟を受戻さうとしてをるのを見て、乞丐も慈悲心を起し、その銅貨をその人に與へ、又其の歴史を一度述べて聞かせた。パン屋の主人はこの有様を見て甚だ感動し、そこで一ペンスで買ひ得るものより少し多いパンを取出だして乞食に贈つた。

一個衣衫襤褸的人，連夜去見土耳其的總督，獻出許多金錢，贖回兄弟。豈知總督多方留難；他很悲哀的說「除了一個便士，袋裏所有的金錢，都給你罷」可就又把便士的歷史，細說了一番。

總督聽了，很覺奇怪；向他要出便士，玩弄好久；點着頭說「一切我都不要了；只要這個便士，他做的慈善事業很多，把他來

掛。在。胸。前，倒。是。極。榮。耀。的。那。人。就。把。這。便。士。送。給。總。督；其。餘。的。金。錢，一。概。收。回。他。的。兄。弟。也。自。由。自。在。的。出。來。了。

【註 解】

△連夜 夜通しに、夜を日に繼いでの意。△多方留難 種々難題を掛けて引留むること。△除了 銅貨一個は別とすること。△所有一切全部。△可就 そこで、是に於て。△向他要 彼に向つて要求する意。△玩弄好久 長い間弄り廻す。△點頭 うなづくこと。△榮耀 榮譽の意に近し。△一概 全部。

【譯 解】

襤褸の着物を着た一人の男は、夜を日に繼いで行つて、土耳其の總督に面會し、夥多の金錢を献上し、弟の身を受け戻さうとしたが、意外にも總督は種々難題を設けて引留めたるにより、彼は甚だ悲しげに「銅貨一個の外、袋の全部の金を差上げます」と言ひそこで又銅貨の歴史を一通り細々と話した。

總督は聽いて甚だ奇怪に感じ、彼に向つて銅貨を出させ、長らく之を手を持ちてゐたが、背いて言ふには「全部欲しからず、只銅貨だけ貰ひ受ける。これは甚だ多くの慈善事業を爲したるものなれば、之を胸に掛け置くは甚だ榮譽である」と、彼の男はそこで此銅貨を總督に贈り、其他の金錢は全部手許に取戻し、彼の弟も自由の身となつて出て來た。

不。上。一。年，總。督。參。預。大。戰；一。枝。無。情。的。箭，直。向。胸。前。射。來。因。爲。這。個。便。士。的。抵。抗，

沒。有。受。傷。便。士。對。於。總。督，便。有。了。活。命。之。恩。了。

戰。事。告。畢，總。督。去。朝。見。國。王；取。下。便。士，說。明。他。的。功。績。和。奇。異。的。歷。史。國。王。聽。罷，不。住。的。稱。奇。總。督。察。出。國。王。歡。喜。這。便。士。的。意。思，就。把。他。獻。給。國。王。

【註 解】

△不上一一年 一年ならずしての意。△參預 參與ともいひ、參加すること。△直 眞直ぐに、いきなり。△聽罷 聽き終ること。△不住的 引切り無しに、頻りにと解す。△稱奇 不思議であるといふとのこと。△察出 は意思まで關係す。

【譯 解】

一年ならずして、總督は大戦に参加した。無情なる一本の矢はいきなり胸に向つて飛んで來た。がこの銅貨に遮られた爲め、負傷しなかつた。銅貨は總督に對しては、兎に角再生の恩人である。

戦争は終を告げ、總督は國王に拜謁し、銅貨を取下ろし、その功績と奇怪な歴史とを包まず言上した。國王聽き終り、頻りに奇妙不思議と言つた。總督は國王の此銅貨を好まれる意を察し、そこでそれを國王に献上した。

國。王。得。了。便。士，掛。在。指。揮。刀。柄。的。金。鏈。上。有。一。天，正。要。喝。咖。啡，那。刀。柄。撞。著。了。咖。啡。杯，金。鏈。一。鬆，這。便。士。剛。巧。落。入。杯。裏。去；趕。忙。取。出。來，銅。已。變。成。綠。色。了。原。來。有。人。在。咖。

啡杯裏放フアング了毒藥トウ ケオ，預備ヨイ暗殺アンヌ國王クワン，便士ベニス的
 變色ワ，恰チイ恰チイ給他一個警告チング カオ；國王對於便士，
 自ツ然ゼン十二分的感カン激チイ了。
 從此ツォング ツー把普プ通ト人ト瞧不起チイアオ的銅便士チン，裝チン在國
 王的冕シエンヌ リウ旒リウ上チンヌ コアング，金コ光コ燦コ爛コ的鑽ツァンヌ石ランヌ珠ツォアンヌ玉ツォー，
 居ツェイ然ゼンヌ嵌チイエンヌ在一起シンヌ ムー，在國王心目シンヌ ムー中，以シ為シ這
 便士的寶バオ貴クオイ，還在鑽石珠玉之上シ呢。（奇異的銅便士）

【註 解】

△撞著 衝突すること。△鬆 弛む。△剛巧 偏巧と同意に解す
 △趕忙 急いで意。△恰恰 恰も丁度。△瞧不起 輕蔑する。
 △裝 取附ける。△鑽玉 金剛石。△居然 意外にも意。△嵌
 在一起 一緒に嵌め込む。△心目 心の意。△以為 想ふ。

【譯 解】

國王は銅貨を手を得、指揮刀の柄の金鎖の上に懸けた。或日正
 に珈琲を飲もうとした時、その刀の柄が珈琲茶碗に當り、鎖が一
 寸緩むと、この銅貨は生憎碗の中に落込んだ、急ぎ取出してみると
 銅は已に緑色に變つてをつた。もともと人が珈琲茶碗の中に毒
 藥を入れ、國王暗殺の用意をしたのである。銅貨の變色は恰も彼
 に或警告をした如きものである。

これより普通人の輕蔑せる銅貨は、國王の冠に取附けられ、意
 外にも光り輝く金剛石や寶石と一緒に嵌め込まれた。國王の考に
 ては、この銅貨の貴重さは、金剛石や寶石以上と思はれたのであ
 る。

附 錄

附錄には支那時文及び支那書翰文の講習をなすことにした。
 本來正課中に入れる筈であつたが、紙數の都合により附錄と
 したのである。

增訂附錄 會話篇

會 話 篇

(1) 雜 例

君は所有していますか。	您 有 沒 有
私は所有しています。	我 有
私は所有してゐません。	我 沒 有
幾つ有りますか。	有 幾 個
十個有ります。	有 十 個
良いのが有りますか。	有 好 的 沒 有
良いのは有りません。	沒 有 好 的
どんな物が有りますか。	有 甚 麼 東 西
紙筆墨が有ります。	有 紙 筆 墨
<hr/>	
これは何ですか。	這 是 甚 麼
これは本です。	這 是 書
これは君のですか。	這 是 您 的 麼
私のです。	是 我 的
あれは誰れのですか。	那 是 誰 的
あれは彼ののです。	那 是 他 的
これは君の物ですか。	這 是 您 的 東 西 麼

イエ、彼のです。 不 是 是 他 的
 これは皆彼のですか。 這 都 是 他 的 麼
 全部は彼のではありません。 不 都 是 他 的
 これは私のでせう？ 這 是 我 的 不 是
 君のです。 是 您 的
 これは君のではありませんか。 這 不 是 您 的 麼
 私のです。 是 我 的
 私のではありません。 不 是 我 的
 あれは君のですか、彼のですか。 那 是 您 的 是 他 的
 君のでもなし、 也 不 是 您 的 也
 彼のでもありません。 不 是 他 的

君は行きますか。 您 去 麼
 ハイ私は行きます。 是 我 去
 イエ私は行きません。 不 我 不 去
 彼は来ましたか。 他 來 了 麼
 来ました。 來 了
 彼は来ません。 他 沒 來
 君は買ひましたか。 您 買 了 麼
 ハイ私は買ひました。 是 我 買 了
 良いのが有りますか。 有 好 的 麼

良いのも有り、 也 有 好 的 也 有
 悪いのもあります。 不 好 的
 君は時計をお持ちですか。 您 有 表 麼
 持つて居ります。 有

今何時ですか。 現 在 幾 點 鐘
 七時半です。 七 點 半 鐘
 貴方は何時(いつ)来ますか。 您 幾 時 來
 私は明日来ます。 我 明 天 來
 何時に来ますか。 幾 點 鐘 來
 九時に来ます。 九 點 鐘 來
 今日は幾日ですか。 今 天 是 幾 日
 今日は五日です。 今 天 是 五 日
 何曜日ですか。 是 星 期 幾
 土曜日です。 是 星 期 六

君は何が欲しいのですか。 您 要 甚 麼
 私はこれが欲しい。 我 要 這 個
 貴方は何の用が有りますか。 您 有 甚 麼 事
 友人を訪問に行きます。 找 朋 友 去
 明日何か用事が有りますか。 明 天 有 甚 麼 事 麼

何も用事は有りません。 沒 甚-麼 事
 これは何と言ひますか。 這-個。 叫。 甚-麼
 墨壺といひます。 叫。 墨-盒-兒
 君は何が欲しいですか。 您 要。 甚-麼
 私は何んにも要りません。 我 甚-麼 都 不 要
 君はどうして要りませんか。 您 怎-麼 不 要
 良いのが無いからです。 因-爲。 沒 有 好 的
 支那語で何といひますか。 中-國-話。 怎-麼 說
 扇風器といひます。 叫。 電 扇
 君は何うしました。 您 怎-麼 了
 頭痛がします。 腦 袋 疼
 彼の病氣如何です。 他 的 病。 怎-麼 樣
 全快しました。 大 好 了

どの位な大きさですか。 有 多-麼 大
 この位な大きさです。 有 這-麼 大
 こんな風で宜しいですか。 這-麼 樣。 行 麼
 宜しい。 行
 君はこんなに澤山買ふのですか。 您 買 這-麼 多 麼
 私はこんなに澤山要りません。 我 不 要。 這-麼 些 個
 君もあんなに澤山所有してゐますか。 您 也 有 那-麼 多
 麼

私はあんなに澤山所有し 我 沒 有 那-麼 多
 てゐません。
 どうしてこんなに暖いでせう。 怎-麼 這-麼 暖 和 啊
 風が無いからです。 因-爲。 沒 有 風
 こうしては良くありませんか。 這-麼 辦。 好 不 好
 それでも宜しい。 也 好

明日彼は来るでせうか。 明 天 他 來 不 來
 きまりません。 不 一 定
 この時計は合つてますか。 這 個 表 對 不 對
 少し進みます。 快 一 點 兒
 君はあれが要りませんか。 那-個。 您 要 不 要
 私は今は要りません。 現-在。 我 不 要
 彼は走り方が速いですか。 他 跑 的 快 不 快
 彼の走り方は甚だ遅い。 他 跑 的 很 慢
 あの山道は歩き良いですか。 那 山 路 好 走 不 好 走
 甚だ歩き悪いです。 很 不 好 走
 今日の會は出席者が多か 今 天 聚-會。 來 的 人
 つたですか。 多 不 多 了

少くありませんでした。 不。少。有。五。十。多
 五十人餘居りました。 個。人

お宅は何處にお住ひです。 フー。ヂヤング。ツァイ。ナー。ラー。チュー。 府。上。在。那。裏。住。
 三條横丁に住んで居ります。 ツァイ。 三。 條。 胡。 同。 住。
 君は何處へ行きますか。 ニンヌ。ヂヤング。 ナー。 リ。 ヂユイ。 您。 上。 那。 裏。 去。
 私は學校へ行きます。 ウォー。ヂヤング。 ジュエ。 ショウ。 ヂユイ。 我。 上。 學。 校。 去。
 君は何處からお出になりましたか。

您。 打。 那。 裏。 來
 私は家から來ました。 ウォー。 ナー。 チョウ。 リー。 ライ。 我。 打。 家。 裏。 來
 昨日は何處まで讀みましたか。 ツォー。 テイエンヌ。 ニエンヌ。 タオ。 ナー。 リ。 了。 昨。 天。 念。 到。 那。 裏。 了
 五十頁迄讀みました。 ニエンヌ。 タオ。 ウー。 シー。 イー。 ラ。 念。 到。 五。 十。 頁。 了
 君は本を何處に置きましたか。 ニンヌ。 ナ。 シュー。 ショウ。 ツァイ。 ナー。 リ。 了。 您。 的。 書。 擱。 在。 那。 裏。 了
 机の上に置きました。 ショウ。 ツァイ。 チョー。 ツ。 ヂヤング。 ラ。 擱。 在。 桌。 子。 上。 了

奉天から長春迄何里ありますか。 ター。 フォング。 テイエンヌ。 タオ。 奉。 天。 到。 長。 春。 有。 多。 少。 里。
 百里計り有ります。 有。 一。 百。 來。 里。 地。
 此處からどの位距離がありま 離。 這。 裏。 有。 多。 遠。
 すか。

五里餘有ります。 有。 五。 里。 來。 地。
 此河はどの位深さがありますか。 此。 河。 是。 多。 深。 有。 多。 深。
 一丈餘の深さがあります。 有。 一。 丈。 多。 深。
 あの山は高さどの位ですか。 那。 座。 山。 有。 多。 高。
 大約二百米突あります。 差。 不。 多。 有。 二。 百。 密。 達。 高。
 彼は幾歳になります。 他。 有。 多。 大。 歲。 數。 兒。
 三十にはなりません。 不。 到。 三。 十。 歲。 罷。
 君どの位重さが有るか量つて 您。 邀。 邀。 有。 多。 重。
 下さい。 下。 さい。
 七匁二分有ります。 有。 七。 錢。 二。 分。
 貴方はどの位の寸法のが 您。 要。 多。 大。 尺。 寸。 的。
 御入用ですか。 御。 入。 用。 是。 否。
 私は九文八分のが入用です(足袋)。 我。 要。 九。 八。 的。
 今貴方は少し話せるやうに 您。 現。 在。 能。 說。 幾。 句。
 なつたでせう。 了。 罷。
 ハイ少しは話せます。 是。 我。 會。 說。 幾。 句。
 了。

(2) 應對單語

御名前は何とおつしやいますか。先^{シエンヌ}生^{シオンク}貴^{クオ}姓^{シンダ}。
 季と申します。賤^{チエンヌ}姓^{シンダ}季^{リー}。
 豫て御高名は承つてをりました。久^{チウ}仰^{ヤンク}久^{チウ}仰^{ヤンク}。
 御同様です。彼^{ビー}此^{ツー}彼^{ビー}此^{ツー}。

むらつしやいませ。您^{ニンヌ}來^{ライ}了^ラ。
 お歸りなさいませ。您^{ニンヌ}回^{ホイ}來^{ライ}了^ラ。
 唯今。回^{ホイ}來^{ライ}了^ラ。
 御主人は御宅ですか。你^{ニー}們^{マン}先^{シエンヌ}生^{シオンク}在^{ツアイ}家^{チア}麼^マ。
 ハイ在宅です。是^{イー}在^{ツアイ}家^{チア}哪^ナ。
 どうぞお這入り下さい。請^{チンク}進^{チンヌ}來^{ライ}。
 どうぞ中へお通り下さい。請^{チンク}裏^{リー}邊^{ビエンヌ}坐^{ツォー}。
 どうぞお座り下さい。請^{チンク}坐^{ツォー}請^{チンク}坐^{ツォー}。
 どうぞお茶を召上がれ。請^{チンク}喝^ホ茶^{チア}。
 どうぞ烟草を召上がれ。請^{チンク}吃^チ烟^{イエンヌ}。
 どうぞお菓子をお敷き下さい。請^{チンク}吃^チ點^{テイエンヌ}心^{シンヌ}。
 どうぞ蒲團をお敷き下さい。請^{チンク}墊^{テイエンヌ}上^{シオンク}墊^{テイエンヌ}子^ツ。
 どうぞお樂に。請^{チンク}寬^{コアンヌ}坐^{ツォー}。
 何方からお出になりましたか。您^{ニンヌ}打^{ター}那^{ナー}裏^{リー}來^{ライ}。
 宅から参りました。我^{クォー}打^{ター}邦^{ナー}裏^{リー}來^{ライ}。

御飯はお済みですか。您^{ニンヌ}吃^チ了^ラ飯^{ファンヌ}了^ラ麼^マ。
 済ませました。偏^{ビエンヌ}過^{コオ}了^ラ。
 どうぞ御遠慮なさらずに。請^{チンク}別^{ビエ}客^ク氣^チ。
 請^{チンク}別^{ビエ}拘^ク禮^{リー}。
 どうぞお構ひ下さるな。請^{チンク}別^{ビエ}張^ア羅^ロ。
 請^{チンク}別^{ビエ}周^{チウ}旋^{シエンヌ}。
 私は烟草は喫めません。我^{イー}不^フ會^{ホイ}吃^チ烟^{イエンヌ}。
 酒は不調法です。我^{イー}不^フ會^{ホイ}喝^ホ酒^{チウ}。
 どうぞ御心配下さいませ。請^{チンク}別^{ビエ}費^{フエイ}心^{シンヌ}。
 御無沙汰致しました。久^{チウ}違^{ウエイ}久^{チウ}違^{ウエイ}。
 暫くでした。少^{シウ}見^{チエンヌ}少^{シウ}見^{チエンヌ}。
 御變り有りませんか。您^{ニンヌ}好^{ハオ}啊^ア。
 近頃御變り有りませんか。一^{イー}向^{シオンク}好^{ハオ}啊^ア。
 お宅ではお變り有りませんか。府^フ上^{シオンク}都^{トウ}好^{ハオ}啊^ア。
 途中お障りも有りませんでし
 たか。一^{イー}路^{ルー}上^{シオンク}都^{トウ}好^{ハオ}啊^ア。
 お蔭で元氣です。托^{トオ}福^フ好^{ハオ}。
 お肥りになりましたネ。您^{ニンヌ}發^フ了^ラ福^フ了^ラ。
 お早やうございます。您^{ニンヌ}起^チ來^{ライ}了^ラ。

ヤーお早う。

哈、起、來、了

今日は。

吃、了、飯、了、麼

(答)今日は。

偏、過、了 (敬語)

吃、過、了

特にお訪ね致しました。

特、來、拜、訪

特に御機嫌伺ひに出ました。

特、來、請、安

特に御見舞に上がりました。

特、來、看、病

特に御禮に参りました。

特、來、道、謝

特に御喜びに出ました。

特、來、道、喜

特に御悔みに上がりました。

特、來、道、惱

御年始に上がりました。

特、來、拜、年

答禮に上がりました。

特、來、謝、步 (回拜)

特に御願ひに上がりました。

特、來、奉、懇

特に御暇乞に上がりました。

特、來、辭、行

特に御見送りに参りました。

特、來、送、行

誠に御足勞です。

實、在、勞、駕

誠に御鄭重なことです。

實、在、多、禮

新年お目出度うございます。

新、禧、新、禧

御進級お目出度う。

大、喜、大、喜、您、陞、任

了

御結婚お目出度う。

恭、喜、恭、喜、您、榮、娶

了

御子さんがお生れでお目出度う

您、添、了、孩、子、了、大

ございます。

喜、大、喜

恐れ入ります。

不、敢、當、不、敢、當

有難う。

謝、謝

御親切有難う。

多、謝、多、謝

誠に有難うございます。

承、情、得、很

申譯がございません。

實、在、感、激

對、不、住、對、不、住

お氣の毒です。

得、罪、得、罪

不、好、意、思

甚だ残念(遺憾)です。

過、意、不、去 (氣に答める)

實、在、抱、歉

左様です。

是

其通りです。

不、錯、對、了

如何にも左様です。

可、不、是、麼

どう致しまして。

那、兒、的、話、呢

豈、敢、豈、敢

恐縮です。

好^{ハオ}説^{ジユオ}好^{ハオ}説^{ジユオ}
不^フ敢^{カン}當^{タン}
過^コ獎^{チアング}過^コ獎^{チアング} (褒められし
時)

痛み入ります。

言^イ重^{エン}言^イ重^{エン}

御謙遜です。

太^{タイ}謙^{チエン}太^{タイ}謙^{チエン}

御病氣は如何ですか。

貴^ク恙^{エイ}怎^ツ麼^{アン}様^{ヤン}

御病氣はお直りですか。

欠^ク安^{アン}好^{ハオ}了^ラ麼^マ

八分通り直りました。

好^{ハオ}了^ラ八^パ成^{チン}了^ラ

御心配有難う。

謝^シ您^{ニン}情^{テイ}記^チ

どうぞ御大切に。

請^{チン}您^{ニン}保^バ重^{チン}

請^{チン}您^{ニン}養^{ヤン}神^シ

ホンの志です。

不^フ過^コ是^シ小^シ意^イ思^ス

誠に失禮な物です。

不^フ成^{チン}敬^{チン}意^イ

どうぞお納め下さい。

請^{チン}您^{ニン}賞^シ收^ウ

頂戴物を致しまして有難う

蒙^{モン}您^{ニン}厚^{ホウ}賜^フ

ございます。

誠に光榮です。

實^シ在^フ賞^シ臉^リ

誠に御馳走ですな。

實^シ在^フ盛^シ設^シ

何も御座いません。

不^フ成^{チン}格^ゲ局^ユ

御馳走様でした。

討^タ擾^{ジョ}討^タ擾^{ジョ}

御匆匆でした。

簡^チ慢^{エン}簡^チ慢^{エン}

御迷惑でした(宴席語)。

屈^ク尊^ク您^{ニン}哪^ナ

誠に不行届です。

實^フ在^ツ不^フ周^チ到^タ

御邪魔致しました。

遭^ツ擾^{ジョ}遭^ツ擾^{ジョ}

御尋ね致します。

請^{チン}問^ウ您^{ニン}哪^ナ

(質問の時)。

請^チ教^ア您^{ニン}哪^ナ

(道を尋ねる時)。

借^チ光^コ您^{ニン}哪^ナ

分りました。

明^{ミン}白^{バイ}了^ラ

領^{リン}教^ア領^{リン}教^ア

借^チ光^コ借^チ光^コ

私はお暇致します。

我^ワ要^ヤ告^カ辭^チ

我^ワ要^ヤ告^カ假^チ

我^ワ失^シ陪^{パイ}了^ラ

何をお急ぎですか。

忙^{マン}甚^シ麼^マ

もう暫く御話しなさい。

多^ト坐^ツ會^ホ兒^ル

どうぞ其儘で。

別^{ビー}送^ソ別^{ビー}送^ソ

此儘で失禮致します。

恕^シ我^ワ不^フ送^ソ了^ラ

左様なら。

再^ツ見^チ再^ツ見^チ

又明日。

明^{ミン}天^{テイ}再^ツ見^チ

何れ又御目に懸ります。 カイ デー ツァイ ホイ
 改。日。再。會。
 どうぞお静かに。 チング ヨンヌ ツォウ
 請。您。慢。走。

(3) 北京會話

甲. ニョヌ クォイ シン 您 貴 姓。 貴方の御苗字は。

(您是貴方の意味にて北京語である。)

乙. チイエンヌ ター 余ー リン 賤。姓。大。和， 沒 領 教。

私は大和と申します。貴方の御苗字は。

甲. ジュイ チング チイアオ タイ フー 賤 姓 徐， 請 教 台甫

私は徐と申します。號は何と仰言いますか。

乙. フオオ フー シウ ヌイ 草 字。修 齋 私の號は修齋と申します。

甲. 您 在 這 裏 有 甚 麼 公 幹。

貴方は此方で何んな仕事に御従事ですか。

(公幹は敬語にて従事する仕事をいふ。)

乙. レイユング ライー ジュエー シイアオ ニョヌ シュー 兄 - 弟。是 在 學 校 裏 念 書

私は學校で勉強中です。(兄弟は謙遜の語。)

甲. 貴 學 校 在 那 裏 學 校 は どちら です。

乙. 是 外 國 語 學 校 外 國 語 學 校 是 了。

甲. 您 學 敝 國 話 有 多 少 日 子 了。

貴方は私共の言葉を何の位御研究ですか。

乙. 不 過 學 了 二 年 的 工 夫

ほんの一年間學んだに過ぎません。

甲. 學 了 二 年 的 工 夫， 就 說 的 這 麼 好。 您 實 在

是 天 分 高 一年間でこの様に上手にお話が出来る貴方は誠に御伶俐です。

乙. チイエング チイアング ワー 承 您 過 獎 了。 離 好 那 還 差 遠 着 哪。 不
 過 會。 說 幾 句 就 是 了。 往 後 還 要 求 您 指 教。

恐縮です、良いといふ迄にはまだ仲々距離があります。ほんの二言三言喋れるに過ぎません。今後とも何分御指導を御願ひ致します。

甲. 那 裏 的 話 呢。 可 是 您 學 敝 國 話 打 算

チイエング フォー 將 來 做 甚 麼 呢。 どう致しまして、ときに貴方は私

の國の言葉を學んで、將來何を為さるのですか。

乙. 也 沒 一 定 的 主 意。 因 爲 我 們 兩 國 都 在

トング フアング リー 東 方， 離 的 很 近， 諸 事 都 有 關 係， 所 以

フオング チイ トン 總 得 懂 得 幾 句 話 纔 能 辦 事 哪。

別段極まつた考へもありませんが、我々二國は皆東洋にあり、距離も甚だ近く、何事も關係が有りますから、夫故是非少し言葉が通じませんと仕事が出来ません。

(離的は離れかたがの意味、距離と譯す。總得……纔能……は接續詞と見ても可なり、必ず……しなければ……出来ぬの意に解す。)

甲. 是 閣 下 的 見 解 實 在 不 錯

左様です、貴方の御考は全く御尤もです。

時 文 解 釋

時文とは古文に對する名稱で、即ち現代文の意味である。古文は我邦の所謂漢文であつて、世の情勢、人間の思想により、漸次變遷して稍、口語に近づいたるものである。而して時文の最も代表的なものは新聞紙であるから、以下支那新聞に材料を取り、講義を進めやうと思ふ。但し頁數に限りあるが故、單に其一斑を窺ふのみなれば、此點切に諒察あらんことを乞ふ。

(1)

時 報

民國二十年六月十五日 星期一

今天二張售大洋三分。

第九千六百十八號

中華郵政特准掛號立券按照總包特別優益寄送之報紙

【註】 時報は上海唯一の新聞である。星期一 月曜日。二張二枚。售 賣る。大洋 本位貨である一圓をいふ。補助貨である小銀貨を小洋といふ。吾邦にては十錢銀貨十個、二十錢銀貨五個を以て一圓となすが、支那に於ては純銀の分量のみを見るが故、十錢十個の純分は壹圓銀貨の純分より少きにより、十錢銀貨を壹圓銀貨に換算するには十個の外に若干の銅貨を添へなければならぬ。故に大洋壹元と小洋壹元とは其價值は異なるものである。従つて大洋三分(三錢)と小洋三分は價格は同一でないことと言ふ

迄もない。特准 特に認可す。掛號立券 番號を打ち契約する即ち契約登記すること。按照總包 包裝郵便に準ずること。

【讀方】 中華郵政は特に號を掛け券を立つるを准じ總包に按照し特別優益に寄送する報紙。

【譯】 中華郵便局特別認可登記し、第四種郵便に準じ、特別便宜を以て寄送する新聞紙。

(2)

蔣委何應欽兼湘鄂贛閩剿匪司令、並代理總司令職權、何定三十日晨、由京乘輪赴潯、轉赴南昌。

【讀方】 蔣は何應欽に湘鄂贛閩剿匪司令並に總司令職權代理を委す、何は三十日晨、京由り輪に乗じて潯に赴き、轉じて南昌に赴くに定む。

【註】 蔣 蔣介石。湘 湖南省の別名。鄂 湖北省。贛 江西省。閩 福建省。剿匪 土匪討伐。京 南京。乘輪 輪船に乗ず、汽船に搭乘。潯 江西省九江縣。南昌 江西省首府。

【譯】 蔣介石氏は何應欽氏を湖南湖北江西福建匪徒討伐司令に兼任し、且總司令代理左委任せり。何氏は三十日朝、南京より汽船にて九江に赴き、更に南昌に赴くに決定せり。

(3)

王正廷夫婦、二十九日午後二時半抵浦、外部參事司長科長等在站迎候、王過江回官舎休息、定夜車赴滬甬休養數日。

【讀方】 王正廷夫婦は二十九日午後二時半浦に至る、外部の參事司長、科長等は站到つて迎候す、王は江を過ぎ官舎に歸りて休息し、夜車に定め滬に赴き甬に轉じ、數日休養すと。

【註】 王正廷 外交部長。抵浦 浦口に至る、南京對岸の天津浦口線の終點。外部 外交部。司長 局長。科長 課長。站 停車場。迎候 迎へ奉伺す。過江 揚子江を渡り南京に至ること。夜車 夜行列車。滬 上海の別名。轉甬 更に寧波に赴く、甬は寧波の別名。

【譯】 王正廷夫妻は二十九日午後二時半浦口に到着し、外交部の參事、局長、課長等は驛に出迎へた。王氏は揚子江を渡りて官舎に歸り休息し、夜行列車にて上海に赴き更に寧波に行き數日休養する筈。

(4)

豫省軍隊調防 李雲杰師移防駐馬店、胡宗南部開抵歸德接防。

【讀方】 豫省軍隊調防 李雲杰の師は防を駐馬店に移し、胡宗南の部は開いて歸德に至り接防す。

【註】 豫 河南省の別名。調防 防禦地を移す、調は移動の意。師 師團。駐馬店 地名。部 部下の軍隊。開抵 出發して、到着すること。歸德 河南省中の縣名。接防 防禦を引繼ぐ意。

【譯】 河南省軍隊の駐屯地變更 李雲杰の師團は駐屯地を駐馬店に更へ、胡宗南の軍は出發して歸德縣に至り、防禦を引繼げり。

(5)

財部二十五日電各省、被裁常關及厘金局、限本月底一律結束竣事。

【讀方】 財部は二十九日各省に電し、裁を被る常關及厘金局は本月底を限り、一律結束し事を竣れと。

【註】 財部 財政部即ち大蔵省といふ如き役所。被裁 撤廢せらる。常關 舊來の税關。厘金局 商品通過税を徵收する税關。月底 月末。一律 全部。結束 結末を着ける。

【譯】 財政部は各省に對し、撤廢せらるゝ支那舊税關及び厘金局は本月末迄に全部事務を終結すべく電達せり。

(6)

實業部擬在滬設取締金交易所機關、如遇有違法者、即令其停止營業。

【讀方】 實業部は滬に在つて金交易所取締機關を設け、若し違法者有るに遇へば、即ち其をして營業を停止せしめんと擬す。

【註】 實業部 我商工省の如きもの。擬 せんと欲すとの意。金交易所 金取引所。如 若し。即 直ちに。

【譯】 實業部は金取引所取締機關を上海に設置し、若し違反者あれば、直ちに營業を停止せしむる考なりと。

(7)

軍部令滬兵工廠一日起開鑿工、趕造械彈、連日總部仍徵發江輪、截至艷(二十九)止、商輪開荆沙者共十八艘、海容應瑞等艦、日內調閱。

【讀方】 軍部は滬兵工廠に令し一日より起り鑿工を開き、械彈を趕造せしむ、總部は連日仍ほ江輪を徵發す、截して艷(二十九日)に至つて止まり、商輪荆沙に開く者共に十八艘、海容應瑞等の艦は、日内関に調す。

【註】 滬兵工廠 上海造兵廠。一日起 一日より。開鑿工 晝夜工作を始む。趕造 急造する。械彈 銃器彈丸。總部 總司令部

仍 依然。江輪 揚子江用の汽船。截至艷止 截は仕切る意、艷は詩韻目錄中の二十九に屬す即ち二十九日の意、凡そ電報日附には詩韻目を借る、二十九日迄を期限とする意。商輪 商船。開出帆すること。荆沙 荆州、沙市。海容應瑞 軍艦名。調閱 福建省に移動す。

【譯】 軍部は上海造兵廠に命じて一日より夜業にて兵器彈丸を急造せしめ、總司令部は連日長江汽船を徵發し、二十九日迄を限りとし、商船の荆州沙市に出帆するもの十八艘あり、海容應瑞二艦は一兩日中に福建省に移動する筈。

(8)

陝北寧眺地方爲漢蒙交界、兩族民衆、近因小故、發生糾葛邊境不靖、楊虎城特電井崧生就近設法制止、以杜邊患。

【讀方】 陝北寧眺地方は漢蒙交界と爲す、兩族民衆は近く小故に因り、糾葛を發生し、邊境靖かならず、楊虎城は特に井崧生に電し、近きに就き法を設けて制止し、以て邊患を杜げと。

【註】 陝北 陝西省北部。漢蒙交界 本土と蒙古の境界。小故 小事故。糾葛 紛糾、紛紜。邊境 省境地方。不靖 不穩。就近 手近、最寄り、附近等の意。設法 方法を講ずる。杜 防ぐ。邊患 國境の騷亂。

【譯】 陝西北部の寧眺地方は内地蒙古の境界なるが、漢蒙兩民族は近頃小事故の爲め、紛糾を生じ、境界地方不穩を呈す、楊虎城は特に電報を以て井崧生に手近にあつて制遏し、境界騷亂を防がしむ。

(9)

粵籍耆老勞敬修、溫宗堯等聯合虞洽卿等耆老多人、將發通電呼籲和平、謂內政待修、外交未利、赤燄猶張、民喘未息、此時萬不宜有軍事行動。

【讀方】 粵籍の耆老勞敬修、溫宗堯等は虞洽卿等耆老多人と聯合し、將に通電を發し、和平を呼籲せんとす、謂ふ内政は修を待ち、外交は未だ利あらず、赤燄は猶ほ張り、民喘は未だ息まず、此時萬軍事行動有るべからずと。

【註】 粵籍 粵は廣東の別名、廣東に籍を有するをいふ。耆老 老人の意。六十歳を耆といふ。通電 一般電報。呼籲 呼び叫ぶ意。赤燄 共產騒動。民喘民苦んで喘ぐこと。

【譯】 廣東在籍の老人勞敬修、溫宗堯等は虞洽卿等多數の老人と聯合し、一般電報を發し、平和を唱道して曰く、内政は未だ整頓せず、外交は不利、共產匪は勢力を張り、民苦未だ恢復せず、此際軍事行動を爲すべきに非ずと。

(10)

滇省特派員電外部、駐滇美籍女教士命案、正兇處死刑、從犯徒刑十二年、美領甚表滿意。

【讀方】 滇省特派員外部に電す、滇に駐する美籍の女教士命案は正兇は死刑に處し、從犯は徒刑十二年、美領甚だ滿意を表すと。

【註】 滇 雲南省の別名。外部 外交部。駐 在住の意。美籍 米國國籍。女教士 女宣教師。命案 殺人事件。美領 米國領事

【譯】 雲南省特派員より外交部への電報に據るに、雲南在住の米國女宣教師殺人事件は、主犯は死刑に處し、從犯は徒刑十二年に處したるところ、米國領事甚だ満足を表せりと。

(11)

國聯四屆交通運輸大會、十月二十六日、在日內瓦舉行、交部咨請外部、酌派駐歐公使參加。

【讀方】 國聯四屆交通運輸大會は、十二月二十六日ゼネヴァに在りて舉行す、交部は外部に咨請し、駐歐公使を酌派して參加せられたしと。

【註】 國聯 國際聯盟。四屆 第四回。日內瓦 瑞西國のゼネヴァ。交部 交通部。咨請 照會請求すること、咨は同等官に往復する文書。外部 外交部。酌派 適宜派遣す。

【譯】 國際聯盟第四回交通運輸大會は十月二十六日ゼネバに於て開催せられるに付、交通部は外交部に通達し、駐歐公使を適宜派遣し參加せしめられたき旨請求せり。

(12)

中俄會議贖路問題、政府迭據各省商會來電、請以廢布贖路政府一面令全國商聯會、調查全國商民手中所存廢布數目、一面令莫全權向俄方答覆以廢布允許贖路。

【讀方】 中俄は贖路問題を會議す、政府は迭々各省商會の來電に據るに、廢布を以て路を贖ふを以てせんことを請ふ、政府は一面全國商聯會をして全國商民手中に存する所の廢布數目を調査せしめ、一面莫全權をして俄方に向ひ答覆するに廢布を以て贖路を允許せんことを以てす。

【註】 中俄 露支。贖路 鐵道買收。迭 屢々。商會 商業會議所の如きもの。廢布 露國貨幣ルーブル。莫全權 民國全權莫德惠氏。俄方 露國側。

【譯】 露支間に於ける鐵道買收會議は、政府は各省商業會議所より電報を以てループルにて買收するやう請願ありしに因り、一方全國商業聯合會に全國商民の手許に存するループル額を調査せしむると共に、一方莫全權をして露國側に對し、ループルを以てすれば、鐵道買收を應諾する旨回答せしめたり。

(13)

桂省第一方面軍總司令李宗仁通電所屬各部隊云、查粵方將士經與我方合作討蔣、此後對於粵方軍隊、應以友軍稱呼、逆軍等字樣、應即取銷、仰飭屬一體遵照。

【讀方】 桂省第一方面軍總司令李宗仁は所屬各部隊に通電して云ふ、查するに粵方將士は我方と合作して蔣を討つを經たり。此後粵方軍隊に對しては、まさに友軍を以て稱呼し、逆軍等の字樣は應さに即ち取銷すべし、仰いで屬に飭し一體に遵照せしめられたし。

【註】 桂 廣西省の別名。所屬 管轄下又は部下の意。查 公文書の頭に附せられる字にて、勿論調査する意を含むも、按ずるに思ふに等の語に近し。粵方 廣東側の意。經 已にと解して宜し。我方 當方側。合作 協力一致の意。討蔣 蔣介石を討伐すること。應 當然なり。逆軍 叛軍ともいふべきこと。字樣 文字。取銷 取消に同じ。仰 上官の命を仰ぐの意、何々せしむと解す。飭屬 部下に命ずる意。一體 一般に。遵照 其旨を遵奉す。

【譯】 廣西省第一方面軍總司令官李宗仁氏は部下各軍隊に一般電報していふには、按ずるに廣東側將士は已に當方側と協力して蔣介石討伐を爲すこととなりたるに因り、今後廣東側軍隊に對しては友軍と稱すべきであり、叛軍等の字句は當然取消す様、部下に

命に一般に遵奉せしめられたしと。

(14)

國府命令、國府二日令、兼行政院々長蔣中正呈、據漢口市市長劉文島呈稱、社會局科長周之武、呈懇辭職、請免本職應照准、此令。

【讀方】 國府命令、國府二日令、兼行政院々長蔣中正呈す、漢口市市長劉文島呈稱に據るに、社會局科長周之武は、呈して辭職を懇す、本職を免ぜられんことを請ふ、應さに照准す、此に令す。

【註】 國府命令 國民政府命令。兼云々 政府主席兼行政院院長のこと。蔣中正 中正は蔣介石の通稱。呈 政府に呈する意。

【譯】 國民政府命令、國民政府二日附命令、兼行政院院長蔣中正より漢口市市長劉文島は社會局科長周之武の辭職願提出あり、依て本職を免ぜられたき旨申請ありとの申達の件、願の通り認許す、右令す。

(15)

上海專電、瑞典公使、定陷(三十)晨赴京、轉車赴平、留數日、料理使事、再經西比歸國。

【讀方】 上海專電、瑞典公使は、陷晨京に赴き、車を轉じて平に赴き、留まる數日、使事を料理し、再び西比を経て歸國するに定む。

【註】 專電 特別電報。陷 詩韻目第三十なるに因り三十日の日附に代用す。晨 朝。京 南京。料理 處理すること。使事 公使館事務。再 其上にての意。西比 シベリヤ。

【譯】 上海特電、瑞典公使は三十日朝南京に赴き、特別列車に轉

乗して北京に至り、數日滞在の後、西比利亞經由にて歸國するに決せり。

(16)

南京專電、實業部以各地勞資爭議影響産業發展、特製表通咨各省市府、飭屬按月填報、用爲消弭紛糾、及促進協作參攷。

【讀方】南京專電、實業部は各地勞資爭議は産業發展に影響するを以て、特に表を製し各省市府に通咨し、屬に飭し月に按して填報し、用て糾紛を消弭し、及び協作を促進するの參攷と爲す。

【註】通咨 通牒すること、咨は同等官廳に往復する文書。飭屬 管下に命ず。按月 月月の意。填報 記入報告すること。用 以てと同義。消弭 熄滅する如き意、弭は止むること。參攷 參考に同じ。

【譯】南京特電、實業部は各地の勞資爭議は産業發展に影響すると爲し、特に表を作製して各省市政府に通牒し、毎月記入報告するやう管下に命じ、以て爭議の終熄と協力促進の參考となすこととせり。

(17)

南京二十八日無線電、日代辦重光、前電王外長、原定今日來京接洽中日懸案、茲悉重光因事中止、擬於下星期二再來京、與外王接洽。

【讀方】日代辦重光は前に王外長に電し、原來今日來京し中日懸案を接洽するに定めしが、茲に悉するに重光は事に因て中止し、下星期二に於て再び來京し、外王と接洽すと。

【註】日本代辦 日本代理公使と解す。王外長 外交部長王正廷をいふ。接洽 打合せをする、懇談する、相談する等の意。因事 用事のため。擬 せんと欲す、せんと考等の意。外王 外交部長王正廷。

【譯】日本代理公使重光氏は本來今日來京し日支懸案の交渉をするやう、王外交部に電報を以て通告しありたるが、今聞く所に據るに、同氏は事故の爲め中止し、來週火曜日再び來京し、王氏と交渉することとなれりと。

(18)

西安今天氣過熱、陝富平縣沿山一帶麥禾、因受大風黑霜之劫、頗形枯萎、夏收無望、哀鴻遍野、備極悲慘、現該縣官紳、電省請免錢糧、及撥款救濟。

【讀方】西安は今天氣過熱、陝の富平縣沿山一帶の麥禾は大風黑霜の劫を受けたるに因り、頗る枯萎を形し、夏收望無く、哀鴻野に遍く、備さに悲慘を極む、現に該縣官紳は、省に電し錢糧を免じ、及び款を撥し救濟せんことを請へり。

【註】麥禾 麥の穂。頗形 頗る何々を顯すとの意。哀鴻 窮民遍野 原野に充滿す。備 つぶさに、十分にの意。官紳 官憲と非役の官吏。電省 省政府に打電すること。錢糧 租稅。撥款 經費を支出す。

【譯】西安は現在暑氣過度であり、陝西省富平縣沿山一帶の麥穂は大風黑霜に脅かされ、頗る生色無く、夏時の收穫絶望となり、窮民野に滿ち、誠に悲慘を極む、目下同縣に於ける官憲、非役官吏は、省政府に對し、租稅を免除し、及び經費を支出して救濟せ

んことを請求せり。

(19)

遼寧中華民國郵務管理局、於今發出通告、謂在番禺至蒼梧間、開辦航空郵運事務、前於本年四月七日第四〇六號通告週知在案、茲查此項航空郵務、已自本月五日起、暫行停止合行通告週知云。

【讀方】 遼寧中華民國郵務管理局は、今に於て通告を發出して謂ふ、査するに番禺より蒼梧に至る間、航空郵務事務を開辦し、前きに本年四月七日四〇六號に於て通告週知して案に在り、茲に査するに此項航空郵務は、已に本月五日より起り暫く停止を行ひ、まさに通告を行ひ週知すべし。

【註】 遼寧 奉天の新名。番禺 廣東省廣州。蒼梧 廣西省梧州在案。何々し置けりといふ意味。合行 當然何々を行ふべしとの意。

【譯】 遼寧中華民國郵務管理局は今日通告を發して謂ふ、本年四月七日第四〇六號達示を以て廣州梧州間の航空郵便を開始する旨、一般に告知しありし處、今般同航空郵便事務は、已に本月五日より、當分停止するに因り、右通達して一般に告知す。

(20)

近年金貴銀落、全世界金融、無不緊迫、故各地市面蕭條日甚、商工各界、受直接影響、因而商家賠累難支、宣告倒閉者、不計其數、而潛逃者日有所聞、茲聞遼寧商會調查、五月份、省城宣告荒閉之大小商號、共有三十餘家、預想六月間、適值端午節之期、省城各商倒閉者、當必不在少數云。

【讀方】 近年金貴く銀落ち、全世界の金融、緊迫せざる無し、故に各地市面の蕭條日に甚しく、商工各界、直接影響を受く、因て商家は賠累支へ難く、倒閉を宣告する者、其數を計らず、而して潛逃する者日に聞く所有り、茲に遼寧商會の調査を聞くに、五月分に省城の荒閉を宣告せる大小商號、共に三十餘家有り、六月間を豫想するに、適々端午節之期に値ひ省城各商の倒閉する者、當に必ず少數に在らざるべしと云ふ。

【註】 金貴銀落 金價昂騰し銀價低落す。緊迫 逼迫すること。市面蕭條 商業界不景氣。賠累 損失、缺損。倒閉 讓渡、閉鎖。日有所聞 毎日聞く所である。省城 省の首府此處にては奉天をいふ。適值 丁度五月節句に當ること。端午節 五月五日の節句にて結算期。不在少數 少數に非ずの意。

【譯】 近年金相場昂騰し銀相場低落し、全世界の金融逼迫せざるものはない。それが爲め各地の商業日日不振に陥り、商工界は直接其影響を受け、商家は損失して支持出來ず、閉店を宣告するもの數知れず、逃亡するもの毎日絶えず、今遼寧商業會議所の調査を聞くに、五月分には首府に於て閉鎖を發表せる商店は大小共に三十餘軒あり、六月の豫想は時期適々端午の結算期に當るにより、首府の各商にて閉店するものは少數にあらざるべしと。

(21)

國際航空紀念郵戳、歐亞航空、滬滿一段、定於本月三十一日開始運送郵件、交通部郵政總局、爲紀念開始國際航運起見、特鑄製銅質國際航空郵運創辦紀念戳記、令發布各地郵局、訪由開航首起七日內、凡由北平、寄交國內及國外各地之航空郵件、均用

此項紀念日戳蓋銷、以資紀念云。

【讀方】 國際航空紀念郵戳歐亞航空滬滿一段は本月三十一日に定め郵便運送を開始す、交通部郵政總局は國際航運を紀念する爲に見を起し、特に銅質國際航空郵運創辦紀念戳記を鑄製し、令して各地郵局に發し、飭して開航首起より七日内、凡そ北平より國內及び國外各地に寄交するの航空郵便には、均しく此項の紀念日戳を用ひて蓋銷し、以て紀念に資せしむ。

【註】 郵戳 郵便消印。滬滿 上海、滿洲。郵便 郵便物。起見 趣旨により。戳記 印判、印形。鑄 鑄付ける。飭 命ず。開航首起 航空開始第一日より。日戳 消印。蓋銷 捺押して消す。

【譯】 國際航空紀念スタンプ 歐亞連絡航空に於ける、上海滿洲一線は本月三十一日郵便物の運送開始をなすこととなつた。交通部郵政總局にては國際航空輸送開始を紀念する趣旨にて、特に國際航空郵便輸送創始紀念の銅質印形を鑄造し、各地郵便局に發令し、航空開始第一日より七日間、凡て北平より國內及び國外各地に發送する航空郵便には、悉く此紀念スタンプを以て消印し、紀念と爲すべく命ぜしめた。

(22)

致教育部電、南京教育部部長鈞鑒、平市教育因崇關撤銷、經費無着、前蒙匯款補助、賴以維持、現在抵補辦法尙未籌妥、本月經費仍無着落、群情惶恐、不可終日、務請俯念危急、特加矜恤、早日繼續匯撥、以資維持、至爲感盼、除另電周局長請代面陳外、謹此電懇、即候示覆、平市小學教員會儉印。

【讀方】 教育部に致すの電、南京教育部部長鈞鑒、平市教育は崇關撤銷に因り、經費着する無し、前に款を匯し 補助を蒙り、賴て維持せしが、現在抵補辦法尙未だ籌妥せず、本月經費仍無着落無く、群情惶恐し、日を終るべからず、務めて危急を俯念し、特に矜恤を加へ、早日繼續匯撥し、以て維持に資せんことを請ふ、至つて感盼を爲す、別に周局長に電し代つて面陳を請ふを除くの外謹んで電懇し、即ち示覆を候つ、平市小學教員會、儉、印。

【註】 鈞鑒 重々しく見る、御閱覽を請ふの意であつて、書翰文、電報名宛の下に附する形式語である。平市 北平市。崇關 崇文門稅關、從來同門にて商品通過稅を徵收したのである。撤銷 撤廢すること。無着 財源無し、經費の出處なしとの意。匯款 金を爲替する。賴 たよること。抵補辦法 それに相應せる補助方法。籌妥 完全に調達する。仍無着落 矢張り收入の途無し。群情 諸人の心中。不可終日 一日を終る能はず即ち晝夜に亘る意。矜恤 憐み恵むこと。匯撥 爲替を出して支出す。感盼 感激且希望。另電 別に電報す。面陳 直接陳述す。電懇 電報を以て懇願す。儉 韻目二十八、二十八日付の意。印 電報原文に捺印しありたるによる、捺印するは鄭重を意味するのである。

【譯】 教育部に發せる電報。南京教育部部長御高覽を乞ふ。北平市の教育は崇文門稅關撤廢の爲め、經費の財源盡き、先般爲替にて御送付の補助金に依つて維持し來りしが、日下相應すべき補填の途、未だ完全に相立たず、本月分經費は依然財源無く、諸人日夜恐惶しをる次第なり。極力危急御諒察之上、特に憐愍を垂れ、早々繼續爲替を以て支出し、維持を幫助下されば、誠に感激する

次第なり。別に周局長に電報し、代つて直接陳述すべく申請せる外、謹んで右懇願に及べり。即刻御回答あらんことを祈る。北平市小學教員會、二十八日附、印。

(23)

夫婦細故口角、服毒灌救。

邑西南王家堡子村、有王某者、其妻楊氏、於昨因細故夫婦口角、後經人勸解了事、於是晚該婦餘怒未息、竟懷厭世之心、私購大烟少許吞服、後經家人查覺、當延醫灌救、得未殞命云。(遼陽)

【讀方】 夫婦細故にて口角し、毒を服するも灌救せらる。邑の西南王家堡子村に王某なる者有り。其妻楊氏は昨に於て細故に因て夫婦口角す。後ち人の勸解を経て事を了せるも、是晚に於て該婦は餘怒未だ息まず、竟に厭世の心を懷き、私かに大烟少許を購ひ吞服す。後ち家人の查覺を經、當ちに醫を延いて灌救し、未だ命を殞さざるを得たり。

【註】 邑西南 遼陽の西南。其妻楊氏 支那にては女は結婚するも舊姓を改めず、血統を亂るを恐れてなり。細故 詰らぬ事、細事なり。口角 口論すること。勸解 宥め、贖かす。是晚 其夜。餘怒未息 腹の蟲が治まらず。大烟 阿片。吞服 丸呑みすること。查覺 發覺す。當 直ちに。延醫 醫者を請す。灌救 藥を注いで生命を救ふ。殞命 落命と同義。

【譯】 細事より夫婦口論し、毒を仰いで救助せらる。町の西南に當る王家堡子村に、王某なる者有り、妻の楊氏と些細なる事より口論を始めたるが、人仲裁に入り事は收まつたが、收まらぬは妻

の心にて、其夜遂に厭世觀を起し、人知れず少許の阿片を買ひ求めて呑み下した。程經て家人は之を發見し、直ちに醫者を招いで手當を加へたにより、一命を取止めることを得た。

(24)

安民布告、爲佈告事、照得、本旅長駐防茲土、原爲保護地面、維持安寧、爾商民人等、務須各安其業、勿自驚慌、本旅目兵、倘有逾越範圍、勒索強買等情事、儘可即時告發、本旅自必予以重懲、不稍瞻徇、爾商民等、亦不得壟斷居奇高昂市價、致滋意外、爲此示仰各商民人等一體遵照可也、特此佈告。

【讀方】 安民布告 布告の爲の事、照し得たり、本旅長此土に駐防するは、原と地面を保護し、安寧を維持せんが爲めなり。爾商民人等は務めて須く各其業に安んじ、自ら驚慌する勿るべし。本旅の目兵、倘し範圍を逾越し、勒索強買等の情事有れば、儘に即時告發すべし、本旅自ら必ず予ふるに重懲を以てし、稍も瞻徇せず、爾商民等も亦壟斷奇に居り、市價を高昂し、意外を滋くするを致すを得ず、之が爲め示して各商人等に仰がしめ一體に遵照せしむ可き也。特に此に布告す。

【註】 布告 告示。爲佈告事 布告の件といふ如き形式言なり。照得 之も同様公文書の冒頭言にて深き意味不明なり。旅長 我國の旅團長に類す。茲土 此土に同じ。駐防 駐屯の意。地面 土地一切の件。目兵 下士卒。倘 若し。逾越範圍 本分を守らざる意。勒索 強要すること。儘可 遠慮せず構はずの意。予 與と同義、與ふる意、處分と解すも可なり。重懲 重刑の意。

瞻徇 視て放置すること。壟斷 利益を獨占する意。居奇 不當利得を爲すこと。滋意外 意外の出來事を惹起す意。示仰 告示して何々せしむと解す。一體遵照 一般に此旨遵奉せよとの意。
【譯】 治安維持の告示、告示の件、本旅團長此地に駐屯するは、原來土地人民を保護し、安寧を維持せんが爲なり。商民等は務めて安心共業に従ひ、自ら驚慌すべからず。本旅團下士卒にして、萬一本分を忘れ、強要強買等の事情あれば、遲疑することなく即時告發すべく、本旅團は必ず重刑に處し、情實あること無きは勿論なり。商民等も利益を獨占し、不當利得を爲し、市價を引上げ、意外の事件を惹起するを得ず。之が爲め告示し諸商民一般に遵奉せしむ。右特に告示す。

(25)

宏仁堂樂家老藥舖 我樂氏同仁堂開設北平數百年久、以料藥眞實、著稱於世、本堂主人樂衍孫氏、監製百補養榮丸、祛風舒絡丹、百寶濟丸、日月光明散、驅疫生丹、延齡參茸丸等藥、馳名遐邇、銷路暢旺、爲推廣營業起見、特在大柵欄中間路南、設立宏仁堂總經售處、舉凡吾家秘方精製丸散膏丹、膠露藥酒、無不齊備、而湯劑飲片、更行精益求精、以期完善、自開幕以來、頗蒙各界贊許、特減價一個月以答惠。願雅意。

【註】 樂家 樂は姓。料藥 藥種藥劑。著稱 著名と同義。參茸 人參、椎茸の類。馳名遐邇 名を遠近に馳す、到處有名の意。銷路暢旺 販路廣しの意。推廣營業 營業擴張。起見 見を起す即ち趣旨を以ての意。大柵欄 北平の町名。路南 南側。總經售

處 總取次販賣店。舉凡 凡ての意。丸散膏丹 藥種の總稱。膠露 粘質の藥汁。湯劑 煎藥。飲片、錠劑、精益求精 精益求精を求む、精製の上にも精製す。開幕 開店。贊許 好評を博する意。惠顧雅意 御愛顧の好意。

【譯】 宏仁堂樂家の老藥舖 我が樂氏同仁堂は北平に開設すること、數百年の久しきに亘り、藥種藥劑の純眞を以て、世に有名なり。本堂主人樂衍孫氏の監製せる(藥名省略)等の藥は遠近其名を知らぬものなく、販路も廣大なり。今回營業擴張の趣意を以て、特に大柵欄中間南側に、宏仁堂總取次販賣處を設立せるが、凡て我家秘傳處方を以て精製せる丸藥散藥膏藥丹藥、藥汁藥酒、齊備せざるなく、且つ、煎藥錠劑に在りては更に精製に精製を加へて完善を期しつゝあり。開店以來、各方面の好評を博せるに因り、特に一個月割引して愛顧の好意に酬ひんとす。

(26)

金鈔回疲、美日各跌二分、美金鈔 昨日(二十八日)平市美國金票行市、開爲每美金鈔一元、合華幣四元七角二分、結果較前日、計略跌二分。

日金票 昨日(二十八日)平市日本金票行市、開爲每日金票一元、合華幣二元三角四分、結果較前日、計回跌有二分。

【註】 金鈔 金本位紙幣。回疲 軟弱の意。回は舊に戻ることに。美日 米國日本。跌二分 二錢下落。平市 北平市。金票 金紙幣。行市 相場。開 出來合ひの意。合 換算。華幣 支那貨幣。四元七角二分 四圓七十二錢といふ如し。計 合計の意。

【譯】 金紙幣軟弱、日米各二錢下落

米金紙幣 昨日の北平市に於ける米國金紙幣相場は米金紙幣一弗に付、支那貨幣四圓七十二錢換算に出來合ひ、結果は一昨日に比較して二錢の小下落となる。

日本金紙幣 昨日北平市に於ける日本金紙幣の相場は、日本金紙幣一圓に付、支那貨幣二圓三十四錢換算に出來合ひ、結果一昨日に比較し、合計二錢下落す。

(27)

中國電影場
今天日夜映演
胡蝶主演
孟姜女
哭長城
日場三點一、夜場八點三、前排一角、後排一角五分、幼童八分、日夜同價、印花加捐在外

【註】電影 活動寫真、映演、映畫上演。三點一 三點一刻即ち三時十五分。八點三 八時四十五分。前排前列席。一角 銀貨十錢。印花加捐 印紙稅。在外別に申受くる意。

(28)

廣播無線電臺 今日放送節目下午三點至三點十四分中西唱片。三點十四分至六點三十分 吉祥戲院、新艷琴(五花洞) 趙少雲、趙岫雲(打魚殺家) 英梅女士(虹霓關)。八點三十分至四十四分 衆

化樂社唱片。八點四十四分至四十六分 報告時刻氣象。八點四十六分至五十分 報告北平商情行市。八點五十分至五十五分 報告國內新聞暨商業報告(後略、但し十二時終了)

【註】廣播 一般ラヂオ。下午 午後。中西唱片 支那西洋聲樂レコード。戲院 劇場。五花洞 戲題。商情行市 經濟市況。暨 及び。

【譯】省略

支那各省別名

燕 河北	魯 山東	晉 山西
吳或蘇	江蘇	皖 安徽
贛 江西	越 浙江	閩 福建
鄂 湖北	湘 湖南	豫 河南
秦 陝西	隴 甘肅	蜀 四川
粵 廣東	桂 廣西	滇 雲南
黔 貴州	東 東三省	新 新疆

詩 韻 目 録 (電報日附に用ふ)

	上平聲	下平聲	上 聲	去 聲	入 聲
1	東	先	董	送	屋
2	冬	蕭	腫	宋	沃
3	江	肴	講	絳	覺
4	支	豪	紙	寔	質
5	微	歌	尾	未	物
6	魚	麻	語	御	月
7	虞	陽	麌	遇	曷
8	齊	庚	齊	霽	黠
9	佳	青	蟹	泰	屑
10	灰	蒸	賄	卦	藥
11	真	尤	軫	隊	陌
12	文	侵	吻	震	錫
13	元	覃	阮	問	職
14	寒	鹽	旱	願	緝
15	刪	咸	潛	翰	合
16			銑	諫	葉
17			篠	霰	洽
18			巧	嘯	
19			皓	効	
20			哿	號	
21			馬	箇	
22			養	禡	
23			梗	漾	
24			迥	敬	
25			有	徑	
26			寢	宥	
27			感	沁	
28			儉、琰	勘	
29			賺	豔	
30				陷	

尺 牘 (書簡文)

書翰文は之を尺牘といひ、一種の程式に依り鄭重に楷書或は行書體に書下すのであるが、但し我邦に於て口語體を使用する如く、支那に於ても、近來白話體を使用し、ペンを以て横書するものも往々見受けられる。併し正式の場合は依然程式に依るものとせられる。

尺牘程式 (1)名宛 (2)拜啓、前略といふ如き冒頭語 (3)無沙汰見舞のものなれば、久瀾の情を述べ (4)起居を問ひ或は祝し (5)始めて本文に入る (6)右近況を伺ひ上ぐの類の句を置き (7)健康を祝すの類の句を以て終る。但し冒頭の拜啓は省略することあり、名宛は我邦書翰文の如く最後に置くこともある。

例へば

某某仁兄如晤、自遠

叔度、鄙吝復生、馳慕無似、比諭

起居多福、爲頌……………專此奉候、敬請

台安

月 日

弟某 頓首

如晤 面晤するが如し、即ち面談致す如き氣分にて申し上げとの意。自遠叔度 お別れしてよりの意。叔度は尊容といふが如し。先方の起居、容態を表す語は行を更める。鄙吝復生 高教に接せざりしに因り、鄙しき心地が又生じたの意。馳慕無似 思を馳せて慕ふこと此上無しとの意。比諭 此頃思ふの意。爲頌 慶賀の至り。專此奉候 先は右御伺ひ迄の意。敬請台安敬んで御機嫌を伺ふの意、台は敬語。

用 例

(起首語)

- (一) 某仁兄閣下 同等間に用ふ。
- (二) 某先生執事 同上
- (三) 某先生雅鑒 同上
- (四) 某先生講席(教席) 教師に用ふ
- (五) 某仁兄青睞(青目、青覽) 同等に用ふ、好意を以て見る
こと。
- (六) 某先生如晤(如見、如面、如握)
- (七) 某夫子函丈 師弟の關係深きもの。
- (八) 某部長鈞鑒(勛鑒、崇鑒) 上官に對するもの、
某とあるは姓或は號を用ふ、但し近來は名を用ふ。

(啓事語)

敬啓者 普通啓事に用ふ、我邦の拜啓に相當す。

懇啓者 依頼狀

敬懇者 同上

哀啓者(泣啓者) 喪事に用ふ。

敬稟者 上官に使用す

敬覆者 返信に用ふ

覆啓者 同上

啓者 普通

逕啓者 直ちに本文に入るもの、恰も前略といふが如し。

(別離語)

睽遠 叔度 睽は目に見ざること、叔度は貴容といふが如し。尊容
に接せずとの意。

不奉 清談 御高教に接せずの意。

不親 芝宇 尊顔を拜せざる意。元德秀字は紫芝、人曰く紫芝の眉
宇を見れば名利の心散すと、氣宇瀟洒なるをいふ。

奉違 駿采 秀でたる風采をいふ。

疎逖 德暉 德暉は元德秀の如き風格をいふ。逖は遠きなり。尊容
と驅け違ふ意。

拜違 矩訓 師に對して用ふ。教訓に隔たること。

不坐 春風 同上、善く教ゆるを、春風に坐するが如しといふ。

(空格は行を更へること)

(承前)

倏經兩宿 忽ち二日經過す。忽閱旬期 忽ち十日を過ぐ 疊經

旬日 重ねて十日經過す(二十日の意) 彈指三旬 指を屈すれば

三十日 一度蟾圓 一回月の圓きに遇ふ(一個月) 幾更蟾度

幾度か月の形を更ゆ(數ヶ月經過する意) 弦朔頻更 弦は月の上弦

下弦朔は月の初め、日月頻りに更る。忽經半稔 忽ち半年を經。裘

葛已更 皮衣、麻衣已に更る(一年經過)。瞬度一週 忽ち一年を

經る 涼暄幾易 寒暖幾度か易ゆ(數年經過)。疊換星霜 屢々星

霜を換ゆ(數年)。

(思慕語)

晦明風雨、企念時殷。 明け暮れにも風雨にも、頻りに思念す。

望風懷想、能不依依。 尊容を懷想し、思慕に堪へず。

言念故人、形神飛越。 こゝに故人を念し、形神飛越す。貴君を思
念し、精心も空となる意。

思慕 高風、神情渴注。 高風を思念し、心頻りに傾注す。

(聞知語)

邇維 近頃想ふ。遙維 遠隔して思ふ。恭維 伏維 仰維 仰

いで思ふ。

(起居語)

崇祉綏和、清祺暢適。 祉は福なり。祺は吉なり。安らかなり。綏は安らか、邦文の益々御清勝といふが如し。
 福祉罄宜、起居增健。 罄は盡くなり極めて幸福に、起居益々健。
 利路享通、財源廣進。 利益の道は開け、財源擴張す。(商家に對する語)
 佳祉綏和、潭祺暢茂。 御起居安康、御高堂隆昌といふ如き意。

(欣懷語)

大慰五中、曷勝欣快。 心大いに慰められ、誠に欣快に堪えず。五中(五臟)をいひ、心中の意味、曷勝は何ぞ堪えんとの意。
 寸心藉慰、無任歡欣。 藉はそれに依つての意、無任は堪えずなり。
 下懷藉慰、欣忭奚如。 下懷は自分の心、奚如はいづくんぞ如かん、依て安心、欣快此上無しとの意。

(自叙語)

鹿鹿庸才、魚魚末學。 鹿々(碌々)の借音、人の背後に跟隨する意、魚魚は忙はしき形容、頭角も顯はし得ざる凡才、纏り無き淺學、(才學をいふ)
 疾疾未除、時憑湯藥。 疾は病なり、病氣全快せず、常住藥に親む。
 東奔西逐、朝夕靡遑。 東西に奔走し朝夕暇無し。
 事煩如蝸、料理維艱。 蝸は針鼠、料理は處理すること。維艱は維れ苦しむ。仕事が針鼠の如く集まり、處理に苦しむの意。
 毫無片善、可質知心。 片善は小善、質は正す、是非當否を正すこと、知心は知己といふ如し。毫も貴下に正さるゝ程の小善も無しとの意。
 殊乏片長、堪陳同道。 誠に些の貴下に申ぐべき長處も無いとの意。

(告幸語) 幸ひ或事のみ貴下を慰め得るの語

惟幸賤軀暢適、可舒 錦注。 物は粗に通ず、暢適は稍恙無しの意、舒は伸ぶ、錦注は御懸念の意。唯幸にも身體のみは先づ健全にて御懸念を解き得るとの意。
 惟幸賤體平安、毋勞 綺注。 綺注は錦注と同義、美しき念慮、毋は勿れ。唯幸にも無、悉御心配さるゝ勿れの意。

所幸公私暢適、足慰 雅壤耳。幸ひ公私共別段異狀無く、御安心下され度し。

差幸學家平善、足慰 綺懷耳。稍幸にも一家平穩、御配慮下さらぬやうとの意。

文 例

某某仁兄青睞、敬啓者、睽違

芝宇、幾更蟄度、思慕

高風、神情渴注、伏維

福祉罄宜、起居增健、下懷藉慰、欣忭奚如、弟毫無寸善、可質

知心、惟幸賤軀暢適、可舒

錦注耳、

【譯】 拜啓拜眉を得ざること茲に數月、高風を思慕して心も空に候、愈々御清適の段、欣忭致す所に候、小生何等申し上ぐる善事も無之候へ共、身體のみは先ず頑健に候間、乍憚御安心下され度候

用 例

(歸結語)

茲具片函、用表微私。 茲に寸楮を以て微意を表す、具は作ること、用は以ての意。

崑泐寸箋、敬鳴悃曲。 特に書面相認め謹んで意中を申述べ。崑は專らと同義、泐は書記すること、鳴は陳述する意、悃曲は心中。

緣肅蕪函、虔申下悃。 依て書中を以て、謹んで意中を陳ぶ。緣は依て、肅は正す、蕪は亂雜なる、虔は敬んで、申は陳ぶ、下悃は謙遜語。

勅修片楮、奉覆 端台。 寸楮を以て貴下に御返事す。

訪函布悃 書面を以て意中を申し述ぶ。
 肅函鳴謝 謹んで書中を以て御禮を申上ぐ。
 訪楮布賀 書翰を認めて賀意を陳ぶ。
 訪函馳慰 書中を以て御慰め申す。
 崙此佈達 以上何々のみ申上ぐ。

(機嫌を問ふ)

敬請 台安 敬んで御機嫌を伺上ぐ。順候 日社 今日の御機嫌を伺ふ。並候 近祺 近頃の御機嫌を伺ふ。恭請 春安(暑安、秋安、冬安)

(兼て一家の機嫌を問ふ語)

兼候 潭祉 併せて皆々様の御機嫌を伺ふとの意、潭は奥深き意味。
 並候 潭吉 意味同上。

(自愛を望む語)

晨下春寒料峭、仰祈爲道 自玉。 目下餘寒肌を刺すの候何卒道の爲めに御自愛を祈る。
 日下寒煖不常、尙冀 玉攝隨時。(初夏)
 晨下酷暑逼人、仰惟寢鍊自珍。(盛夏) 寢鍊は寢食の意。
 刻下金風乍至、伏冀珍攝 尊軀。(初秋) 金風は秋風なり、秋は金に屬す。
 日下凜冽朔風、伏祈順時珍爰。(暮冬) 北風寒冷時に應じて自御愛あれ、爰は調和すること。

(結尾語)

筆不盡宣。思ふ事を述べ盡さず。不盡鄙衷。同上。未罄家私。意中を盡さず。罄は盡なり、家は書體名なれば書信と解す。不備、不宣。不一、専らならず。不既 盡さず。不贅 管々しく言はず。不縷 同上。不莊 亂筆御免。

用 例

..... 茲具片函、敬鳴悃曲、敬請
 暑安、兼候
 潭祉。筆不盡宣。

月 日

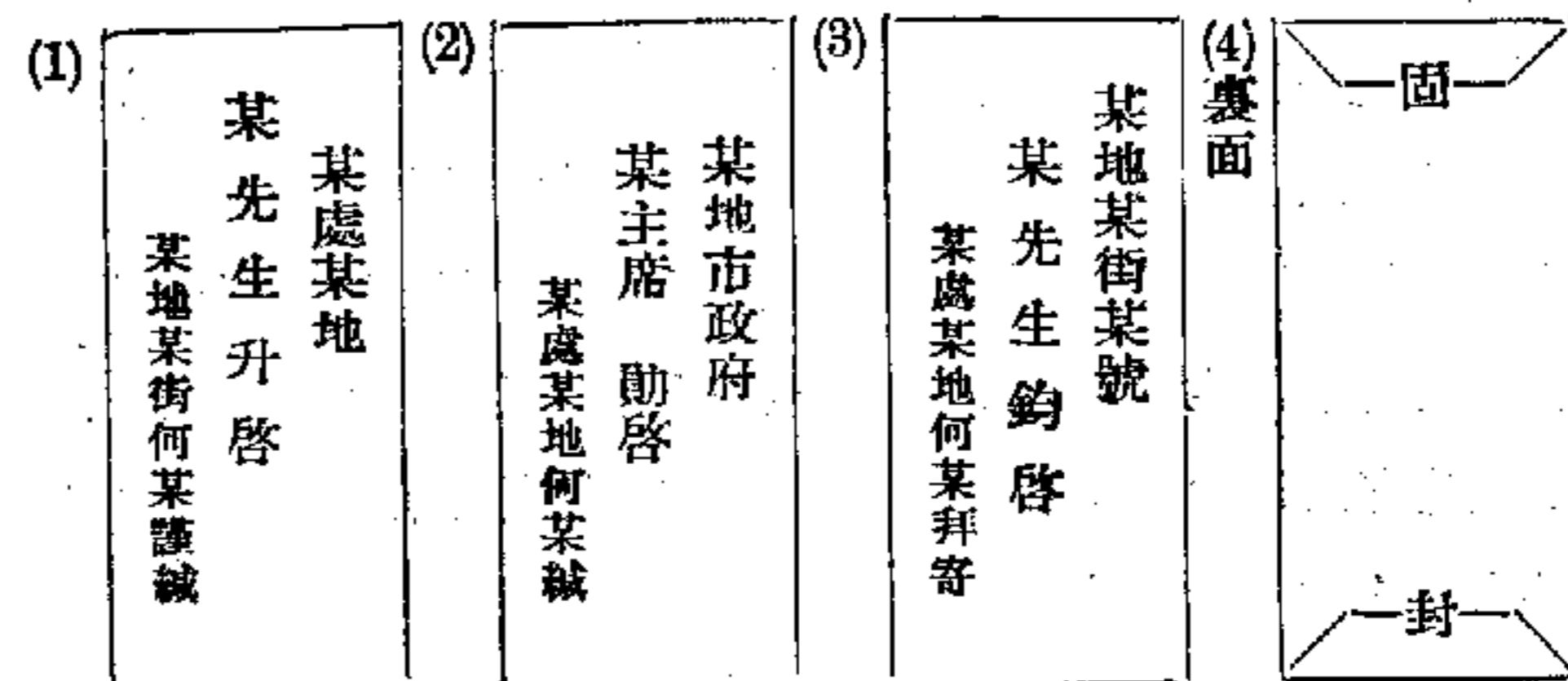
弟何 某 頓首

(頓首語)

頓首、拜、再拜、鞠躬、免冠、朝子を脱ぐと。手啓、謹啓、手上。

封筒書式

封筒は西洋封筒の外は成るべく模様あるものか、又は中央に赤色を施せるものを使用するを可とす。中央に藍條あるものは喪中用のものなれば、平常は使用せず。但し近來形式を重視せざる傾きあり、藍條以外のものなれば、日本封筒を使用するも宜し。其様式次の如し。



文 例

請 帖 式(招待状)

謹占某日潔觴奉迓

台駕

何某拜訂

假席其處

【註】 占は卜ともいひ占ふこと。潔觴 杯を清む。迓 迎。台駕 先方の車、即ち貴殿の意。假席 席を借ること

台駕は中央に一字上げて書き、招待者の姓名は其下方に書き誌すものとす。本例は略式である。

【譯】 某日一献差上げ度候に付某處迄御來駕被下度待上候

何某 拜

請 人 啓(招待書翰)

某先生鈞鑒啓者、某日某時在某處略備小酌、奉請

台駕、降臨一叙、同座有某兄等幾位、並無別客、乞勿見却、

幸甚、此訂、即候

刻安

【註】 降臨一叙 御來臨御款談下されたしとの意。幾位 數人。並 別段の意。見却 却けらる、御断りの意。此訂 こゝに定む、即ち右御招待迄の意。即候刻安 取敢ず只今の御機嫌を伺ふ意。

【譯】 拜啓某日某時某處に於て粗酒差上げ度候に付御來臨被下度候、同席者は某君等數名にて他に客人無之候間御承引被下度候右御案内申上候

某某仁兄閣下、啓者、本月某日準四點鐘、

在某處便章一叙、務望屆時早爲

惠臨、幸勿見却、是荷、此訂、順請

午安

弟某某鞠躬拜訂

【註】 準四點鐘 正四時。便章 略裝。務 是非。屆時 定刻。

是荷 有難しの意、恩を擔ふこと。午安 正午の御機嫌。

【譯】 某兄足下 拜啓本月某日正四時某處にて御高説拜聽致度に付是非定刻早々略装にて御來駕被下度必ずとも御承引の程祈上候。

右案内迄得貴意候

答 赴 (出席)

某仁兄鑒、覆者、頃奉

手札、即荷

寵召、銘感殊深、弟自當如時到某處一叙、

餘容晤罄、先此佈謝、並候

晚安

【註】 頃奉手札 只今御書面に接す。即荷寵召 光榮ある招待を擔ふ即ち御招待を蒙る意。銘感 肝に銘じて有難し。自當 勿論當然の意。如時 時間通り。餘容晤罄 餘は晤罄を容せ、即ち餘は拜晤の上委細申し上ぐとの意、晤は面晤、罄は盡くす。佈謝 謝を陳ぶ。

【譯】 拜復 唯今御招待の御書面に接し深く感銘致し候。小生勿論定刻某處に參上御高話拜聽可仕、餘は拜眉に讓り申候。取敢ず右御禮迄如此に御座候。

答 辭 謝

某某先生青鑒、覆者、頃奉

瑤函、辱荷

寵召、銘感曷既、弟本當遵

命如期趨約、奈因是日有緊要事件、萬難分身、惟有心領而已、

方

命之愆、尙希

原宥、是禱、專此布謝、並候

早安。

【註】頃 只今。瑤函 玉函といふ如く敬稱である。辱 かたじけなうす、辱けなくもの何れに解するも可なり。曷既 何ぞ盡きんや、盡きずの意。本當 本來何々致す筈の處との意。遵命 御申越の如く。趨約 招待に赴く、出席する意。奈因 奈何せん何々の爲め、何分にも何々に因り。是日 當日。萬 到底の意。惟只。心領 好意を心に領す、即ち 好意のみを御受けする意。方命命に違ふ。愆 あやまち、罪。原宥 ゆるす、宥免、宥恕の意。

【譯】拜復只今御招待の御書面に接し、誠に感激に堪えず候小生本來仰出の如く定刻參上致すべきの處、何分當日要件有之如何にも都合致兼ね只御芳志のみ御受け仕候。御厚意に相背き候罪偏へに御宥恕被下度候。先は右御斷り迄如斯に御座候。

謝 擾 (御馳走の禮)

某某先生台鑒 啓者、昨承

寵召、過蒙

盛設、歸家大醉、實勞

清神、兼失禮貌、且感且愧、茲具寸楮、先爲申忱、容日趨

府面謝、即請

台安

【註】過蒙盛設 過分なる饗應を受くとの意。勞清神 御心遣ひ相懸くとの意。禮貌 禮儀。寸楮 書面の意。申忱 意中を述ぶる意。容日趨府 近日參上致すべしの意、容は許容すること、趨は大股にて歩かず、小走りすること、恐惶の狀を示す。

【譯】拜啓昨日は御招待の上、過分なる御饗應相受け歸宅後大醉仕候、誠に御配慮相懸け失禮致候段、感謝致すと同時に慚愧致す所に候、近日參上御禮申上ぐる筈なれ共取敢ず意中申述度如此に御座候。

約 突 (圍碁に招待)

某先生青陳 啓者、邇來晝長如歲、絕無聊賴、因俛某君、相邀

大駕、祈即移

玉至某處、共賞橋遊之樂、弟先趨侍候矣、

此佈、並請

刻安、

【註】邇來 近來。晝長 日長し。如歲 一年の如し、非常に長きをいふ。絕無聊賴 何等用事無き意。無聊なり。因俛 因て依頼すとの意。邀 迎へる。移玉 玉歩を移す即ち御來駕といふ如し。賞 遊ぶこと。橋遊 圍碁のこと、昔三年實を結ばざる橋樹があつた、後に至り大橋一個を結ぶ、剖いて見ると二人の老人が象棋を差してをつたとの故事が有り、それより圍碁にも此語を使

用するのである。侍候 謹んで待つ意、侍は従者等の侍立する如く形を正しくする意。

【譯】 拜啓昨今甚だ日永と相成無聊に堪えず候、依て貴殿を邀へ、烏鷺を闘はせ度存じ、某君に托し早速御來駕被下様御願ひ致せし次第に候小生は先着謹んで待上候。右御誘引迄。頓首

約碰和(骨牌遊びに誘ふ)

某仁兄如見、啓者久擯樗蒲、輒覺技癢、邇來日長如歲、簷雨如繩、抱膝齋頭、學老僧之入定、悶如何也、閣下與僕同癖、倘得閒暇、尙祈屈移玉趾、降臨寒舍、作葉子之戲、遣此愁懷、知兄憚雨阻、因命小价、敬以帷車恭迓、此達、順請刻安

【註】 擯 斥ける、推しやつて手にせざるをいふ。樗蒲 本來は雙六の名なるを近時は骨牌戯をいふ。輒 即ちなり、常なり。技癢 技倆有つて施す機會無きをいふ、俗に腕が鳴るといふ如きに類す。簷雨如繩 軒に滴る雨の間斷せざること繩の如きをいふ。齋頭 書齋。入定 參禪無言の意。悶如何 悶々の情何に如かんや即ち悶々何に譬へやうも無しとの意。同癖 嗜好同じ。倘 若し。葉子戯紙牌、骨牌即ち麻雀の遊をいふ。遣 散じ開くこと。雨阻 雨に妨げられるをいふ。小价 童僕。帷車 幌のある車、人力車の類。

【譯】 拜啓久しく骨牌に遠ざかり、毎時腕鳴りを覺え居候近來日永と相成り軒端に滴る雨の音絶えず膝を抱へて書齋に蟄居し、老

僧無言の業を眞似るも誠に悶々の情堪え難く候。貴兄小生と同嗜好に候故若し御閒暇も有之候はゞ拙宅迄御來臨骨牌遊びに悶々の情を遣り度と存じ候。貴兄は雨をは御厭ひ故使に命じ車を以て御迎ひ申上候

答

某仁兄如晤、覆者、刻間盛伴抵臨、得以展誦瑤章、謹聞壹是、辱蒙仁兄雲誼、小弟自當從命、奈今日適有葭葦之戚遠來、勢難撇却、因此有拂雅意、不勝惶慚、詰且登堂負荊、以聽驅使、叨在愛末、幸賜曲原、即候日祺。

【註】 刻間 現在。伴 僕人、盛伴は敬稱。抵臨 至り臨む即ち至る意。展誦 開いて讀むこと。瑤章 御書面。壹是 一切。雲誼 雲は高き意、高誼をいふ。自、當 勿論當然。奈 如何せん何分にも、葭葦之戚 疎遠の親戚、葭葦は葭の中の薄い膜をいふ即ち薄き意味。撇却 拂ひ除く、拒絕する。拂 拂ひ去る、逆ふ意。惶慚 恐惶慚愧。詰且 明日。負荊 茨の枝を背負ひて責を受くこと、御詫致すとの意。職驅使 何の命令に従ふこと。叨在愛末 忝ふして愛の末にあり、御愛顧を蒙る意。曲原 曲げて宥恕す。

【譯】 拜復只今御使者來宅御書面拜誦一切了承致候。折角の御厚

情なれば當然仰に従ふ筈に候へ共何分本日平素疎遠の客人來舎致し居り、振捨てること相成らず、誠に遺憾ながら御好意に背く次第に候、何れ明日參上幾重にも御詫申上げ何にても仰せに従ふ心組みに候間平生の御交誼に免じ御諒恕被下度候。

辭行(暇乞)

某仁兄台鑒、啓者弟準于本月念二日上午九點鐘、動身赴某處、本應親造

尊府告別、奈因行期匆迫、諸事忙甚、未暇造別、伏希原宥、專此佈達、即請台安

【註】準 決定す。念二日 二十二日。動身 出發す。本應 本來當然。親造尊府 自身尊宅に至る意、造は至ること。行期匆迫 旅行期日切迫。造別 參上暇乞をなす。專此 専ら暇乞ひのみを誌す意。佈達 申上ぐの意。

【譯】拜啓 小生本月二十二日午前九時出發某處に赴くことに決定致し候。本來當然參上御暇乞致すべき筈の處何分にも期日切迫諸事繁忙を極め居り參上御暇乞の暇無之何卒不惡御用捨被下度候。先は御暇乞迄右の如くに御座候。尙貴下の御機嫌伺上候。

答

某仁兄如搦、敬覆者、頃奉手示、悉閣下擬于某日榮赴某處、容明日趨府當面送別、先此佈覆、順候

刻安

弟何某 頓首

【註】如搦 握手して申上ぐとの意を有す。頃奉 只今接す。悉知る。擬 せんと欲する意。榮赴 敬稱にて御出發なり。容 許容す。趨府 參堂。送別 見送りす。先此 取敢ず右云々の意
【譯】拜復只今御書面拜誦し貴兄某日某處に御出發の由承知仕候。就ては明日參堂御見送り致度所存に候。先は取敢ず御返事のみ右の如くに候。頓首

介紹

某某先生鑒、敬啓者、連旬不晤、念甚、茲因某君、渴慕盛名、志切瞻韓、祇以素昧生平、不敢孟浪造府、特來寒舍、命弟作爲介紹、以領雅教、務求駕降蝸廬、弗却是幸、尚此佈懇、順請近安

【註】連旬 旬は十日、數十日をいふ。念甚 甚だ思念す。茲今、今回、今般等の意。渴慕 口渴して水を欲する如く思慕すること。志切瞻韓 志は韓を瞻るに切なり、即ち切に拜頌を希望すること、瞻は見る、韓は韓退之である即ち先方の人を韓退之の如く才智あるに見立て、いふ。祇 只。素昧生平 素と生平に昧し即ち平素面謁せしこと無きをいふ。孟浪 不躺に、やたらにの意蝸廬 蝸牛の如き小屋。弗却 卻けず。

【譯】拜啓久敷拜晤を得ず深く御案じ申上候、今回某君御高名を

渴慕致し切に御面晤を得度く熱望致居候へ共只從來御面調の榮を得たること無之、不躰に參堂致すも如何かとて特に拙宅へ罷越し小生に紹介の勞を取り御高説承り度旨依頼致候に付御聽入れの上茅屋迄御來臨被下候はば造化に存候。

留字致意(置手紙)

某先生台鑒、啓者、適間造

府問候、不意

台駕公出、未得晤談、悵甚、茲藉楮墨、先爲道意、假日再來面

叙積悃、此致、即請

晩安

【註】 適間 たまたまの意。問候 機嫌を伺ふ意。不意 圖らずも。晤談 會談すること。悵甚 甚だ残念。藉楮墨 紙墨を借り。道意 意を陳ぶ、來意を陳ぶ。假日 日を假る、何れ近日の意。面叙積悃 面會の上積る意中をお話し致す。

【譯】 拜啓適々御機嫌奉伺迄參上致候處計らずも御外出中にて御面晤を得ず残念の至りに候。依て只今筆紙を拜借致し取敢ず來意申述へ候何れ近日又々參上積る意中を御面談致す考に候以上。

答

某先生青鑒、覆者、頃蒙

過訪、適弟因事他出、以致失迎、抱歉殊深、假時尙望移

玉一談、盼甚、但

閣下何日下顧、請先

示知、以便恭候、不然又有失迎之愆、罪莫大焉、專泐、敬謝

玉趾

【註】 抱歉 遺憾に思ふ意。假時 時を假る、何日の意。移玉 御來臨。盼 希望す。下顧 御來車といふ如し。恭候 待ち奉るの意。失迎 失迎と同義、不在にて失禮すとの意、愆 過。專泐 専ら此件のみ認む。謝玉趾 御足勞を謝す意。

【譯】 拜復唯今御來訪の處折柄用事の爲め外出致居り御目に懸るを得ず残念至極に御座候、近日中更めて御來車被下度待上候。尙留守に致しては甚だ相濟まず候間御來臨の日時御一報被下度候。先は右不在御詫申上度如此に候

詢何時得晤

某先生台鑒 啓者今日晋謁

尊處、不遇爲悵、茲將香港敝友某君原札一並奉上、何時可以會晤、望所

示知、弟將於下月念一口前、離此他往、此佈、並請刻安

【註】 晋謁 進み至る意。將香港云々 將は何々を取つてと讀み何々をとの意に解す。原札 書信原文。一並 一併に同じ、全部の意。將於下月 將はまさに何々せんとすとの意であつて前者と同一ならず。佈 申述ぶ。

【譯】 拜啓今日參上致候處拜晤を得ず残念に候今香港在住の友人よりの書面全部御送付致候、何時拜肩を得べく候哉。御一報被下度候。小生は來月二十一日以前當地を去る筈に候。以上。

慰病臥

某先生鑒、啓者、松翁來述、知

閣下近抱微疴、臥床服藥、曷勝馳念、惟古人養病之法、以保攝

爲上、藥餌次之、所願靜心息慮、慎起居、避風寒、自當不日就痊矣、此致、即請

日安

【註】抱微 輕微なる病を得る意。曷勝馳念 何んぞ馳念に勝へん、甚だ御心配致す意。惟 思ふ意。保攝 養生。爲上 第一と爲す。所願 願ふ所、相手方に願望するなり。息慮 心配を止めること。自當 自然さうあるべきであるの意。就痊 全快に向ふ。

【譯】拜啓松氏より貴殿御病氣御臥床の趣承り懸念罷在候古人療養の法は養生を第一とし薬は二の次と致し居り候。何卒心氣を平靜にし心配を止め、起居に注意し、風寒を避けられ度、斯くして自然間もなく快癒に向ふ可きものに候、右御見舞迄如此候

同

某先生青鑒 陔遠日久、思念時深、每憶

云暉、輒深迴溯、近聞

貴體違和、甚爲馳念、邇來乍寒乍暖、諒是感冒風邪、務須延請

良醫、細心調攝、祇雲天修阻、不克躬親問候、悵悵何如、惟

望善爲

珍重、吉人自遊

天祐、茲有鱗便、敬紡數行、用候

痊安、並詢

近祺

【譯】陔遠 遠ざかり背馳する。每憶元暉 貴下を思ふ毎にの意。元暉 先方の容姿を指す。輒 即ち。迴溯 思念する意、流に沿ふ

て下るを洞といひ、流を遡るを溯といふ、流を上下して去らざること。違和 和を違ふ即ち疾病に罹る意。馳念 念を馳す、懸念すること。邇來 近來。乍寒乍暖 急に寒く急に暖き意。諒 察す。調攝 養生す。祇 只。雲天修阻 修は長し、隔は阻てらる、即ち遠く離る意。不克 能はず。躬親 身自ら。何如、何ぞ如かん、此上無しとの意。吉人 吉人自ら天祐を邀ふ、吉相の人は天祐有りの意。鱗便 魚書即ち魚腹に書状を収めて送りし故事あり。用以て。痊安 平癒なり。近祺 近頃の御機嫌。

【譯】拜啓久しく拜眉を得ず御起居如何にと深く懸念罷在、尊容を憶ふ毎に常に深く思慕の情禁ずる能はず候、近頃承れば御病氣の由誠に御心配申上候。目下寒暖定め無き折柄、定めし感冒と存候、必ず共良醫を招き細心御養生の程希望候。何分遠隔の地、親しく御見舞致し難く、残念此上無く候、吉人は天祐有り、唯幾重にも御珍重の程祈上候。茲に好便に托し一書相認め御見舞申上候。

慰 喪 父

某仁兄台鑒、敬啓者、頃接

訃報、驚悉

令尊翁老大人跨鶴仙遊、曷勝傷惋、在

閣下素秉仁孝、定必悲慟異常、然哀毀太甚、致損形神、亦非孝

也、伏望以禮節哀、是所切盼、專此佈慰、敬請

禮安

【註】驚悉 驚いて知る。跨鶴仙遊 仙人となつて天に上る。即ち死去の意。傷惋 悲哀に心を傷む、惋も傷むこと。素秉 素性、天性の意。哀毀 哀痛なり。損形神 心身を傷むる。以禮節哀

大切な喪禮を思ひて悲哀を節する意。

【譯】 拜啓只今御書面に接し御尊父様御逝去の由承知仕り悲痛此上無く候、貴殿に於かせられては天性御孝心深き事故定めし如何ばかりか御愁傷の事と拜察し奉り候。併しながら御哀愁の極身心を損ずるも孝には無之、伏して大禮を以て悲を節せられる様切望に堪えず候先は御慰安申述度如此に御座候

慰 喪 母

某某先生鑒、敬啓者、昨晤某翁、驚知令堂太夫人駕返瑤池、不禁悲憾、但望閣下寬想節哀、以慰在天之靈、弟因公事羈身、不獲躬親叩奠、薄具楮儀、伏冀鑒納、幸甚、此佈、即候禮安

【註】 瑤池 神仙の住む處とあり。寬想 心を廣く持つ。羈身束縛せらるの意。不獲躬親叩奠 自身親しく參拜するを得ず。薄具楮儀 聊か紙料を具ふ、葬儀の際紙にて作りたる家屋車馬貨幣を墓前に焼くの禮あり、紙料は此意味を有す。鑒納 見納なり、御受納あれの意。

【譯】 拜啓昨日某氏に面會致し御尊母様御永眠の由拜承、悲痛且残念の至りに候。貴殿に於かせられては心を寛宏にして哀愁の情を節し在天の靈を御慰め申す事肝要に候。小生公務に絆られ親しく參拜致し兼候へ共聊か御紙料を具へ候に付何卒御受納被下度此段御慰問申上候

謝 照 拂(世話になりし禮狀)

某先生鈞鑒、敬啓者弟此次前往貴國察看工商務、荷承執事接待、欸待一切、極爲優渥、並承指教、諸事獲益尤多、言念盛情、銘感不已、弟於十月八號回至東京、一路托庇平順、堪慰錦懷、茲特函鳴謝、以致寸誠、敬頌台祺、維希朗照、不具、

【註】 執事 貴殿といふに同じ。欸待 歡び接待す。優渥 優り厚きこと。獲益 益を得る。言念盛情 こゝに盛情を念す、御厚情を思念すとの意。托庇 御蔭に依つて。平順 平穩順當。錦懷 御念慮の意。鳴謝 謝を鳴らす御禮を申上ぐ。頌台祺 御安康を祝す。維希朗照 只御判讀を乞ふといふ如き意。不具 纏らざる意。

【譯】 拜啓今回工商業視察の爲め貴國へ參り候節は御手厚き御待遇に預り且御指教を蒙り諸事益する所更に多大に有之候御厚情を思念し感銘已ます候、小生御高庇に依り一路平順東京に歸着仕候に付何卒安心被下度茲に特に書中を以て衷心より御禮申上候。終りに臨み貴殿の御安康を祝し上げ候

餽 遺(贈物)

某先生鑒、盛紀辱臨、得悉先生清恙全釋、昕夕享嘉、爲慰、茲具人參一匣、燕窩兩函、即交台使遞呈、伏望

晒存、勿嫌輪蓑、順候

安祉、餘惟

珍攝

【註】 盛紀 紀は人の僕をいふ、御使の者。釋 癒ゆること。听朝なり、听夕は起居の意に解す。享嘉 蟠りなく通じて安泰元氣嘉良の意。人參 藥種。燕窩 南洋の魚肉海草にて造られたる燕の巢、食品にて補血の効あり。交 交付す。台使 貴家の使者。遞呈 轉送なり。晒存 笑納。輪蓑 輕小にて穢らしきこと。順候安祉 併せて御機嫌を伺ふ。餘惟珍攝 餘は只管自愛あれの意。

【譯】 拜啓御使の者來舍貴下御全快御起居御安康の由承り欣喜致候。茲に人參一箱燕巢二箱貴使者より御轉贈致候に付輕小見苦しき物には候へ共御笑納被下度、併せて御機嫌同上げ尙ほ御自愛祈上げ候

同

某先生如握、昨舍親送來螃蟹兩籠、其味甚佳、因思

足下最喜此物、弟不敢獨享、乃分其半、敬以持贈


故人、聊佐菊醕、望祈

笑納、順請

文安

【譯】 拜啓昨日親戚より蟹^{かに}二籠到來、味甚だ宜しく候貴兄の最も御好物なるを思ひ獨り樂むに忍びず折半の上菊見酒の料にもと存じ御贈呈致し候に付御笑納被下度併せて御機嫌同上げ候

(終)

刷行行行行行行 印發發發發發發 版版版版版版版 一 二 三 四 五 六 七 第 第 第 第 第 第 第 日 日 日 日 日 日 日 十 五 十 十 十 十 十 三 五 十 十 十 十 十 月 月 月 月 月 月 月 八 九 九 四 五 五 三 年 年 年 年 年 年 年 六 六 六 七 七 七 八 九 和 和 和 和 和 和 和 昭 昭 昭 昭 昭 昭 昭	支那語四週聞	不許複製		定價壹圓五拾錢
著者 宮 島 吉 敏	發行所 佐 藤 義 人 東京市本郷區湯島六丁目二十八番地	印刷者 吉 原 良 三 東京市牛込區早稲田區徑町百七番地	→←	
發行所				
大學書林				
東京市本郷區湯島六ノ廿八				
電話小石川四五六七番				
振替東京四三七四〇番				

(岩淵製本)

廣文社印刷所印行

語學四週間叢書

本叢書は凡て一日一課、文法譯讀兼習で四週間で語學が一通り會得される組織になつており、發音は音標文字と口形圖にて指導され、特に質問券によつて責任應答の特典があります。即ち世上幾多の參考書中最も低廉且つ最も責任ある叢書であります。

森 備 郎 著	獨 逸 語 四 週 間	四六判布裝 總頁 400 頁	1.50 .10
德尾俊彦著	佛 蘭 西 語 四 週 間	四六判布裝 總頁 360 頁	1.50 .08
松 本 環 著	英 語 四 週 間	四六判布裝 總頁 450 頁	1.50 .10
德尾俊彦著	伊 太 利 語 四 週 間	四六判布裝 總頁 350 頁	2.00 .08
岡澤秀虎著	露 西 亞 語 四 週 間	四六判布裝 總頁 320 頁	1.50 .08
宮島吉敏著	支 那 語 四 週 間	四六判布裝 總頁 270 頁	1.50 .08
小野田幸雄著	エスペラント四週間	四六判布裝 總頁 300 頁	1.50 .08
松 本 環 著	英文解釋四週間	三五判布裝 總頁 450 頁	1.50 .08
笠井鎮夫著	西 班 牙 語 四 週 間	四六判布裝 總頁 360 頁	2.00 .08
星 誠 著	葡 萄 牙 語 四 週 間	未 定	未定
白根孝之著	希 臘 語 四 週 間	未 定	未定
村松正俊著	羅 典 語 四 週 間	未 定	未定
出村良一著 竹内幾之助	蒙 古 語 四 週 間	未 定	未定

各國語發音叢書

語學の基礎であり、出發點である發音を各國語に亘つて明快に説いてゐる最も簡便にして且つ廉價なる叢書です。發音はすべて國際音標文字と振假名を併用し、困難なる發音には口形圖を挿入し、正確を期してあります。讀者券を添附し、著者との質問應答の門戸も開放してあります。數多の讀者に歡迎されるまた故なきに非ずです。

藤原 肇 著	獨 逸 語 發 音 五 時 間	四六判紙裝 總頁 50 頁	.30 .02
齋藤一寛著	佛 蘭 西 語 發 音 五 時 間	四六判紙裝 總頁 90 頁	.50 .04
大西雅雄著	英 語 發 音 五 時 間	四六判紙裝 總頁 60 頁	.30 .02
松浦珪三著	支 那 語 發 音 五 時 間	四六判紙裝 總頁 80 頁	.60 .04
大西雅雄著	國 語 の 發 音	四六判布裝 總頁 120 頁	1.00 .06
八杉貞利著	露 西 亞 語 發 音 五 時 間	四六判紙裝 總頁 100 頁	.60 .04

以下各國語發音續刊の豫定

獨逸語參考書

高坂義之共著 W.ロート	高等獨作文	四六判布裝 總頁 250頁	1.20 .08
江上敏著	獨逸文の構造	四六判紙裝 總頁 160頁	近刊
内田貢編	獨逸常用熟語一千句	四六判布裝 總頁 180頁	1.00 .06
内田貢編	獨逸語名詞の性	四六判紙裝 總頁 52頁	.30 .02
渡邊格司著	獨逸語造語法	四六判紙裝 總頁 106頁	.60 .04
磯部幸一著	獨逸醫文の書き方	四六判布裝 總頁 170頁	1.50 .06
岩本經丸著	初步獨逸文法要訣	四六判布裝 總頁 360頁	2.00 .08
岡田俊一著	暗記用獨逸文法	四六判紙裝 總頁 100頁	.70 .04
成常良著	基本獨逸文法	四六判布裝 總頁 170頁	1.30 .06
森徳郎譯註	大旋風 (ヘッセ)	四六判紙裝 總頁 80頁	.50 .04
長守善譯註	世界經濟 (レブケ)	四六判紙裝 總頁 70頁	.50 .04
廣野利録譯註	賃労働と資本 (マルクス)	四六判紙裝 總頁 140頁	.90 .06
荒木時次譯註	獨逸大學の自己主張 (ハイデッガー)	四六判紙裝 總頁 42頁	.30 .02
大學書林編	獨逸習字帳上・下	四六倍イフセ トフ刷 24頁	各 .30 册 .04
大學書林編	獨逸語基礎千五百語	三五判紙裝 總頁 80頁	.50 .04
大學書林編	獨逸語常用單語六千	三五判紙裝 總頁 350頁	1.50 .06